

授業科目名： 物理学を学ぶ（力学I）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：筒井 和幸、蓑 茂 工将、小池 貴久、中田 祥之
			担当形態： 単独・クラス分け
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュートンの法則に基づく力学的概念および力の法則と、座標系、位置、速度、加速度、質量、運動量、力、仕事、エネルギーなどについて理解し、説明することができる。 ・各種運動を記述する運動方程式を立てることができる。 ・運動方程式から、どのような運動が起こるか、どのような力がはたらいているか、を求めることができる。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の状況を具体的に想像し、問題を解く上で必要な図やグラフを描き、数式としても表現できる。 ・問題を解く過程を論理的に記述でき、他者に分かりやすく説明できる。 ・計算の結果が妥当なものか、どこかおかしいか評価できる。 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑問点や分からないことを明確にし、必要であれば教員や友人やその他の情報源を活用して、それを解決できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>科学を学ぶ上で、物理学の知識と考え方は極めて重要である。本授業では、力がはたらくときの物体の運動を記述する「力学」を学ぶ。物体の位置と速度と加速度の関係、物体にはたらく力と加速度の関係を学び、自然現象を数理的に考えることを目標とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：力学の考え方、数学的準備としてのベクトルと微分積分</p> <p>第2回：力の表し方、力のつり合い、いろいろな力</p> <p>第3回：剛体のつり合い、質点の位置・速度・加速度</p> <p>第4回：運動の3法則</p> <p>第5回：平面極座標による運動の記述、慣性力</p> <p>第6回：回転系における慣性力</p> <p>第7回：等速度運動と等加速度運動、3次元の運動</p>			

第8回：振動運動

第9回：速度に比例する抵抗がはたらくときの運動

第10回：運動量と力積、運動量保存則、反発係数

第11回：角運動量保存則

第12回：仕事と運動エネルギー

第13回：エネルギー保存則

第14回：保存力とポテンシャル

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

関西大学工学部物理学教室 関西大学システム理工学部物理・応用物理学科編 『力学（上）』（学術図書出版）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

定期試験60%、レポート40%の割合で評価する。

授業科目名： 電磁気学I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北村 敏明
			担当形態： 単独・クラス分け
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 基本的な電場に関する知識を習得する。</p> <p>a) クーロンの法則および電荷が電場から受ける力について理解する。</p> <p>b) 様々な形状の電荷からの電場を積分によって求める方法について知る。</p> <p>c) 様々な形状の電荷から簡易に電場をもとめるガウスの法則について理解する。</p> <p>d) 電位計算について理解する。</p> <p>e) 電気容量について単純な形や絶縁体を挿入した場合について計算できる。</p> <p>2. 様々な静電気分野の問題に触れ、複雑な応用問題への解答方針を立てられる。</p> <p>3. 静電気分野の数値計算の基礎を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>電磁気学においては、電気現象と磁気現象を扱う。これらは互いに密接に関係しているが、電磁気学Iにおいては、その相互作用が無視できる静電場について学習する。まず、電気現象の元となる電荷、およびクーロンの法則について説明を行う。次に、様々な場合の電場ならびにガウスの法則について学ぶとともに、電位の求め方について理解を深める。そして、電気回路で馴染みのあるキャパシタ等の事柄について、物理的な解釈を含めて理解できるようにする。本講義においては、演習問題を多く取り上げ、内容の理解を深めることができるように努める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：クーロンの法則</p> <p>第2回：電荷の性質</p> <p>第3回：クーロンの法則の応用</p> <p>第4回：点電荷による電場</p> <p>第5回：連続的な電荷分布による電場</p> <p>第6回：静電場</p> <p>第7回：ガウスの法則</p> <p>第8回：ガウスの法則の応用</p> <p>第9回：点電荷による電位</p> <p>第10回：連続的な電荷分布による電位</p>			

第11回：電気ポテンシャルエネルギー

第12回：電気容量

第13回：誘電体

第14回：キャパシタ

第15回：講義のまとめ、到達度の確認、講評

テキスト

ハリディ、レスニック、ウォーカー共著 野崎光昭監修『物理学の基礎3 電磁気学』（培風館）

参考書・参考資料等

渡辺征夫、青柳晃共著『工科の物理 電磁気学』（培風館）

小柴正則『基礎からの電磁気学』（培風館）

熊谷信昭『電磁理論』（コロナ社）

佐藤和紀、大山龍一郎、上瀧實、春名勝次、金井徳兼、高嶋信也共著『基礎がわかる電磁気学』（朝倉書店）

学生に対する評価

定期試験を行わず、到達度の確認(筆記による学力確認)と平常成績で総合評価する。

到達度の確認 (70%)、平常成績 (30%)

履修者数が多数になった場合には、成績評価方法を「定期試験 (16週目)」に変更することがあります。

成績評価方法が変更になった場合は、インフォメーションシステム等で連絡します。

授業科目名： 電磁気学I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大澤 穂高
			担当形態： 単独・クラス分け
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 基本的な静電気の計算（クーロン法則、ガウスの法則、電位計算やキャパシタの計算）を習得する</p> <p>a) 電荷同士に働くクーロンの法則について理解する</p> <p>b) 電荷が電界から受ける力について理解する</p> <p>c) 電気力線について理解する</p> <p>d) 様々な形状の電荷からの電界を積分によって求める方法について知る</p> <p>e) 様々な形状の電荷から簡易に電界をもとめるガウスの法則について理解する</p> <p>f) 電位計算について理解する</p> <p>g) 等電位面について理解する</p> <p>h) 電気容量について単純な形や絶縁体を挿入した場合について計算できる</p> <p>2. 様々な静電気分野の問題に触れ、参考書やノートを見ながら複雑な応用問題への解答方針を立てられる</p> <p>3. 計算機での静電気分野の数値計算の基礎を理解する</p>			
<p>授業の概要</p> <p>電気磁気学IおよびIIでは電気に関わる現象とこれに密接に関連した磁気現象の全般にわたって丁寧に基礎理論を講義する。これらの電場と磁場は相互に影響し様々な現象が生じる。電磁気学1の講義では電気磁気学2への基礎としてこの相互作用が無視できる場合の静電場の現象について講義し、電磁気学で取り扱う電荷と電流が作り出す種々の現象を明らかにし、それらを理論式で記述し理解することを目標とする。まず電荷と電場、電位との関係とその定義式から説明する。電気工学では電位と電場の概念を理解することは大変重要なのでこれを理解するためにクーロンの法則、ガウスの法則、面積分、線積分などを用いて多くの例題を掲げて講義する。その後、誘電体の性質や静電容量、キャパシタなど電気回路で扱われる諸量についても講義する。また必要に応じて小テスト実施やレポート提出によって理解を深める助けとする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：電磁気学概論（ガイダンス）</p> <p>第2回：電荷1（電荷、導体）</p> <p>第3回：電荷2（絶縁体、クーロンの法則）</p>			

第4回：電場1（電場、電気力線）
第5回：電場2（電荷による電場、電場から力）
第6回：ガウスの法則1（基本原理、点電荷、閉曲面）
第7回：ガウスの法則2（有限長電荷、無限長電荷、無限平面電荷）
第8回：中間テスト（ここまでのまとめ）
第9回：数値計算、静電場の応用の実例
第10回：電位1（電位、等電位面、電荷による電位）
第11回：電位（電気ポテンシャル）
第12回：電気容量1（キャパシタ）
第13回：電気容量2（誘電体の挿入、電束密度）
第14回：全体のまとめ
第15回：到達度の確認（筆記による学力確認）と講評

テキスト

D. ハリディ、R. レスニック、J. ウォーカー共著、野崎光昭監訳『物理学の基礎 [3] 電磁気学』培風館

伊藤國男、植月唯夫『電気磁気学 要点と演習』電気書院

参考書・参考資料等

梶谷剛、濱島高太郎、塚田啓二、杉本秀彦『電磁気学』実教出版

石川本雄『電磁気学入門』昭晃堂

河野照哉『電気磁気学』朝倉書店

山村泰道、北川盈雄『電気磁気学演習 [新訂版]』サイエンス社

学生に対する評価

定期試験（筆記試験）の成績と平常成績で総合評価する。

小テストおよびレポート（30%）、中間テストおよび定期試験（70%）を基本として評価を行う。

授業科目名： 物理学を学ぶ（力学II）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 蓑茂 工将
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
授業のテーマ及び到達目標			
①知識・技能の観点			
<ul style="list-style-type: none"> ・質点系の力学の法則および剛体の力学の法則と、内力、外力、重心座標、相対座標、運動量、角運動量、力のモーメント（トルク）、慣性モーメント、などの用語を理解できる。 ・質点系の力学から剛体の力学の基本式がどのように導き出されるかを体系的に理解できる。 ・各種運動を記述する運動方程式を作ることができる。 ・運動方程式から、どんな運動が起こるか、どんな力が働いているか、を求めることができる。 			
②思考力・判断力・表現力の観点			
<ul style="list-style-type: none"> ・問題の状況を具体的に想像し、問題を解く上で必要な図やグラフを描き、数式としても表現できる。 ・問題を解く過程を論理的に記述でき、他者に分かりやすく説明できる。 ・計算の結果が妥当なものか、どこかおかしいか評価できる。 			
③主体的な態度の観点			
<ul style="list-style-type: none"> ・疑問点や分からないことを明確にし、必要であれば教員や友人やその他の情報源を活用して、それを解決できる。 			
授業の概要			
力学はあらゆる科学の基礎となる重要な学問である。力学1ではおもに質点の運動を扱ったが、これを基礎に力学2では、質点が複数ある場合と剛体の運動を学ぶ。			
授業計画			
第1回：質点系の力学の基礎			
第2回：質点系にはたらく力と運動方程式 重心			
第3回：2質点系の力学 運動方程式 2体問題の例			
第4回：惑星の運動			
第5回：多質点系の力学 運動方程式			
第6回：3体問題の例			
第7回：中間試験（これまでのまとめ・解説）			
第8回：剛体の力学の基礎 剛体がしたがう運動方程式			

第9回：剛体のつり合い 剛体に作用する力

第10回：固定軸周りの運動 運動方程式

第11回：慣性モーメントを計算するための数学的準備

第12回：固定軸まわりの慣性モーメント

第13回：剛体の平面運動

第14回：固定点のまわりの運動

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

関西大学工学部物理学教室 関西大学システム理工学部物理・応用物理学編 『力学（下）』（学術図書出版）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

「中間試験（30%）」、「期末試験（30%）」、「レポート（40%）」で評価する。

授業科目名： 振動・波動・光の物理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒川 康良
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① ばね振り子の運動と単振動に関する理解</p> <p>② 正弦波の表現の理解</p> <p>③ 電磁波や音波の性質と特徴の理解</p> <p>④ 波の反射・屈折・回折・干渉等の理解</p>			
授業の概要			
<p>物理量が時間的に周期変動するとき振動しているといい、振動が空間的に伝搬していくとき波動という。本講義では、主としてこのような振動・波動について学ぶ。振動・波動の現象は、振り子のような力学的振動、電氣的振動、熱振動、あるいは水の波、空気の波（音波）、弾性波、電磁波（光波）、物質波、重力波など、物理学の広い分野で現れる一般的な現象で、数学的に統一的に扱うことができる。本講義では、振動・波動の数学的取り扱いを学んだ後、いくつかの具体的な現象について考える。</p>			
授業計画			
<p>第1回：第1章 さまざまな波：波に関する基礎知識や講義で用いる専門用語を解説する。</p> <p>第2回：第2章 波の表現：ばねの振動を数学的な表現で記述することを学ぶ。単振動の運動方程式及びその解の求め方を理解する。また、振動のエネルギーに関して解説する。</p> <p>第3回：振り子の振動・電氣的な振動：単振り子の運動方程式を記述する。角や角振動数等の回転の変数について学ぶ。また、電氣的な振動についても理解する。</p> <p>第4回：連成振動：2つのばね振動を連結した連成振動を学ぶ。</p> <p>第5回：縦波と横波・波を表す式：縦波と横波の違い及び波動の数学的記述法を理解する。反射、屈折、回折及び干渉等の波動の基本的な性質を学ぶ。</p> <p>第6回：波動の吸収：波動の吸収を学ぶ。波動の表現に関する演習問題を通して理解を深める。</p> <p>第7回：第3章 音の波：音の発生源である振動から学び始める。定常波（定在波）の数学的な表記法を理解する。ギターの弦の振動を例として、横波の音速と固有振動数について学ぶ。気柱の振動を学ぶことにより、管楽器の仕組みを理解する。</p> <p>第8回：音の放射・音の波の性質：弦楽器やスピーカーからの音の放射について学ぶ。超低周波、可聴音と超音波について理解する。音の3要素や音速、反射、屈折及び回折等の音の性質について学ぶ。</p> <p>第9回：音の干渉・うなり・ドップラー効果：音の干渉について学ぶ。数学的な表記から音のうなり</p>			

について理解する。音源が動く場合と観測者が動く場合のドップラー効果を考える。衝撃波の発生と性質について学ぶ。

第10回：音の吸収：感覚的な音の大きさと、物理的な音の強さの関係について学ぶ。音圧レベルと単位に用いるデシベルを理解する。音の波に関する演習問題を通して理解を深める。

第11回：第4章 光の波：光の発生方法である発光について学ぶ。光の放射の強度を示すスペクトルについて理解する。光の簡単な性質である反射や屈折について学ぶ。

第12回：光の干渉・ニュートンリング：ヤングの実験を例に取り、光の干渉について学ぶ。ニュートンリングの仕組みを理解する。

第13回：光の回折・分散・偏光：ホイヘンスの原理による光の回折を理解する。光の分散と分光器の原理を学ぶ。電界の振動方向が定まっている偏光を学ぶ。

第14回：光の吸収：光ファイバーや太陽電池を例に取り、光の吸収を学ぶ。光の波に関する演習問題を通して理解を深める。

第15回：到達度確認演習

テキスト

飯島徹徳、佐々木隆幸、青山隆司『アビリティ物理 音の波・光の波』（共立出版）

参考書・参考資料等

D. ハリディ、R. レスニック、J. ウォーカ『物理学の基礎2 波・熱』（培風館）

大槻義彦『セメスター物理 波動』（学術図書出版社）

学生に対する評価

定期試験を行わず、到達度確認演習（筆記による学力確認）と平常成績で総合評価する。

筆記による学力確認(70%)と平常成績(30%、小テスト、課題レポートなど)

履修者数が多数になった場合には、成績評価方法を「定期試験（16週目）」に変更することがあります。成績評価方法が変更になった場合は、インフォメーションシステム等で連絡します

授業科目名： 電子物性基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 稲葉 優文
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1：知識、技能 量子力学の考え方に慣れ、半導体中のキャリア(電子・正孔)の性質について理解すること。電界や濃度勾配が存在する場合のキャリア動きをイメージできるようになること。</p> <p>2：思考力、判断力 日常の生活の中で半導体が使われている場所、使われ方を想像し、それらの背景にある応用形態の「なぜ？」に気づきを誘導する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「物性」とは、「物質の示す巨視的性質。電氣的・機械的・光学的・熱的・磁氣的などの性質。(広辞苑より)」のことである。「電子物性」は、特に「電子」の振る舞いに焦点を当てた場合に用いられる。本講義では、固体(主に半導体)の電子物性を中心に学ぶ。半導体中のキャリア(電子・正孔)の振る舞いを理解し、半導体デバイスの動作原理を理解する基本を学ぶ。</p> <p>本講義の背景には、電磁気学、波動の物理、解析力学、量子力学、量子・統計力学、固体物性などが密接に関係している。本講義の内容を修得すれば、デバイス動作の根本となる物理現象をイメージでき、半導体物性をより深く理解することができる。また、本講義の内容は光物性、有機電子材料、電気電子材料、光エレクトロニクスなどの各講義で前提として用いることになるため、関連講義受講希望者は本講義の内容を十分に理解されたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>おおよそ以下のように講義を進める。</p> <p>講義の半分程度が終了した時点で中間試験を行う。</p> <p>第1回：周期表と原子構造 第2回：原子の周期構造とバンド理論 第3回：エネルギーバンド構造と分散関係 第4回：確率密度分布と状態密度 第5回：真性半導体の正孔・電子濃度 第6回：半導体への不純物導入 第7回：半導体中のキャリアの伝導 第8回：電気伝導とその評価手法</p>			

第9回：非平衡状態における物理現象

第10回：PN接合のキャリア伝導

第11回：半導体-金属接合のキャリア伝導

第12回：MOSFETのキャリア伝導

第13回：物質の誘電的性質

第14回：物質の光学特性

第15回：物質の磁氣的性質、到達度の確認

テキスト

なし

参考書・参考資料等

S. M. Sze(南日 康夫、川辺 光央、長谷川 文夫訳)

『半導体デバイス（第2版）－基礎理論とプロセス技術－』産業図書

B. L. アンダーソン, R. L. アンダーソン (樺沢宇紀 訳)

『半導体デバイスの基礎上』丸善出版

『半導体デバイスの基礎中』丸善出版

浜口 智尋・森 伸也

『電子物性－電子デバイスの基礎－』朝倉書店

学生に対する評価

定期試験を行わず、到達度の確認(筆記による学力確認)と平常成績で総合評価する。

中間試験(50%)と到達度の確認(50%)で評価予定。履修者数が多数になった場合には、成績評価方法を「定期試験(16週目)」に変更することがあります。

授業科目名： 電磁気学II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐伯 拓
			担当形態： 単独・クラス分け
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <p>1. 基本的な磁場に関する知識を習得</p> <p>a) 電場と磁場がある空間での荷電粒子の運動を理解</p> <p>b) 電流が流れる導線が磁場から受ける力について理解</p> <p>c) ビオサバールの法則によって電流がつくる磁場について簡易計算ができる。</p> <p>d) アンペールの法則について理解</p> <p>2. マクスウェル方程式について理解</p> <p>3. 電磁波の現象への理解を深める。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <p>この授業で学んだ電磁気学の内容を自分以外に説明できるようになる。また、各種問題に応用する力を養う。</p> <p>③主体的な態度の観点</p> <p>集中して授業を受ける。しっかり復習を行う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>電磁気学において電気現象と磁気現象は互いに密接に関係している。電磁気学2では、それらの相互作用が無視できる静磁場からスタートし、電気・磁気現象の相互作用である電磁誘導や誘導磁場までを扱う。まず、電流・抵抗について物理的な意味も含めて理解する。次に、磁場中の荷電粒子や電流に働く力について学習する。さらに、ビオ・サバールの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導の法則について理解するとともに、様々な場合に適用できるようにする。本講義においては、演習問題を多く取り上げ、内容の理解を深めることができるように努める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：電流密度、抵抗と抵抗率</p> <p>第2回：静磁場</p> <p>第3回：磁場中の荷電粒子に働く力</p>			

第4回：磁場中の電流に働く力
第5回：ビオ・サバールの法則
第6回：アンペールの法則
第7回：ビオ・サバールの法則の応用に関する演習
第8回：アンペールの法則の応用に関する演習
第9回：ファラデーの電磁誘導の法則 マクスウェル4方程式
第10回：インダクター1 自己インダクタンス
第11回：インダクター2 相互インダクタンス
第12回：磁気エネルギー
第13回：変位電流 誘導磁場
第14回：電磁波の発生と伝播
第15回：講義のまとめ、到達度の確認、講評

テキスト

ハリディ、レスニック、ウォーカー共著、野崎光昭監修『物理学の基礎3 電磁気学』（培風館）

参考書・参考資料等

渡辺征夫、青柳晃共著『工科の物理 電磁気学』（培風館）

小柴正則『基礎からの電磁気学』（培風館）

熊谷信昭『電磁理論』（コロナ社）

佐藤和紀、大山龍一郎、上瀧實、春名勝次、金井徳兼、高嶋信也共著『基礎がわかる電磁気学』（朝倉書店）

学生に対する評価

定期試験を行わず、到達度の確認(筆記による学力確認)と平常成績で総合評価する。

到達度の確認(70%)、平常成績(30%)

履修者数が多数になった場合には成績評価方法を「定期試験(16週目)」に変更することがあります。成績評価方法が変更になった場合は、インフォメーションシステム等で連絡します。

授業科目名： 電磁気学II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大澤 穂高
			担当形態： 単独・クラス分け
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
<p>1.基本的な磁場に関する分野の知識を習得する</p> <p>a)電場と磁場がある空間での荷電粒子の運動を理解する</p> <p>b)電流が流れる導線が磁場から受ける力について理解する</p> <p>c)ビオ・サバルの法則によって電流がつくる磁場について簡易計算ができる</p> <p>d)アンペールの法則について理解する</p> <p>2.マクスウェル方程式について理解する</p> <p>3.電磁波の現象への理解を深める</p>			
<p>授業の概要</p> <p>電気磁気学IおよびIIでは電気に関わる現象とこれに密接に関連した磁気現象の全般にわたって丁寧に基礎理論を講義する。これらの電場と磁場は相互に影響し様々な現象が生じる。電磁気学Iの講義では静電場の現象について取り扱った。これに続き電気磁気学IIの講義ではまず相互作用が無視できる静磁場について取り扱う。その後、変動磁場によって電場ができる電磁誘導現象について講義を行う。講義ではローレンツ力、電磁力など電荷や電流が磁場から受ける力について説明する。電流と磁界の関係をビオ・サバルの法則とアンペールの法則の両方から理解を深める。電磁誘導現象を通じて、発電機の原理や自己誘導現象、相互誘導現象について理解を深めるようにする。全ての電磁現象をマクスウェルの方程式によって表現できることについても説明する。これらのことを多くの例題を掲げて講義する。また小テスト実施やレポート提出によって、理解を深める助けとする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：静電磁気のまとめとガイダンス</p> <p>第2回：磁場1（直交電磁場、荷電粒子の運動）</p> <p>第3回：磁場2（電流に働く力）</p> <p>第4回：電流が作る磁場1（ビオ・サバルの法則、アンペールの法則）</p> <p>第5回：電流が作る磁場2（有限長電流、無限長電流、円電流）</p> <p>第6回：電流が作る磁場3（円弧電流、長方形電流）</p> <p>第7回：電流が作る磁場4（複雑形状電流）</p> <p>第8回：誘導とインダクタンス</p> <p>第9回：中間テスト（ここまでのまとめ）</p>			

第10回：マクスウェルの方程式1（微分演算子）

第11回：電磁波

第12回：マクスウェルの方程式2（表皮効果、絶縁体内の電磁波）

第13回：マクスウェルの方程式3（同軸系ケーブル内の電磁波の速度）

第14回：電磁気の数値計算

第15回：到達度確認テストおよび講評

テキスト

D. ハリデイ、R. レスニック、J. ウォーカー共著、野崎光昭監訳『物理学の基礎 [3] 電磁気学』（培風館）

伊藤國男、植月唯夫『電気磁気学 要点と演習』（電気書院）

沼居貴陽『大学生のための電磁気学演習』（共立出版）

参考書・参考資料等

梶谷剛、濱島高太郎、塚田啓二、杉本秀彦『電磁気学』（実教出版）

石川本雄『電磁気学入門』（昭晃堂）

河野照哉『電気磁気学』（朝倉書店）

山村泰道、北川盈雄『電気磁気学演習 [新訂版]』（サイエンス社）

学生に対する評価

定期試験（筆記試験）の成績と平常成績で総合評価する。

小テストおよびレポート（30%）、定期試験（70%）で評価を行う。

授業科目名： 量子・統計力学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒川 康良
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>① 量子論に登場する新しい概念（粒子性と波動性、不確定性原理など）を理解できる。</p> <p>② 1次元シュレディンガー方程式を簡単な系について解いて、その物理的内容を理解できる。</p> <p>③ 確率論的な考え方で物理量の期待値を求める方法を学ぶ。</p> <p>④ 正準集合の統計力学の基本的考え方を理解する</p> <p>⑤ Fermi-Dirac分布・Bose-Einstein分布を理解する</p>			
<p>授業の概要</p> <p>量子力学は、現代物理学の理解にとって不可欠の科目であるだけでなく、先端技術にとってもその理解が必要なものである。本講義では、日常的な経験とは相当にかけ離れたミクロの世界の法則や考え方の理解を目指す。量子力学の基礎方程式の1つであるシュレディンガー方程式とその由来、状態や波動関数の意味、さらに1次元の範囲で、シュレディンガー方程式とその解及び解の意味などを種々の例を用いて説明する。量子力学と共に現代物理学のもう一つの柱である統計力学の入門的講義を行う。微視的粒子の諸性質は量子力学に支配されているので、統計力学では量子論的な物質の性質を前提とした議論を行う。その典型的な例には、離散的なエネルギー準位を持った多数の粒子系の量子統計力学が挙げられる。統計力学の手法の延長線上に固体物性論があるので、将来的に半導体、磁性体、誘電体などの諸物性を学ぶためには、統計力学は必要不可欠な道具である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：粒子と波の二重性</p> <p>第2回：演算子・固有値・固有関数</p> <p>第3回：シュレディンガー方程式</p> <p>第4回：物理量の期待値</p> <p>第5回：不確定性原理</p> <p>第6回：無限に深い1次元井戸型ポテンシャル</p> <p>第7回：有限に深い1次元井戸型ポテンシャル</p> <p>第8回：古典熱力学の復習</p> <p>第9回：気体分子運動論</p> <p>第10回：統計力学の基本的な考え方</p>			

第11回：Maxwell-Boltzmann分布

第12回：古典統計力学の応用

第13回：正準集団と大正準集団

第14回：Fermi-Dirac分布・Bose-Einstein分布

第15回：到達度確認演習

テキスト

矢口裕之『初歩から学ぶ固体物理学』（講談社）

参考書・参考資料等

阿部龍蔵『熱・統計力学入門』（サイエンス社）

学生に対する評価

定期試験を行わず、到達度の確認(筆記による学力確認)と平常成績で総合評価する。

筆記による学力確認(70%)と平常成績(30%、小テスト、課題レポートなど)

履修者数が多数になった場合には、成績評価方法を「定期試験(16週目)」に変更することがあります。成績評価方法が変更になった場合は、インフォメーションシステム等で連絡します

。

授業科目名： 固体物性基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 稲田 貢
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 原子の結合と固体の結晶構造を理解する。</p> <p>2. 格子振動の基本的な取り扱いを理解する。</p>			
授業の概要			
<p>物性とは物質が示す様々な物理的性質のことである。物質を構成する原子と原子は電子を介して結合している。また、電気的な性質はもとより光学的な性質も、電子の状態や振舞いによって決まる。したがって、物性を理解するという事は、物質中の電子および格子の振舞いを理解することに他ならない。本講義では固体物性の理解に不可欠な、固体の結晶構造と結合、格子振動について学ぶ。また自由電子モデルについてもその概要を学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回 ガイダンス, 原子構造			
第2回 結晶格子・面指数			
第3回 共有結合、イオン結合			
第4回 金属結合、分子結合			
第5回 結晶構造			
第6回 格子点の周期性と波動関数			
第7回 位置ベクトルと波数ベクトル：フーリエ変換			
第8回 結晶構造解析			
第9回 一次元単原子結晶			
第10回 一次元二種原子結晶			
第11回 フォノンの分散関係と状態密度			
第12回 格子比熱のアインシュタインモデル			
第13回 格子比熱のデバイモデル			
第14回 電子比熱			
第15回 到達度の確認			
テキスト			
チャールズ・キッテル『固体物理学入門（上）』（丸善）			

参考書・参考資料等

沼居 貴陽『固体物性入門』（森北出版）

岡崎 誠『固体物理学』（裳華房）

佐藤 勝昭『物性なんでもQ&A』（講談社）

学生に対する評価

定期試験を行わず、到達度の確認(筆記による学力確認)とレポートで総合評価する。

到達度の確認（80%），レポート（20%）

履修者数が多数になった場合には、成績評価方法を「定期試験（16週目）」に変更することがあります。成績評価方法が変更になった場合は、インフォメーションシステム等で連絡します。

授業科目名： 光物性	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒川 康良
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 光学と光エレクトロニクスの基礎知識の習得</p> <p>② 光材料工学と結晶技術のかかわりへの理解</p> <p>③ 非線形光学と波長工学についての基礎知識の習得</p>			
授業の概要			
<p>光エレクトロニクスを支えるさまざまなデバイスには、各種の結晶材料が使われている。光を使ったデバイスや光を使った通信インフラ、光を使った半導体製造装置などの仕組みとその原理を、そこで用いられている結晶材料とのかかわりをもとに分かりやすく説明する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：どんなところに光技術が使われているのか</p> <p>第2回：光とは何か？</p> <p>第3回：Maxwell方程式と電磁波</p> <p>第4回：光の反射・透過・屈折</p> <p>第5回：光と物質の相互作用</p> <p>第6回：分子の光スペクトル</p> <p>第7回：半導体の光スペクトル</p> <p>第8回：到達度確認演習</p> <p>第9回：ルミネッセンスと無放射遷移</p> <p>第10回：誘導放出と半導体レーザー</p> <p>第11回：半導体回路製造技術 その1 薄膜成長技術を中心に</p> <p>第12回：半導体回路製造技術 その2 半導体露光装置を中心に</p> <p>第13回：非線形光学の基礎</p> <p>第14回：非線形光学効果の応用</p> <p>第15回：到達度確認演習</p>			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
<p>榎田 孝司『光物性物理学』 朝倉書店</p>			

Charles Kittel 訳者：宇野 良清，津屋 昇，新関 駒二郎，森田 章，山下 次郎
キッテル 固体物理学入門 丸善出版

Amnon Yariv 訳者：多田 邦雄，神谷 武志 ヤリーヴ 光エレクトロニクス 丸善出版

学生に対する評価

定期試験を行わず、到達度の確認(筆記による学力確認)と平常成績で総合評価する。

筆記による学力確認(70%)と平常成績(30%、小テスト、課題レポートなど)

履修者数が多数になった場合には、成績評価方法を「定期試験(16週目)」に変更することがあります。成績評価方法が変更になった場合は、インフォメーションシステム等で連絡します

。

授業科目名： 高周波電磁気学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北村 敏明
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) マクスウェル方程式、平面波の性質について理解する。</p> <p>(2) 伝送線路、各種TEM線路について理解する。</p> <p>(3) 共振器、Sパラメータについて理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>光および電波はともに電磁波の一種であり、周波数が高く、波長が回路およびデバイスの寸法に比べて同程度あるいはそれより短くなるために、特性解析においては通常の電気回路とは異なる扱いが必要となる。本講義では、高周波の基礎として、マクスウェル方程式、平面電磁波、伝送線路、各種TEM線路、共振器、Sパラメータ等について学習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：高周波の基礎</p> <p>第2回：進行波と定在波</p> <p>第3回：マクスウェルの方程式</p> <p>第4回：境界条件</p> <p>第5回：真空中の平面電磁波</p> <p>第6回：平面電磁波の性質</p> <p>第7回：伝送線路理論</p> <p>第8回：伝送線路の負荷条件</p> <p>第9回：線路から見たインピーダンス</p> <p>第10回：各種TEM線路</p> <p>第11回：ストリップ線路</p> <p>第12回：集中定数共振回路</p> <p>第13回：線路共振器</p> <p>第14回：Sパラメータ</p> <p>第15回：講義のまとめ、到達度の確認、講評</p>			
<p>テキスト</p> <p>三輪進『高周波の基礎』東京電機大学出版局</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

松田豊稔、宮田克正、南部幸久『電波工学』コロナ社
西原浩（編）『光・電磁波工学』オーム社

学生に対する評価

定期試験を行わず、到達度の確認(筆記による学力確認)で評価する。

到達度の確認 (100%)

履修者数が多数になった場合には、成績評価方法を「定期試験 (16週目)」に変更することがあります。成績評価方法が変更になった場合はインフォメーションシステム等で連絡します。

授業科目名： 化学基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷川 裕之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>① 知識・技能の観点 物質の性質を根元的に支配する原子および化学結合に関する基本知識を獲得し，原子の性質や化学結合の種類とそれぞれの特徴と電子とのかかわりについて理解することができる。</p> <p>② 思考力・判断力・表現力等の能力の観点 上記知識・技能で得た学びを基に，理科の見方・考え方にに基づき，物質の構成や性質を説明できるようになる。</p> <p>③主体的な態度の観点 自らの学習を振り返り，適切な改善点を挙げるができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>物質は，化学結合によって結びついた原子で構成されている。化学結合には，原子中の電子が重要な役割を果たし，その物質の主要な性質を決めている。本講義では，化学の基盤である物質の構成について，高校化学から大学の化学へと視点を移しながら量子化学的観点を交えて理解を深め，電子材料を考える上で重要な基盤的知識を習得する。固体，液体，気体では，三態を概観し，固体では，結晶学の初歩を学ぶ。熱力学では，気体の考え方を発展させた，熱力学の初歩を学ぶ。電気化学や有機化学の序論についても概観する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション，原子の構造と電子配置</p> <p>第2回：周期表と周期律</p> <p>第3回：化学結合</p> <p>第4回：分子の形</p> <p>第5回：物質の三態</p> <p>第6回：固体とその性質</p> <p>第7回：気体とその性質</p> <p>第8回：液体とその性質</p> <p>第9回：熱力学</p> <p>第10回：物理平衡・化学平衡と反応速度論</p> <p>第11回：酸化・還元</p>			

第12回：電気化学

第13回：有機化合物1（炭化水素）

第14回：有機化合物2（酸素を含む化合物・芳香族）

第15回：天然高分子化合物，合成高分子化合物

定期試験

テキスト

P. Atkins・L. Jones・L. Laverman 著，渡辺 正 訳『アトキンス一般化学 上・下』東京化学同人

参考書・参考資料等

北條博彦・渡辺正 著 『化学基礎』（化学はじめの一步シリーズ）化学同人

真船文隆・渡辺正 著 『物理化学』（化学はじめの一步シリーズ）化学同人

学生に対する評価

定期試験（筆記試験）の成績（80%）と平常成績（20%）で総合評価する。平常成績は、講義で行う小テスト，レポート，課題等の評価で行う。合格は60%以上とする。

授業科目名： 電気電子材料	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷川 裕之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>① 知識・技能の観点 電気電子材料を理解する上で重要な、固体における電子状態の理解を通して、物性発現の仕組みを学ぶ。また、現代のエレクトロニクスに不可欠な電池の基盤である電気化学について、物質と電子の相互作用の観点から理解を深める。</p> <p>② 思考力・判断力・表現力等の能力の観点 上記知識・技能で得た学びを基に、理科の見方・考え方にに基づき、電気電子材料の構造や性質、その相関を説明できるようになる。</p> <p>③ 主体的な態度の観点 自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>固体における電子状態を考えることが電気電子材料を考える上で肝要である。固体内部で電子が緩く共有される状態が形成されれば導電性に、特定の原子や原子団に局在する状態となれば誘電性や磁性につながる電子状態が形成される。本講義では固体中での電子状態とそこから引き出される物性を主眼に電気電子材料を概観する。また、グリーンエレクトロニクスを支える電池の基盤である電気化学についても物質と電子との相互作用の観点から概観する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：固体化学の領域 第2回：化学結合と結晶構造 第3回：固体状態の熱力学 第4回：固体の構造解析 第5回：固体のキャラクタリゼーション 第6回：格子振動と熱的・弾性的性質 第7回：電子構造と電気伝導 第8回：誘電体 第9回：磁性体 第10回：超伝導 第11回：光学的性質</p>			

第12回：電極界面と電気二重層

第13回：標準電極電位

第14回：電極表面で起こる現象

第15回：電解質・固体電解質と電池

定期試験

テキスト

金森順次郎, 米沢富美子, 川村清, 寺倉清之 著 『固体-構造と物性』 (現代物理学叢書) 岩波書店

田中 勝久 著 『固体化学 第2版』 東京化学同人

参考書・参考資料等

P A Cox 著, 魚崎浩平, 米田龍, 高橋誠, 金子晋 訳 『固体の電子構造と化学』 技報堂出版

渡辺正 編著, 金村聖志, 益田秀樹, 渡辺 正義 著 『電気化学』 (基礎化学コース) 丸善出版

学生に対する評価

定期試験 (筆記試験) の成績 (80%) と平常成績 (20%) で総合評価する。平常成績は, 講義で行う小テスト, レポート, 課題等の評価で行う。合格は60%以上とする。

授業科目名： 有機電子材料	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷川 裕之
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>① 知識・技能の観点 有機電子材料，有機・無機ハイブリッド材料について，基礎物性化学の知識とそれに基づく材料設計の指針を理解することを目指す。</p> <p>② 思考力・判断力・表現力等の能力の観点 上記知識・技能で得た学びを基に，理科の見方・考え方にに基づき，有機電子材料の構造や性質を説明できるようになる。</p> <p>③ 主体的な態度の観点 自らの学習を振り返り，適切な改善点を挙げるができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>有機化合物は一般的に金属のような導電性を持たないが，ある種のデザインを行うことで人為的に導電性をはじめ磁性や誘電性などの電子物性を発現させることが可能である。そこで本講義では，人為的に多種多様なデザインが可能な有機化合物について，その特徴を概観するとともに，導電性をはじめとする電子物性を発現させるための方法論について理解することを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：さまざまな物質，現象，結合形態—有機物を主体として</p> <p>第2回：分子集合体の開発とその応用</p> <p>第3回：ファン・デル・ワールス力と分子性結晶</p> <p>第4回：分子性結晶の構造</p> <p>第5回：イオン結合とイオン結晶</p> <p>第6回：多彩なイオン性物質と超伝導体</p> <p>第7回：共有結合と共有結合結晶</p> <p>第8回：金属電子論 1（強束縛近似）</p> <p>第9回：金属電子論 2（状態密度と物性）</p> <p>第10回：金属電子論 3（電気伝導度と移動度）</p> <p>第11回：電荷移動相互作用</p> <p>第12回：電荷移動量と電気伝導</p>			

第13回：有機・無機ハイブリッド材料

第14回：ハイブリッドペロブスカイトの構造

第15回：ハイブリッドペロブスカイトの物性

定期試験

テキスト

斉藤軍治 著 『有機物性化学の基礎』化学同人

参考書・参考資料等

安西 弘行, 中辻 慎一 著 『有機電子物性』培風館

N. F. Mott 著, 小野 嘉之訳 『金属と非金属の物理』丸善出版

学生に対する評価

定期試験（筆記試験）の成績（80%）と平常成績（20%）で総合評価する。平常成績は、講義で行う小テスト、レポート、課題等の評価で行う。合格は60%以上とする。

授業科目名： 材料機器分析	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大堀 大介
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 化学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般的なラボレベルでの分析機器の作動原理を説明することができる。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料の物性を評価する際の適切な分析方法を理解することができる。 分析時、解析時に問題となる事項、注意しなければならない事項を原理から説明することができる。 <p>③主体的な態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 習得した知識(概説)をもとに、関連した技術に関する情報を収集、理解することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>優れた機能をもつ材料の開発は、「材料の試作」→「物性の測定」→「材料の分析」という3つの作業から成り立っている。試作した材料の物性が初めから満足なものであることは稀であり、材料技術者は得られた物性が不満足である原因を追究せねばならない。得られた物性が不満足である原因の多くは、材料の分析および解析により判明することがある。</p> <p>分析技術は年々専門化・多様化しており、研究者・技術者は目的とする観察や分析に最適な方法・機器を選んで利用する必要がある。また、他者の分析結果を理解する上でも、用いられた方法・機器の特性を理解しておかなければ、解釈を見誤る可能性が生じる。そのため、分析対象の特徴と分析技術の原理を正しく理解しておかなければならない。</p> <p>機器を使った多くの分析技術は、材料にプローブ(電磁波、電子線、熱など)のエネルギーを照射し、そのエネルギー収支を検出し、そのシグナルを電気信号に変換することを基本としている。分析機器を正しく扱うには、材料上でのエネルギー収支が発生する理論、原理と分析機器の作動原理を理解しておく必要がある。</p> <p>本講義は、電磁波(可視光線やX線など)および物質波(電子やイオンなど)を利用したさまざまな材料観察・分析法を中心に、その原理と機器の構造を学び、各方法・装置でどのような観察・分析が行えるか理解することを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：材料工学における機器分析法の概説</p>			

第2回：材料分析のための真空環境

第3回：電磁波の特性(1): 紫外・可視・赤外光と分光

第4回：紫外・可視・赤外を用いた分析法(1): UV-Vis-NIR分光光度法・FTIR分光光度法

第5回：紫外・可視・赤外を用いた分析法(2): フォトルミネッセンス分光法

第6回：紫外・可視・赤外を用いた分析法(3): ラマン分光法

第7回：X線の特性

第8回：X線・電子線を用いた観察・分析法(3): X線回折法

第9回：X線・電子線を用いた観察・分析法(4): X線光電子分光法

第10回：電子線・イオンビームの特性

第11回：X線・電子線を用いた観察・分析法(1): 走査型電子顕微鏡

第12回：X線・電子線を用いた観察・分析法(2): 透過型電子顕微鏡

第13回：質量分析

第14回：原子間力顕微鏡

第15回：到達度の確認

テキスト

配布物中心に講義を進める。

参考書・参考資料等

田中誠之, 飯田芳男『機器分析』裳華房 978-4785331337

川東田隆『半導体評価技術』産業図書 978-4782856277

学生に対する評価

講義終了後のレポート(30%)および、最終回のテスト(到達度の確認)(70%)で評価を行う。

授業科目名： 生物学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 日下部 りえ
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点 生物学の生物の構造、代謝などの基礎の内容を理解し、知識として習得する。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 遺伝子の働き～細胞の構造～個体のなりたちという一連の生命システムを理解し、各レベルでの考察ができるようにする。</p> <p>③主体的な態度の観点 身近な生き物やその体のメカニズムへの興味を引き出し、新たな疑問や課題の発想ができることを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>高校で生物を未履修の学部生を対象に、理科教科内容に関連した内容を基礎から学習する。中学校および高等学校の教員免許取得も視野に入れた内容とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生物学とは</p> <p>第2回：生物の構造</p> <p>第3回：進化論・遺伝の法則の発見</p> <p>第4回：顕微鏡の発明と細胞構造の解明</p> <p>第5回：生命を維持する代謝</p> <p>第6回：生物の遺伝情報の維持とその働き</p> <p>第7回：動物の生命維持にかかわる各種器官</p> <p>第8回：転写と翻訳</p> <p>第9回：神経系と行動</p> <p>第10回：動物の発生</p> <p>第11回：植物の発生</p> <p>第12回：遺伝子の進化と多様性</p> <p>第13回：免疫システム</p> <p>第14回：遺伝子工学とその応用</p> <p>第15回：まとめ（平常試験）</p>			

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

池内昌彦ほか キャンベル生物学 原書11版 丸善出版 978-4621302767

弥益恭ほか 新しい生物科学 培風館 978-4-563-07824-9

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

最終回において筆記による学力確認を行う(70%)。授業への参加度及び講義で出す小問への取り組み(30%)も加味して総合的に評価する。

授業科目名： 地学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北田 奈緒子、井上 直人
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点 地球のしくみと歴史についての概要と基礎、ならびに災害のメカニズムや防災、地球環境問題やエネルギー問題について理解する。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 環境変化や災害に対する知識を取得し、防災意識を取得する。理解したことは文章で説明することができる。</p> <p>③主体的な態度の観点 地球の仕組みや変化について理解することで、地球環境問題に関する知識を持ち、今後の生活や取り組むべき事象を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、宇宙の誕生から現在までの138億年の変遷を概観し、地球の構成・変遷や特徴について学ぶ。さらに地震や火山噴火など様々な災害や人類の活動によって変化する地球環境の学習を通じて、生活の中で発生する自然災害のメカニズムや特徴を習熟することで防災に対する考え方・対応について学習する。また、地球環境問題やエネルギー問題についても講義を行い、今後取り組むべき課題に対しても学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：宇宙の誕生から現在まで（年代）1：講義計画の説明と宇宙誕生から現在までの変遷について学ぶ。（担当：北田）</p> <p>第2回：宇宙の誕生から現在まで（年代）2：宇宙誕生から現在までの変遷について学ぶ。（担当：北田）</p> <p>第3回：地殻の物質循環と岩石の構成：地球を構成する岩石の種類とこれらの物質循環について学ぶ（担当：北田）。</p> <p>第4回：地球の内部構造：地球の大きさや内部の物性構造について学ぶ。（担当：井上）</p> <p>第5回：地震のメカニズムと災害：地震の発生するしくみと、引き起こされる災害について学ぶ。（担当：井上）</p> <p>第6回：津波のメカニズムと災害：津波の発生するしくみと、引き起こされる災害について学ぶ。（担当：井上）</p>			

第7回：活断層：日本列島の活断層分布やその調査方法について学ぶ。（担当：井上）

第8回：火山のメカニズムと災害：火山の構造や、噴火により引き起こされる災害、防災のための監視システム等について学ぶ。（担当：井上）

第9回：. 地質リスクと防災：地質の特徴や地質構造の特徴によって発生する可能性の高い危険（リスク）について学ぶとともに防災に対する考え方を学ぶ。（担当：北田）

第10回：都市地盤の形成と災害1：都市が発達する地盤の形成過程や特徴について学ぶ。（担当：井上）

第11回：都市地盤の形成と災害2：都市特有の地盤が引き起こす災害について学ぶ。（担当：井上）

第12回：地下水と水循環：地表部の水の循環と地下水などについて、メカニズムや利活用について学ぶ。（担当：北田）

第13回：地球環境の変化（温暖化とその影響）：最近の地球環境の変化や温暖化の傾向およびその影響について学ぶ。（担当：北田）

第14回：持続可能な地球資源と再生熱エネルギー利用：地球環境問題、特にエネルギー資源についての利活用状況と問題、最新の技術などについて学ぶ。（担当：北田）

第15回：まとめ、理解度の試験：総合的なまとめと到達度の確認試験（担当：北田）

テキスト

なし。授業時の配布プリントが中心。

参考書・参考資料等

地球惑星科学入門 在田一則・竹下徹・見延庄士郎・渡部重十編著 北海道大学出版会

地球のしくみ 新星出版社編集部 新星出版社

図解雑学 地震 尾池和夫 ナツメ社

適宜、配布プリント中に示す。

学生に対する評価

定期試験を行わず、到達度の確認(筆記による学力確認)と平常成績で評価する。到達度確認試験の成績60%、平常点(受講態度、確認試験(毎回実施))30%、レポート10%の割合で評価する。履修者数が多数になった場合には、成績評価方法を「定期試験(16週目)」に変更することがあります。

授業科目名： 物理学実験	教員の免許状取得のための 中学校 必修科目 高等学校 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 筒井 和幸、稲田 貢、 蓑茂 工将、中田 祥之 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・力学と電磁気学の基本法則に関する実験を通じた理解 ・物理量を測定するための測定器具の扱い方についての習熟 ・表計算ソフトを用いたデータ処理の方法、レポート作成技術の習得 ・プレゼンテーション技術の習得 			
授業の概要			
<p>力学と電磁気学の基本法則について実験を行う。自然界の現象とその法則性を実験によって体験することでそれらについての理解を深める。法則を実証する方法、測定器具の扱い方、表計算ソフトによるデータ処理方法について学習する。自分の行った実験内容をプレゼンテーションするための技術やレポートの書き方についても習得する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス（実験の進め方、測定機器の取り扱い方、データ処理の方法、レポートの作成方法等についての説明）</p> <p>第2回：表計算ソフトを用いたデータ処理及びグラフの作成方法についての講義と演習</p> <p>第3回：文書作成ソフトを用いた科学的なレポート（論文）の作成方法についての講義と演習。 効果的なプレゼンテーションを行うための資料の作成方法についての講義と演習。</p> <p>第4回：班別実験1（下の実験テーマ1～9の実験を週替わりにローテーションで行う。以下同様）</p> <p>第5回：班別実験2</p> <p>第6回：班別実験3</p> <p>第7回：プレゼンテーション1（班別実験3のテーマについて）</p> <p>第8回：班別実験4</p> <p>第9回：班別実験5</p> <p>第10回：班別実験6</p> <p>第11回：プレゼンテーション2（班別実験6のテーマについて）</p> <p>第12回：班別実験7</p> <p>第13回：班別実験8</p> <p>第14回：班別実験9</p>			

第15回：授業のまとめと振り返り（実験への取り組み、レポート作成、プレゼンテーションを振り返って）

〔実験テーマ〕

力学系

1. 力のつり合い

3方向の力のつり合いや、壁に立てかけられた棒に作用する力のつり合いを測定により検証する。

2. 運動の第2法則

台車に加えた力と台車に生じた加速度の関係から、運動の第2法則を検証する。

3. 空気中の運動

空気中を落下する物体に速度に比例する抵抗がはたらくと考えると比例定数を推定する。

4. ばね振り子の運動

フックの法則からばね定数を求め、ばね振り子が行う単振動の周期について考察する。

5. ジュール熱と水の比熱

抵抗線で発生するジュール熱で水を加熱し、温度変化から水の比熱を測定する。

電磁気学系

6. 等電位線と電気力線

電気力線と等価な電流による電位をデジタルテスターで測定し、等電位線と電気力線を描く。

7. コンデンサーの電気容量

充電電流の時間変化を測定し、理論との比較から電気容量を求める。

8. オームの法則

銅線・導体・導電紙・豆電球について電圧と電流の関係を調べ、抵抗値や抵抗率を調べる。

9. 直線電流がつくる磁界

地磁気の水平成分と比較することで直線電流がつくる磁界に関する法則を検証する。

テキスト

岩田順敬、浅川誠、大政義典、藤井和成 共著 『理工系の基礎物理学実験』（学術図書出版社）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

レポート課題（60%）、プレゼンテーション（10%）、実験・発表等に取り組む姿勢（30%）によって評価する。

授業科目名： 化学実験	教員の免許状取得のための 中学校 必修科目 高等学校 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 奥野 陽太、藤本 和士、 福 康二郎、田中 俊輔、 樋口 雄斗 担当形態： 複数・クラス分け
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本実験の達成目標としては、以下の①、②、③である。</p> <p>①知識・技能の観点</p> <p>試薬の取扱い、および化学実験の基礎的な操作を修得する。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力</p> <p>レポートの書き方を修得する。また、実験結果に対する適切な考察をすることができる。</p> <p>③主体的な態度の観点</p> <p>実験開始前に使用する試薬の特性などを把握し、安全に実験をするための段取りができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>化学は様々な物質を探求し、その情報を蓄積して、豊かな生活を営むために、これらの情報を利用する学問である。そのため、物質の性質を明らかにし、目的の物質を合成する方法、あるいは分離・精製・分析する方法が開発されてきた。このように蓄積された膨大な物質についての情報は、貴重な知的財産であるとともに、現代における文化的生活を支える根源をなしている。化学実験の目的は、化学の基礎的手法である分離・分析法および機能性物質の合成法の習得を通して、講義等で学ぶ知識を身をもって実践し、物質に対する的確な判断力を養うことにある。したがって、この科目を習得することにより、(1)知識に基づく系統的な実験計画を立てることができるようになり、(2)自然に対する鋭い眼識を養うことを目指している。さらに、レポート作成を通して、技術者・研究者の必須的な能力とされている報告書作成の技術を体得するように指導する。化学実験は個人またはグループで行い、組分け別に従って与えられたテーマを順に移動しながら実践していく。なお、化学実験は薬品・ガラス器具等を取り扱うため、これらを誤って使用すれば大変危険であるので、実験中は指導教員の注意や指示に従うことは勿論のこと、自らも十分に注意することが大切である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション1；陽イオン分析系の伝達1（実験を行う上での規則・注意、薬品・</p>			

ガラス器具等の取扱い、レポート・実験ノート・整理ノートについて、テーマの時間割についての講義)

第2回：オリエンテーション2；陽イオン分析に係る伝達2（陽イオン定性分析実験に関する講義）

第3回：陽イオン分析（1族・2族）

第4回：陽イオン分析（3族）

第5回：陽イオン分析（4族）

第6回：未知試料分析 1回目

第7回：未知試料分析 2回目

第8回：オリエンテーション3；一般実験に係る伝達

第9回：一般実験1（中和滴定）

第10回：一般実験2（有機化学反応）

第11回：一般実験3（錯体の合成と性質）

第12回：一般実験4（電気分解による金属の合成（めっき））

第13回：ノートチェック指導日

第14回：プレゼンテーション準備

第15回：プレゼンテーション

テキスト

化学教科書研究会編 『新基礎化学実験』（化学同人）

参考書・参考資料等

日本化学会編『第4版化学実験の安全指針』（丸善）

東京大学教養学部化学教室編『化学実験』（東京大学出版会）

名古屋工業大学化学教室編『化学実験』（学術図書出版社）

千葉工業大学自然系化学教室編『化学実験指針』（学術図書出版社）

北海道大学自然科学基礎実験（化学）実験書編集委員会編『自然化学基礎実験（化学編）』（三共出版）

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。 レポート(40%)と平常点(60%)により評価する。

授業科目名： 生物学実験	教員の免許状取得のための 中学校 必修科目 高等学校 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 岩木 宏明、安原 裕紀、 岡野 憲司
			担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
授業のテーマ及び到達目標 実験を通じて、教育者として必要な基本的技術や考え方を修得させる。また、レポートを作成することにより、課題のまとめ方などを修得させる。			
授業の概要 本科目は、教員免許取得に必要な実験科目として開講される。生物学を体験して学習することは、理学的知識の獲得のみならず多くの社会問題を解決する応用技術の素養の面でも必要不可欠である。従って、基本的な実験技術の修得や現象の理解に加え、理科教育者として学生実験を設定・実施する能力を養うことを目的とする。			
授業計画 地球上には、多種多様な動植物が生息している。身近な生き物などを材料として、観察や実験を行い、生物を研究するために用いられている基本的な方法を体験するとともに、顕微鏡取扱い・生物の形態と機能・酵素反応などについて理解させる。			
<p><実験・実習内容></p> <p>第1回：ガイダンス（注意事項および全体の解説）（岩木・岡野）</p> <p>第2回：光学顕微鏡を用いた生物試料の観察（1）解説（岩木・岡野）</p> <p>第3回：光学顕微鏡を用いた生物試料の観察（2）顕微鏡の調整（岩木・岡野）</p> <p>第4回：光学顕微鏡を用いた生物試料の観察（3）細胞分裂の観察（岩木・岡野）</p> <p>第5回：光学顕微鏡を用いた生物試料の観察（4）生きた植物細胞の観察（岩木・岡野）</p> <p>第6回：光学顕微鏡を用いた生物試料の観察（5）ディスカッション（岩木・岡野）</p> <p>第7回：有用微生物の単離（1）解説とマイクロピペット使用法（岩木）</p> <p>第8回：有用微生物の単離（2）培地の作成（岩木）</p> <p>第9回：有用微生物の単離（3）サンプル収集と希釈法（岩木）</p> <p>第10回：有用微生物の単離（4）無菌操作、培地への塗布とストリーク法（岩木）</p> <p>第11回：有用微生物の単離（5）デンプン分解菌の検出（岩木）</p> <p>第12回：有用微生物の単離（6）ディスカッション（岩木）</p>			

- 第13回：酵素実験 (1) 解説 (岩木・岡野)
- 第14回：酵素実験 (2) グルコース定量 (検量線の作成) (岩木・岡野)
- 第15回：酵素実験 (3) 食品中のグルコース定量 (岩木・岡野)
- 第16回：酵素実験 (4) 大腸菌の形質転換とPCR (岩木・岡野)
- 第17回：酵素実験 (5) 大腸菌での異種酵素の発現・蛍光タンパク質の観察 (岩木・岡野)
- 第18回：酵素実験 (6) ディスカッション (岩木・岡野)
- 第19回：自然史博物館の見学 (1) 導入学習 (岩木・安原)
- 第20回：自然史博物館の見学 (2) 大阪の自然史・第1展示室 (岩木・安原)
- 第21回：自然史博物館の見学 (3) 第2・第3展示室 (岩木・安原)
- 第22回：自然史博物館の見学 (4) 第4・第5展示室 (岩木・安原)
- 第23回：自然史博物館の見学 (5) バーチャル特別展 (岩木・安原)
- 第24回：自然史博物館の見学 (6) 中学校における理科教育への活用法の検討 (岩木・安原)
- 第25回：レポート作成 (1) 実験ノート (岩木)
- 第26回：レポート作成 (2) 光学顕微鏡を用いた生物試料の観察 (岩木)
- 第27回：レポート作成 (3) 有用微生物の単離 (岩木)
- 第28回：レポート作成 (4) 酵素実験 (岩木)
- 第29回：レポート作成 (5) 自然史博物館の見学 (岩木)
- 第30回：レポート作成 (6) 総合まとめ (岩木)

テキスト

実験書をLMSに掲載するので各自印刷して持参すること。実験書を持参しない場合は大幅な減点となる。

参考書・参考資料等

遺伝学普及会編『蔵出し生物実験 生物の科学遺伝別冊No18』裳華房

日本生物工学会編『生物学実験書 (改訂版)』培風館

芝 哲夫 (監修)、泉 美治、加藤 俊二、小川 雅弥、塩川 二郎 『化学のレポートと論文の書き方』化学同人

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

平常点100% (実験に取り組む姿勢やレポートのまとめ方等を総合的に評価する。)

授業科目名： 地学実験	教員の免許状取得のための 中学校 必修科目 高等学校 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 土井一生、武川順一、 岩井裕正 担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
授業のテーマ及び到達目標 地学あるいは地盤に関する災害等について、新聞やニュースで報道される内容を概ね理解できる、あるいは少なくとも興味を持って接することが出来る。			
授業の概要 教職課程の講義であることを考慮して、これまで地学を学んだことのない学生あるいは全く地学に縁の無かった学生にも分かりやすいように配慮し、一般教養として地学に関する幅広い知識を習得することを目指します。土砂災害、斜面災害に関する話題にも触れます。 ほかに、地震時に生ずる液状化被害など地盤災害に関する実験も紹介し、それらに対する考察を行うことで理解を深めます。 また、地球の地下資源とそれを発見するための地下探査法、化石燃料の採掘や再生可能エネルギーの利用・それに関連する諸問題について学ぶことで、地球規模のエネルギー・環境問題について理解を深めます。			
授業計画 第1回～第5回 課題を各自実施し、レポートを提出する。次の課題に取り組む周辺知識の解説を実施する。 ・課題1-1「地下探査法」 ・課題1-2「再生可能エネルギー」 第1回：地下探査法に関する基礎実験と解析、地価を可視化する技術について（担当：武川） 第2回：解析手法の解説 順問題と逆問題（担当：武川） 第3回：数値実験の実施 地震波トモグラフィ（担当：武川） 第4回：再生可能エネルギーと地下のモニタリング 光ファイバを用いた計測（担当：武川） 第5回：まとめとレポート作成（担当：武川） 第6回～第20回 次の課題を各自実施し、レポートを提出する。質問は随時受け付ける。 ・課題2-1「地球の大きさ」 ・課題2-2「プレートテクトニクス」			

- ・課題2-3「地震活動」

- ・課題2-4「地質図」

- ・課題2-5「大阪平野の形成史」

- ・課題2-6「大気」

- ・課題2-7「カオス」

第6回：ガイダンス 授業の進め方

第7回：測量実験（1）：地球の大きさ（担当：土井）

第8回：測量実験（2）：プレートテクトニクス（担当：土井）

第9回：測量実験（3）：地震活動と地震予知（担当：土井）

第10回：測量実験に関するレポートと取りまとめ（担当：土井）

第11回：地層の観察（1）：地層の形成（担当：土井）

第12回：地層の観察（2）：地すべり（担当：土井）

第13回：地層の観察（3）：がけ崩れ（担当：土井）

第14回：地層の観察（4）：土石流（担当：土井）

第15回：地層の観察に関するレポートと取りまとめ（担当：土井）

第16回：大気と計測（1）：気象のメカニズム（担当：土井）

第17回：大気と計測（2）：気象と観測（担当：土井）

第18回：大気と計測（3）：衛星画像と解析（担当：土井）

第19回：大気と計測（4）：気象予測とカオス性（担当：土井）

第20回：大気の計測に関するレポートと取りまとめ（担当：土井）

第21回～第30回 課題を各自実施し、レポートを提出する。次の課題に取り組む周辺知識の解説を実施する。

- ・課題3-1「液状化被害」

- ・課題3-2「海底地盤工学」

- ・課題3-3「海底地すべりと津波」

第21回：液状化実験（1）：地質から読み解く液状化リスク（担当：岩井）

第22回：液状化実験（2）：液状化のメカニズム（担当：岩井）

第23回：液状化実験（3）：液状化実験（担当：岩井）

第24回：液状化実験（4）：液状化とその対策（担当：岩井）

第25回：実験の結果と考察に関するレポートの取りまとめ（担当：岩井）

第26回：海底地盤工学（1）：海底地盤の形成（担当：岩井）

第27回：海底地盤工学（2）：海底地盤の工学的性質（担当：岩井）

第28回：海底地盤工学（3）：海底地すべり（担当：岩井）

第29回：海底地盤工学（4）：海底地すべりによる津波のメカニズム（担当：岩井）

第30回：津波により励起される海底地すべり実験の観察とレポートの取りまとめ（担当：岩井）

テキスト

釜井俊孝 宅地崩壊 NHK出版・新書

釜井俊孝 埋もれた都の防災学 京都大学学術出版会・学術選書

釜井俊孝 宅地の防災学 京都大学学術出版会・学術選書

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

評価割合は、実験中に指示する各回のレポート課題（100%）とする。

授業科目名：グリーンエレクトロニクス工学実験I	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：稲葉 優文、大堀 大介、大澤 穂高、和田友孝、米津 大吾、吉田 壮 担当形態：複数・クラス分け
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グリーンエレクトロニクスの基礎理論を体得していること 2. 計測・製作技術を習得していること 3. 物理量の大きさに対する感覚が身についていること 4. データの処理・解析方法および報告書の作成方法、プレゼンテーション方法を習得していること 			
<p>授業の概要</p> <p>本実験科目では、以下の諸点を目的としてグリーンエレクトロニクスの基礎に関する実験を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グリーンエレクトロニクスの基礎理論の体得 各実験では、講義や書籍などで学ぶ事項を実際の物理現象として観察することにより、基礎となる原理や理論などに対する理解を深める。また、理論と実験結果の差異を検討することにより、理論の成立範囲を把握することや予期しなかった結果の考察を行うことも重要である。 2. 計測・製作技術の習得 物理現象を観察するために必要な計測器であるオシロスコープ、標準信号発生器、高周波電力計、周波数計、電圧・電流計、メモリレコーダー、光パワーメータ、分光器、光検出器、金属反射顕微鏡、表面膜厚計などの適切な使用方法を身に付ける。なお、多くの実験では測定器はあらかじめ指定されているが、各実験を通じて、各自が適切に計測器の種類や仕様を選定できるようになることが望ましい。また、クリーンルームにて半導体デバイスの製作を行うことでウェットステーション（ドラフト）や薬品、熱酸化炉、エッチング装置などの使用方法とその動作原理を身に付ける。 3. 物理量の大きさに対する感覚の養成 			

取り扱う現象・装置・材料などの性質を表す物理量の大きさ(数値)に対する感覚を養い、その大きさを通じて現象等の性質を具体的に知ることは、工学技術者にとって原理や理論の習得に劣らず大切なことである。

4. データの処理・解析方法および報告書の作成方法、プレゼンテーション方法の習得
実験から適切な結論を導くための実験データの適切な処理と解析方法を身に付ける。また、その結果得られた知見を十分に伝達するための適切な報告書の作成方法を身に付ける。さらに、実験結果をプレゼンテーション資料にまとめ、発表することでプレゼンテーション能力を養う。

授業計画

少人数の班を編成し、以下の実験項目について実験を行う。実験を行った翌週は報告書作成日とし、指定した教室において報告書の作成・提出を行う。また、各班は指定された実験テーマについて1回プレゼンテーションを行う。

第1回：ガイダンスとレポートの書き方

第2回：計測実習1(オシロスコープの使用法)

第3回：計測実習2(PCによるデータの読み取り・グラフ作成方法)

第4回：クリーンルーム内外でのパーティクル観察

第5回：シリコンウェハの洗浄

第6回：酸化プロセス

第7回：ドライエッチング

第8回：ダイオードの特性試験と整流回路1(各種ダイオードの電流電圧特性)

第9回：ダイオードの特性試験と整流回路2(ダイオードを用いた各種整流回路)

第10回：トランジスタとFETの特性試験1(トランジスタの特性)

第11回：トランジスタとFETの特性試験2(FETの特性)

第12回：パッシブフィルタ1(ローパスフィルタと積分回路の実験及びシミュレーション)

第13回：パッシブフィルタ(ハイパスフィルタと微分回路の実験及びシミュレーション)

第14回：プレゼンテーションの作成と発表方法

第15回：プレゼンテーション

テキスト

テキストは関大LMSからpdfファイルの形で配布する。

参考書・参考資料等

田實佳郎 電気電子計測 オーム社

前田 和夫 はじめての半導体プロセス(現場の即戦力) 技術評論社

樋口英世 『例題で学ぶアナログ電子回路入門』 森北出版
佐藤義久 新インターユニバーシティ 電気回路II オーム社

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

実験の成績は、以下の評価によって決まる

1. 実験中の評価：実験への貢献度、実験の態度など。
2. 報告書の評価：形式、実験の目的・原理・方法の理解度、データの処理法、グラフの書き方、実験結果の考察・検討、演習課題の理解度、まとめ方など。
3. プレゼンテーション評価：プレゼンテーション資料のまとめ方、発表方法など。

(1の割合を50%、2と3を合わせた割合を50%とする。)

授業科目名：グリーンエレクトロニクス工学実験II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単 位	担当教員名：宝田 隼、稲葉 優文、伊藤 秀隆、佐伯 拓、和田 友孝、近藤 健一 担当形態： 複数・クラス分け
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グリーンエレクトロニクスの基礎理論を体得していること 2. 計測・製作技術を習得していること 3. 物理量の大きさに対する感覚が身についていること 4. データの処理・解析方法および報告書の作成方法、プレゼンテーション方法を習得していること 			
<p>授業の概要</p> <p>本実験科目では、以下の諸点を目的としてグリーンエレクトロニクスの基礎に関する実験を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グリーンエレクトロニクスの基礎理論の体得 各実験では、講義や書籍などで学ぶ事項を実際の物理現象として観察することにより、基礎となる原理や理論などに対する理解を深める。また、理論と実験結果の差異を検討することにより、理論の成立範囲を把握することや予期しなかった結果の考察を行うことも重要である。 2. 計測・製作技術の習得 物理現象を観察するために必要な計測器であるオシロスコープ、標準信号発生器、高周波電力計、周波数計、電圧・電流計、メモリレコーダー、光パワーメータ、分光器、光検出器、金属反射顕微鏡、半導体パラメータアナライザなどの適切な使用方法を身に付ける。また、最初にテストの製作を行うことで使用方法だけでなく、工具の適切な使い方やテストの動作原理を身に付ける。さらにクリーンルームにて半導体デバイスの製作を行うことでスピナー、EB 描画装置、マスクアライナ、ウェットステーション（ドラフト）、スパッタ装置などの使用方法とその動作原理を身に付ける。 3. 物理量の大きさに対する感覚の養成 取り扱う現象・装置・材料などの性質を表す物理量の大きさ(数値)に対する感覚を養い、その 			

大きさを通じて現象等の性質を具体的に知ることは、工学技術者にとって原理や理論の習得に劣らず大切なことである。

4. データの処理・解析方法および報告書の作成方法、プレゼンテーション方法の習得
 実験から適切な結論を導くための実験データの適切な処理と解析方法を身に付ける。また、その結果得られた知見を十分に伝達するための適切な報告書の作成方法を身に付ける。さらに、実験結果をプレゼンテーション資料にまとめ、発表することでプレゼンテーション能力を養う。

授業計画

少人数の班を編成し、以下の実験項目について実験を行う。 実験を行った翌週は報告書作成日とし、指定した教室において報告書の作成・提出を行う。また、各班は指定された実験テーマについて1回プレゼンテーションを行う。

- ・製作実習(テストの製作)
- ・無線通信の実験
- ・単相変圧器と磁化曲線
- ・共振回路の特性試験
- ・標本化と量子化
- ・LEDの発光・受光特性に関する実験

第1回：ガイダンスとレポートの書き方

第2回：製作実習1(テストの製作)

第3回：製作実習2(テストの動作確認と原理)

第4回：フォトリソグラフィによるパターン形成1（フォトリソグラフィによるパターン形成）

第5回：フォトリソグラフィによるパターン形成2（形成したパターンの評価）

第6回：金属薄膜の堆積とリフトオフプロセスによる電極形成1（電極形成）

第7回：金属薄膜の堆積とリフトオフプロセスによる電極形成2（形成した電極の評価）

第8回：共振回路の特性試験1（直列及び並列共振回路の特性実験及びシミュレーション）

第9回：共振回路の特性試験2（共振コイルに接近する金属の影響及び非接触給電）

第10回：標本化と量子化1（AD変換器とDA変換器のDC入出力特性の評価）

第11回：標本化と量子化2（AD変換の入出力AC特性の評価とエイリアシング）

第12回：LEDの発光・受光特性に関する実験1（LEDの電圧・電流特性とパワー効率）

第13回：LEDの発光・受光特性に関する実験2（LEDの発光強度及び受光感度特性）

第14回：プレゼンテーションの作成と発表方法

第15回：プレゼンテーション

テキスト

テキストは関大LMSからpdfファイルの形で配布する。

なお、印刷に関する詳細な指示はガイダンス時に行う。

参考書・参考資料等

前田 和夫 はじめての半導体プロセス（現場の即戦力） 技術評論社

大橋俊介 電気・電子工学ライブラリ 電気回路 数理工学社

福田明 『基礎通信工学』（森北出版）

高橋清, 山田陽一共著, 半導体工学 半導体物性の基礎, 第9章 森北出版株式会社

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

本科目の成績は、以下の評価によって決まる。

1. 実験中の評価：実験への貢献度、実験の態度など。
 2. 報告書の評価：形式、実験の目的・原理・方法の理解度、データの処理法、グラフの書き方、実験結果の考察・検討、演習課題の理解度、まとめ方など。
 3. プレゼンテーション評価：プレゼンテーション資料のまとめ方、発表方法など。
- (1の割合を50%、2と3を合わせた割合を50%とする。)

授業科目名： 理科教育法（一）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平田 豊誠
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理科という教科の意義・目標を理解し説明できる。 2. 理科の学習領域・内容を理解し説明できる。 3. 理科における学力と評価の在り方について理解し説明できる。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 理科指導技術の基本を身につけている。 5. 理科指導に適した情報通信技術の活用能力を身につけている。 			
<p>授業の概要</p> <p>中学校、高等学校での理科教育を行う上で必要となる基礎的事項（理科教育の意義・目標、各領域の内容と指導法、評価方法、観察・実験指導等）について概説する。学修した内容についてグループワークやワークショップ等の学習形態も用いながら、具体的事例を用いて考察し、理科の授業構成と授業実践を実施するにあたっての必要な基礎的力量を育成する。本講義は後の（二）（三）（四）の基礎となる内容である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 理科教育の歴史と現状</p> <p>第2回：理科教育の意義・目標</p> <p>第3回：科学の方法 問題解決の過程</p> <p>第4回：科学の方法 素朴概念と理科教育</p> <p>第5回：科学の方法 観察・実験の指導（情報通信技術の活用含む）</p> <p>第6回：理科の学習領域 エネルギー（内容）</p> <p>第7回：理科の学習領域 粒子（内容）</p> <p>第8回：理科の学習領域 生命（内容）</p> <p>第9回：理科の学習領域 地球（内容）</p> <p>第10回：理科における主要な学習指導方法論</p> <p>第11回：理科における評価のあり方</p> <p>第12回：学習指導案の作成基礎 本時の指導過程（情報通信技術の活用含む）</p> <p>第13回：学習指導案の作成基礎 指導案内容検討（情報通信技術の活用含む）</p>			

第14回：模擬授業の実施と研究協議（情報通信技術の活用含む）

第15回：まとめ 試験と講評

テキスト

山下芳樹，藤岡達也 編著『授業づくりのための中等理科教育法：不易と流行のエッセンス』
（ミネルヴァ書房） 978-4623093793

その他，必要に応じて講義内容に関するプリントを配布する。

参考書・参考資料

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編』（学校図書）978-4762506130

文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 理科編・理数編』（実教出版）978-4407348736

『新しい科学 1年～3年』（東京書籍）

文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』

文部科学省 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

毎回の授業前後の課題，レポート課題や学習指導案の作成等70%，授業内試験30%

授業科目名： 理科教育法（二）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平田 豊誠
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①知識・技能の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理科授業実践する知識や技能を習得し、授業設計を行うことができる。 2. 学習指導案を作成し、授業をデザインする力を培い、指導案に反映することができる。 3. 理科指導に応じた生徒の情報通信技術の活用能力の育成方法を身につけている。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 模擬授業を通して、授業展開の技法・授業改善の視点を身につけ実践できる。 5. 授業観察と協議、模擬授業の省察を通して発展的な学習内容について探求し、学習指導の向上に活かすことができる。 			
授業の概要			
<p>理科授業を実践する上で必要な基本的な内容や方法、技能について説明する。主な内容として、学習指導要領理科の目標と内容、教材研究の方法と授業づくりについて解説する。これらに基づき理科授業における学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。グループでの協議を基本とし、講評、省察、改善を通して授業づくりの基本を身につけていく。本講義は理科教育法（一）をふまえた実践的内容である。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 理科の授業の実際			
第2回：学習指導要領理科の目標と内容および評価			
第3回：学習指導案の作成 教科書、教材分析			
第4回：学習指導案の作成 指導観、単元指導計画・評価計画			
第5回：学習指導案の作成 授業展開			
第6回：授業観察と協議 エネルギー領域			
第7回：授業観察と協議 粒子領域			
第8回：授業観察と協議 生命領域			
第9回：授業観察と協議 地球領域			
第10回：授業観察と協議 模擬授業実施に向けて			
第11回：模擬授業の実施と協議 （エネルギー、粒子領域）			
第12回：模擬授業の実施と協議 （生命、地球領域）			

第13回：模擬授業の実施と協議 情報通信技術の活用能力育成（情報通信技術の活用含む）

第14回：模擬授業の実施と協議 授業検討会 評価

第15回：まとめ 試験と講評

授業観察と協議において、中学校理科の授業視察や研究授業参加を要請します。

上記を実施する場合には他の曜日等にまとめて行います。

テキスト

山下芳樹，藤岡達也 編著『授業づくりのための中等理科教育法：不易と流行のエッセンス』

（ミネルヴァ書房）978-4623093793

その他，必要に応じて講義内容に関するプリントを配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編』（学校図書）978-47625061

30

文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 理科編・理数編』（実教出版）97

8-4407348736

『新しい科学 1年～3年』（東京書籍）

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』

文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

毎回の授業前後の課題，学習指導案の作成や授業中の課題，模擬授業等での発表等70%，授業

内試験30%

授業科目名： 理科教育法（三）	教員の免許状取得のための 中学校 必修科目 高等学校 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平田 豊誠
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①知識・技能の観点</p> <p>1. 教材開発の方法，教材研究の進め方を習得する</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <p>2. 理科授業の実践的な指導力を習得する</p> <p>3. 理科教授学習論を基にした授業展開の方法を習得する。</p>			
授業の概要			
理科教育法(一)(二)を踏まえて，理科教育法の実際についてより深く学び，授業の実践的な指導力を習得する。学習論に基づく教授法，教材開発，教材研究の実際について認識と理解を深める。中学校での指導を主とし，グループでの学習・協議を基本として，省察，改善を通して指導力・指導方法を身につけていく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 理科の学習論			
第2回：理科授業 中学校理科の目標と内容および評価			
第3回：理科授業 問題解決の力，探究の過程 全国学力・学習状況調査			
第4回：教材研究と授業展開の方法 教材を用いた授業			
第5回：教材研究と授業展開の方法 授業計画（評価の計画）			
第6回：教材研究と授業展開の方法 指導案作成			
第7回：教材研究と授業展開の方法 模擬授業			
第8回：教材研究と授業展開の方法 授業の省察と指導案の改善			
第9回：教材開発の方法 教材開発の手順と基本的技術			
第10回：教材開発の方法 教材の収集と作成方法			
第11回：教材開発の方法 ワークシートの作成方法			
第12回：教材開発の方法 地域教材の資料収集・開発			
第13回：教材開発の方法 評価問題，ルーブリックの開発			
第14回：模擬授業と研究協議 授業づくりの観点			
第15回：まとめ 試験と講評			
教材開発において，地域のフィールドワークを行う場合があります。			

教材研究において、中学校理科の授業視察や研究授業参加を行う場合があります。

上記を実施する場合には他の曜日等にまとめて行います。

テキスト

山下芳樹，藤岡達也 編著『授業づくりのための中等理科教育法:不易と流行のエッセンス』
(ミネルヴァ書房) 978-4623093793

参考書・参考資料等

左巻健男，吉田安規良 編著『新指導要領対応 新訂 授業に活かす! 理科教育法 —中学・高等学校編—』(東京書籍) 978-4487812448

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編』(学校図書) 978-4762506130

文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 理科編・理数編(実教出版) 978-4407348736

『新しい科学 1年～3年』(東京書籍)

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』

文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

レポート課題(教材開発の課題，資料の提出など)40%，教材開発や課題発表等30%，試験30%

授業科目名： 理科教育法（四）	教員の免許状取得のための 中学校 必修科目 高等学校 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平田 豊誠
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①知識・技能の観点 1. 理科指導の実践力を習得する			
②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 2. 理科授業観察・研究協議を踏まえ、理科授業づくりの方法を習得する 3. 模擬授業や学校教育現場を通して専門性を身につける			
授業の概要			
理科教育法(一)(二)(三)を踏まえて、理科教育、指導法の実際についてより深く学び、理科指導の実践力を習得する。実際の理科授業観察・研究協議を踏まえ、主体的・対話的で深い学びにつながる理科授業づくりについて開発を行い、模擬授業を通して理科指導の実践力・専門性を身につけていく。中学校での指導を主とし、グループでの学習・協議を基本として、省察、改善を通して指導力・専門性を身につけていく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 理科指導の実際			
第2回：理科授業づくり 素朴概念と教材研究の必要性			
第3回：理科授業づくり 主体的・対話的で深い学びとなる授業			
第4回：理科授業づくり 指導と評価の一体化			
第5回：理科授業づくり 今求められている理科授業（討議）			
第6回：授業観察と研究協議 理科授業参観（物理・化学領域）			
第7回：授業観察と研究協議 研究協議（物理・化学領域）			
第8回：授業観察と研究協議 理科授業参観（生物・地学領域）			
第9回：授業観察と研究協議 研究協議（生物・地学領域）			
第10回：授業観察と研究協議 授業目標と評価の観点			
第11回：作問の授業 ガイダンスと例題			
第12回：作問の授業 問題推敲			
第13回：作問の授業 相互回答、解説			
第14回：理科室経営 薬品管理と備品管理			
第15回：まとめ 試験と講評			

授業づくり，教材研究において，地域のフィールドワークを行う場合があります。

授業観察において，中学校理科の授業視察や研究授業参加を要請します。

上記を実施する場合には他の曜日等にまとめて行います。

テキスト

山下芳樹，藤岡達也 編著『授業づくりのための中等理科教育法:不易と流行のエッセンス』
(ミネルヴァ書房) 978-4623093793

参考書・参考資料等

左巻健男，吉田安規良 編著『新指導要領対応 新訂 授業に活かす!理科教育法—中学・高等学校編一』(東京書籍) 978-4487812448

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 理科編』(学校図書) 978-4762506130

文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 理科編・理数編』(実教出版) 978-4407348736

『新しい科学 1年～3年』(東京書籍)

文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』

文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

レポート課題(教材開発の課題，資料の提出など)40%，模擬授業や課題発表等30%，試験30%

授業科目名： 学校経営と学校図書館	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 米谷 優子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点 学校図書館や司書教諭の意義とその役割に関する基本を理解する</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 司書教諭としての実務に即した力を身につける</p> <p>③主体的な態度の観点 学校図書館への理解を深め、主体的に学校図書館を運営する力を高めることができる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校図書館の専門的業務を掌る役割をもつ司書教諭の在り方や業務について、全般的に学習し理解を図って、司書教諭としての知識・技能の基礎力を培う</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概要・計画</p> <p>第2回：学校図書館の法的位置づけ</p> <p>第3回：学校教育と学校図書館</p> <p>第4回：学校図書館の歴史と発展</p> <p>第5回：学校図書館の機能</p> <p>第6回：学校図書館の経営</p> <p>第7回：学校図書館の経営要素1（施設・設備）</p> <p>第8回：学校図書館の経営要素2（人的体制）</p> <p>第9回：学校図書館の経営要素3（学校図書館メディア）</p> <p>第10回：学校図書館の評価と改善</p> <p>第11回：学校図書館活動</p> <p>第12回：各校種の学校図書館活動</p> <p>第13回：学校図書館と他機関との協力</p> <p>第14回：学校図書館の今後</p> <p>第15回：まとめと確認</p>			
<p>テキスト</p> <p>野口武悟、前田稔 『学校経営と学校図書館』改訂2版 放送大学教育振興会 978-4-595-32</p>			

427-7

参考書・参考資料等

授業時に指示する

学生に対する評価

定期試験を行わず、到達度の確認(筆記による学力確認)と平常成績で総合評価する。

到達度確認 (70%) 平常課題 (30%)

(履修者数が多数になった場合には、成績評価方法を「定期試験(16週目)」に変更することがあります。成績評価方法が変更になった場合は、インフォメーションシステム等で連絡します。)

授業科目名： 学習指導と学校図書館	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 塩谷 京子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導における学校図書館の活用方法についての知識・技能を修得する。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報リテラシーの理論を理解し、実践的な手法を身に付ける。 ・自身の経験や本科目で得た知識・技能をもとに、学習指導における学校図書館の役割について理解する。 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の発達段階やつまづきなどを想定し、指導者として学校図書館の機能を活用するときに必要なスキルを修得しようとしている。 			
<p>授業の概要</p> <p>『学習指導と学校図書館』は、学校図書館司書教諭資格取得のための科目であるとともに、選択科目の一つでもある。学校図書館には、学習センター、情報センター、読書センターとしての機能がある。本科目では、このうち、学習センター、情報センターとしての機能を学ぶ。その際、学校現場で扱う教科書や指導内容をもとに、児童生徒の発達段階やつまづきなどを想定し、指導者として学校図書館の機能を活用するときに必要なスキルを修得できるようにする。その上で、学習指導における学校図書館の役割について理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンスと学校図書館活用の振り返り</p> <p>第2回：学習指導要領と学校図書館</p> <p>第3回：学校図書館法と学校図書館の機能</p> <p>第4回：学習センター機能と情報センター機能の整備と活用</p> <p>第5回：情報リテラシー教育の推進</p> <p>第6回：情報リテラシー教育の理論と実際(1) 課題の設定 (第1回レポート提出)</p> <p>第7回：情報リテラシー教育の理論と実際(2) 情報の収集① 図書館での情報収集</p> <p>第8回：情報リテラシー教育の理論と実際(3) 情報の収集② インターネットを用いた情報収集</p> <p>第9回：情報リテラシー教育の理論と実際(4) 整理・分析</p> <p>第10回：情報リテラシー教育の理論と実際(5) まとめ・表現① 思考スキルを用いて構造化する</p>			

第11回：情報リテラシー教育の理論と実際(6) まとめ・表現② プレゼンテーションの実施
第12回：各教科・総合的な学習の時間の学びと学校図書館活用 (第2回レポート提出)
第13回：特別支援教育と学校図書館活用
第14回：情報メディアを活用した授業と学校図書館
第15回：授業のまとめ (確認テスト)

テキスト

塩谷京子・鎌田和弘 学習指導と学校図書館 放送大学教育振興会978-4-595-32361-4

必要な資料は授業で配布する。

参考書・参考資料等

塩谷京子 すぐ実践できる情報スキル50 ミネルヴァ書房 978-4-623-07661-1

塩谷京子 探究の過程におけるすぐ実践できる情報活用スキル55 ミネルヴァ書房 978-4-623-08445-6

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

1回の確認テスト(60%)、2回のレポート(20%×2)

授業科目名： 道徳教育の理論と方法	教員の免許状取得のための 中学校 必修科目 高等学校 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中 潤一 担当形態： 単独
科 目	中学校 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 高等学校 大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	中学校 道徳の理論及び指導法 高等学校 大学が独自に設定する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・「道徳」概念と道徳教育の理論を理解する ・現代日本の学校教育（特に中学校）における道徳教育の現状を知る ・「特別な教科 道徳」の指導法の修得（学習指導案作成及び教材研究の方法、模擬授業を通しての道徳科の授業法開発） 			
授業の概要			
<p>本講義では、学校教育における道徳教育および「特別な教科 道徳」の重要性について考察する。「道徳教育の理論」においてはソクラテス、ロック、カントの道徳教育思想を参考に、道徳の本質や道徳性の発達について考察する。また日本の道徳教育の歴史を概観する。「道徳の指導法」では、道徳教育の学習指導案作成や教材研究、模擬授業などの実践を行う。具体的には中学校各学年のそれぞれの教材を使用する。道徳教育の評価や指導法の在り方を考察し、道徳教育が学校教育において持つ意義を考察する。</p>			
授業計画			
第1回：人間存在と道徳（道徳の概念、教育愛、主体的な社会形成、法や規則の重要性）			
第2回：小学校・中学校学習指導要領における道徳教育の目標と内容			
第3回：道徳教育の理論（1）道徳教育における教師の役割（ソクラテス・ロック）			
第4回：道徳教育の理論（2）子どもの道徳性の成長と自律性の育成 (シュライアーマッハー・ヘルバルト)			
第5回：道徳教育の理論（3）他者関係の構築（田辺哲学）、崇高なもの育成（西田哲学）			
第6回：道徳教育の歴史（明治から戦後）および現代の諸問題（いじめ・不登校など）			
第7回：小学校・中学校「特別な教科 道徳」の授業構成・指導計画			
第8回：「道徳科」の教材研究・学習指導案作成（「A主として自分自身に関すること」の教材から）			
第9回：模擬授業および学習指導案の再検討（「A主として自分自身に関すること」）			
第10回：「道徳科」の教材研究・学習指導案作成（「B主として人とのかかわりに関すること」の教材から）			
第11回：模擬授業および学習指導案の再検討（「B主として人とのかかわりに関すること」）			
第12回：「道徳科」の教材研究・学習指導案作成（「C主として集団や社会との関わりに関すること」「D主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること」の教材から）			
第13回：模擬授業および学習指導案の再検討（「C主として集団や社会との関わりに関すること」「D主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること」）			
第14回：道徳教育の評価について			

第15回：道徳教育における指導法

定期試験

テキスト

田中潤一編『イチからはじめる道徳教育』ナカニシヤ出版

平成29年『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示、文部科学省）

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（平成29年6月、文部科学省）

学生に対する評価

定期試験（60%）、学習指導案作成・教材研究および模擬授業（30%）、授業中小レポート（10%）

授業科目名：日本国憲法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単 位	担当教員名：磯村 晃
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法の基本的理念を学習し、全体像を把握する。 2. 憲法の重要な論点について、基礎的知識を習得する。 3. 実際に生じている憲法問題について、自ら考える能力を培う。 			
<p>授業の概要</p> <p>立憲主義(講義前半)、統治機構(講義中盤)、人権保障(講義後半)の観点から、日本国憲法を基礎的・多角的に説明する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、学問としての法学</p> <p>第2回：憲法と立憲主義</p> <p>第3回：立憲主義の発展</p> <p>第4回：立憲君主制—明治憲法下の統治構造</p> <p>第5回：立憲民主制—現行憲法下の統治構造</p> <p>第6回：統治機構総論—権力分立理論</p> <p>第7回：国会</p> <p>第8回：内閣・行政各部</p> <p>第9回：裁判所</p> <p>第10回：人権総論—「公共の福祉」の解釈論、違憲審査基準論</p> <p>第11回：個人の尊重—生命、自由、幸福追求権</p> <p>第12回：思想・良心の自由</p> <p>第13回：表現の自由</p> <p>第14回：通信の秘密</p> <p>第15回：生存権</p>			
<p>テキスト</p> <p>教科書を指定せず、予め配布するレジュメに即して講義を進める。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>参考書などは、初回のガイダンスにて案内する。</p>			

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

総括的評価(期末試験:80%)と形成的評価(日常的な学習の成果・レポートの提出等:20%)に基づいて成績を評価する。

授業科目名：健康・スポーツ科学実習 a（各種目）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1 単位	担当教員名：三浦 敬太、藤井 優子、畑山 雅史、叢 イ、竹内 秀一、島本 英樹、畔柳 俊太郎、福本 直子、相根 心、賀 欣、雑古 哲夫
			担当形態： 単独・クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種目の基礎的・実践的技術について習得する。 ・種目の成り立ちやルールについて理解し、その種目に親しむことができる。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の競技中において適切なプレーを判断し、実践することができる。 ・仲間と十分なコミュニケーションを図りながらプレーすることができる。 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加し、競技の運営・準備を円滑に進めることができる。 ・学習を振り返り、適切な改善点を考えながら取り組むことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>人生100年時代と言われる今日、生涯にわたってスポーツに親しむ「スポーツライフ」を送ることが大きな意義を持つようになりました。スポーツを行うことは、心身の健康維持・増進に役立つだけでなく、“仲間づくり”や“生きがいづくり”にも効果的です。このようなスポーツ活動を高齢期になっても継続するためには、学童期から学生時代までのライフスタイルの中で、自分自身がどのようにスポーツと関わりを持つのが重要な鍵となります。</p> <p>本授業では、生涯スポーツとしてのスポーツ種目を実践することで、スポーツの親しみ方や楽しみ方を学び、大学卒業後も自らが豊かなスポーツライフを設計・実践できる能力を培うことを目標としています。</p>			
<p>授業計画</p> <p>健康・スポーツ科学実習では種目ごとに授業を行う。</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：競技成り立ちと基本的なルール</p> <p>第3回：個人に必要な基本動作と練習方法</p> <p>第4回：対人の局面に必要な基本動作と練習方法</p>			

第5回：実戦的な局面で必要な考え方と動作

第6回：個人戦とチーム（団体）戦のルールとテクニック

第7回：ローカルルールを用いたミニゲーム①（ゲームの進め方とルールの確認）

第8回：ローカルルールを用いたミニゲーム②（競技特性を踏まえた戦略）

第9回：ローカルルールを用いたミニゲーム③（多様な戦術と戦略）

第10回：リーグ戦①（国際基準のルール下での試合の進め方）

第11回：リーグ戦②（国際基準のマナーとスポーツマンシップ）

第12回：ハンディキャップを用いたゲーム

第13回：ルールをアレンジしたゲーム（ニュースポーツ）の考案

第14回：オリジナルルール（ニュースポーツ）でのゲーム

第15回：まとめ

テキスト

実施する種目に応じて適宜紹介する

参考書・参考資料等

実施する種目に応じて適宜紹介する

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

授業参加度80%、レポート20%

授業科目名：健康・スポーツ科学実習b（各種目）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1 単位	担当教員名：三浦 敬太、藤井 優子、畑山 雅史、叢 イ、竹内 秀一、島本 英樹、畔柳 俊太郎、福本 直子、相根 心、賀 欣、雑古 哲夫
			担当形態： 単独・クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種目の基礎的・実践的技術について習得する。 ・種目の成り立ちやルールについて理解し、その種目に親しむことができる。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の競技中において適切なプレーを判断し、実践することができる。 ・仲間と十分なコミュニケーションを図りながらプレーすることができる。 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加し、競技の運営・準備を円滑に進めることができる。 ・学習を振り返り、適切な改善点を考えながら取り組むことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>人生100年時代と言われる今日、生涯にわたってスポーツに親しむ「スポーツライフ」を送ることが大きな意義を持つようになりました。スポーツを行うことは、心身の健康維持・増進に役立つだけでなく、“仲間づくり”や“生きがいづくり”にも効果的です。このようなスポーツ活動を高齢期になっても継続するためには、学童期から学生時代までのライフスタイルの中で、自分自身がどのようにスポーツと関わりを持つのが重要な鍵となります。</p> <p>本授業では、生涯スポーツとしてのスポーツ種目を実践することで、スポーツの親しみ方や楽しみ方を学び、大学卒業後も自らが豊かなスポーツライフを設計・実践できる能力を培うことを目標としています。</p>			
<p>授業計画</p> <p>健康・スポーツ科学実習では種目ごとに授業を行う。</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：競技成り立ちと基本的なルール</p> <p>第3回：個人に必要な基本動作と練習方法</p> <p>第4回：対人の局面に必要な基本動作と練習方法</p>			

第5回：実戦的な局面で必要な考え方と動作

第6回：個人戦とチーム（団体）戦のルールとテクニック

第7回：ローカルルールを用いたミニゲーム①（ゲームの進め方とルールの確認）

第8回：ローカルルールを用いたミニゲーム②（競技特性を踏まえた戦略）

第9回：ローカルルールを用いたミニゲーム③（多様な戦術と戦略）

第10回：リーグ戦①（国際基準のルール下での試合の進め方）

第11回：リーグ戦②（国際基準のマナーとスポーツマンシップ）

第12回：ハンディキャップを用いたゲーム

第13回：ルールをアレンジしたゲーム（ニュースポーツ）の考案

第14回：オリジナルルール（ニュースポーツ）でのゲーム

第15回：まとめ

テキスト

実施する種目に応じて適宜紹介する

参考書・参考資料等

実施する種目に応じて適宜紹介する

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

授業参加度80%、レポート20%

授業科目名：健康・スポーツ科学実習c（各種目）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1 単位	担当教員名：澤田 亜紀、 灘 英世、安田 忠典
			担当形態： 単独・クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種目の基礎的・実践的技術について習得する。 ・種目の成り立ちやルールについて理解し、その種目に親しむことができる。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の競技中において適切なプレーを判断し、実践することができる。 ・仲間と十分なコミュニケーションを図りながらプレーすることができる。 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に参加し、競技の運営・準備を円滑に進めることができる。 ・学習を振り返り、適切な改善点を考えながら取り組むことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>人生100年時代と言われる今日、生涯にわたってスポーツに親しむ「スポーツライフ」を送ることが大きな意義を持つようになりました。スポーツを行うことは、心身の健康維持・増進に役立つだけでなく、“仲間づくり”や“生きがいづくり”にも効果的です。このようなスポーツ活動を高齢期になっても継続するためには、学童期から学生時代までのライフスタイルの中で、自分自身がどのようにスポーツと関わりを持つのが重要な鍵となります。</p> <p>本授業では、生涯スポーツとしてのスポーツ種目を実践することで、スポーツの親しみ方や楽しみ方を学び、大学卒業後も自らが豊かなスポーツライフを設計・実践できる能力を培うことを目標としています。</p>			
<p>授業計画</p> <p>健康・スポーツ科学実習では種目ごとに授業を行う。</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：競技成り立ちと基本的なルール</p> <p>第3回：個人に必要な基本動作と練習方法</p> <p>第4回：対人の局面に必要な基本動作と練習方法</p> <p>第5回：実戦的な局面に必要な考え方と動作</p> <p>第6回：個人戦とチーム（団体）戦のルールとテクニック</p> <p>第7回：ローカルルールを用いたミニゲーム①（ゲームの進め方とルールの確認）</p>			

第8回：ローカルルールを用いたミニゲーム②（競技特性を踏まえた戦略）

第9回：ローカルルールを用いたミニゲーム③（多様な戦術と戦略）

第10回：リーグ戦①（国際基準のルール下での試合の進め方）

第11回：リーグ戦②（国際基準のマナーとスポーツマンシップ）

第12回：ハンディキャップを用いたゲーム

第13回：ルールをアレンジしたゲーム（ニュースポーツ）の考案

第14回：オリジナルルール（ニュースポーツ）でのゲーム

第15回：まとめ

テキスト

実施する種目に応じて適宜紹介する

参考書・参考資料等

実施する種目に応じて適宜紹介する

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

授業参加度80%、レポート20%

授業科目名：健康・スポーツ科学論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単 位	担当教員名：丸谷 賢弘
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点 スポーツマーケティングとスポーツツーリズムのさまざまな相互的関連性の特徴について、理解し説明できるようになる。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 各回の授業テーマについて、自分で理解したことを、口頭でわかりやすく人に説明することができる。</p> <p>③主体的な態度の観点 他者との積極的なコミュニケーションから多様な考えを知り、視野を広げることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>スポーツを通じて価値を創出するスポーツマーケティングと、旅行先での活動にスポーツの要素が含まれることで概念化されるスポーツツーリズムは、いずれも現代社会において注目されている分野です。</p> <p>スポーツイベント、スポーツチーム、スポーツ施設等のスポーツ資源を活用し、地域活性化を積極的に推進する自治体が増加しています。本講義では、スポーツマーケティングとスポーツツーリズムの定義、特徴等を概観するとともに、相互補完の視点から発展プロセス、課題等について検討します。また、スポーツ資源を活用した地域振興の具体的な取り組みを紹介し、スポーツが社会や経済にもたらす影響についての理解を深めます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：スポーツマーケティングの特性とスポーツ市場</p> <p>第3回：スポーツ消費者</p> <p>第4回：スポンサーシップとスポーツマーケティング</p> <p>第5回：スポーツメディアとマーケティング</p> <p>第6回：スポーツイベントと地域経済</p> <p>第7回：スポーツツーリズムの概念化</p>			

第8回：スポーツツーリズムの分類
第9回：スポーツツーリズムの発展プロセスと課題
第10回：スポーツツーリズムと地域振興
第11回：スポーツと観光経験
第12回：スポーツツーリズムの推進組織
第13回：スポーツツーリズムを通じた地域開発
第14回：これからのスポーツマーケティングとツーリズム
第15回：まとめ

テキスト

適宜紹介する

参考書・参考資料等

伊藤央二・山口志郎訳 『スポーツツーリズム入門』 (晃洋書房) 477103365X

原田宗彦 『スポーツ産業論：第7版』 (杏林書院) 4764415968

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

毎回の小テスト・レポート等の平常成績(70%：毎回課題点最大5点×14回分)と15週目提出となる最終レポートを(30%：30点)の合計100点満点で成績評価し、60点以上を合格とする。

授業科目名：英語 Ia	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1 単 位	担当教員名：山中 由香、 ウィルソン 陽子、 竹田 里香
			担当形態： 単独・クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>一般的な内容の話し言葉はとくに大きな支障なくほぼ理解することができ、簡単な文や単語を使って自分の意思を口頭で表現することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>指定のトピックに関するまとまった英文を [必要に応じてノートを取りながら] 聞き (Listening)、その内容について口頭で要約したり、自分の意見を加えて議論したりする (Speaking)。</p> <p>1 年次配当の英語 1ab では、易しめの素材を使い、必要に応じてテキストの音読やシャドーイング練習を行って基礎的かつ自然な英語音声の聞き取り・発音能力を養うことに力点を置く。このような活動を通じて、日常およびアカデミックな状況に対応できる口頭でのコミュニケーション中心の英語運用能力の基礎を養成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回： (Introduction) 成績・評価、授業運営などの説明</p> <p>第 2 回：Unit 1: College Life</p> <p>第 3 回：Unit 2: Understanding Copyright</p> <p>第 4 回：Unit 3: Cyber Bullying</p> <p>第 5 回：Unit 4: Tourism</p> <p>第 6 回：Unit 5: Foreign Encounters</p> <p>第 7 回：Unit 6: Entertainment</p> <p>第 8 回：Review (Units 1-6), 復習テスト</p> <p>第 9 回：Unit 7: International Affairs</p> <p>第 10 回：Unit 8: Technology</p> <p>第 11 回：Unit 9: My Future</p> <p>第 12 回：Unit 10: Personal Finance</p> <p>第 13 回：Unit 11: Health</p> <p>第 14 回：Unit 12: Diversity</p> <p>第 15 回：Review (Units 7-12), 復習テスト</p>			
テキスト			

Noriko Nakanishi, et al. Global Perspectives: Listening & Speaking Book 1 成美堂
9784791972616

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

「平常評価(100点)」の内訳は、

- a) 学期途中や学期末に行う復習テスト(40%)
- b) 単語テストなど定期的に行う小テスト(30%)
- c) 提出物・クラスでの貢献度や発表(30%)

授業科目名：英語 I b	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1 単 位	担当教員名：山中 由香、 ウィルソン 陽子、 竹田 里香
			担当形態： 単独・クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>一般的な内容の話し言葉はとくに大きな支障なくほぼ理解することができ、簡単な文や単語を使って自分の意思を口頭で表現することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>指定のトピックに関するまとまった英文を [必要に応じてノートを取りながら] 聞き (Listening)、その内容について口頭で要約したり、自分の意見を加えて議論したりする (Speaking)。</p> <p>1 年次配当の英語 lab では、易しめの素材を使い、必要に応じてテキストの音読やシャドーイング練習を行って基礎的かつ自然な英語音声の聞き取り・発音能力を養うことに力点を置く。このような活動を通じて、日常およびアカデミックな状況に対応できる口頭でのコミュニケーション中心の英語運用能力の基礎を養成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：(Introduction) 成績・評価、授業運営などの説明</p> <p>第 2 回：Unit 1: Academic Research</p> <p>第 3 回：Unit 2: Social Issues in Japan</p> <p>第 4 回：Unit 3: Personal Safety</p> <p>第 5 回：Unit 4: Gender</p> <p>第 6 回：Unit 5: Religion</p> <p>第 7 回：Unit 6: Business</p> <p>第 8 回：Review (Units 1-6), 復習テスト</p> <p>第 9 回：Unit 7: Career</p> <p>第 10 回：Unit 8: Japanese Culture</p> <p>第 11 回：Unit 9: Law and Peace</p> <p>第 12 回：Unit 10: Ethnicity</p> <p>第 13 回：Unit 11: Science and Scientists</p> <p>第 14 回：Unit 12: Styles of Writing</p> <p>第 15 回：Review (Units 7-12), 復習テスト</p>			
テキスト			

Noriko Nakanishi, et al. Global Perspectives: Listening & Speaking Book 2 成美堂
9784791972623

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

「平常評価(100点)」の内訳は、

- a) 学期途中や学期末に行う復習テスト(40%)
- b) 単語テストなど定期的に行う小テスト(30%)
- c) 提出物・クラスでの貢献度や発表(30%)

授業科目名：英語Ⅲa	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：細川 真菜、 エカテリーナ・ポポヴァ、 田淵 香奈子
			担当形態： 単独・クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>アカデミックな内容の話し言葉をとくに大きな支障なくほぼ理解することができ、より複雑で高度な文や単語を使って自分の意思を口頭で表現することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>指定のトピックに関するまとまった英文を〔必要に応じてノートを取りながら〕聞き (Listening)、その内容を口頭で要約したり、自分の意見を加えて議論したりする (Speaking)。2年次配当の英語3ab では、英語1ab を踏まえてより発展的な内容の素材を使い、Listening (Input) と Speaking (Output) が有機的に関連した授業を展開する。このような活動を通じて、とくにアカデミックな状況に十分に対応できる口頭でのコミュニケーション中心の英語運用能力を養成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Unit 1-Introduction / Talking about Ourselves</p> <p>第2回：Unit 2-Talking about Hobbies and Pastimes</p> <p>第3回：Unit 3-Talking about Hometowns</p> <p>第4回：Unit 5-Talking about Places and Sights/ Quiz 1</p> <p>第5回：Unit 6-Talking about Transportation and Directions</p> <p>第6回：Unit 7-Talking about Food</p> <p>第7回：Mid-term exam / Presentation</p> <p>第8回：Unit 8-Talking about Restaurants and Meals</p> <p>第9回：Unit 9-Talking about Movies and TV</p> <p>第10回：Unit 10-Talking about Music / Quiz 2</p> <p>第11回：Unit 11-Talking about Shopping</p> <p>第12回：Unit 12-Talking about Sports and Exercise</p> <p>第13回：Unit 13-Talking about Travel and Vacations / Qui 3</p> <p>第14回：Unit 14-Talking about Work and Jobs / Unit 15-Talikh about plans</p> <p>第15回：The Final exam / Presentation</p>			
テキスト			

James Bury / Anthony Sellick / 堀内香織 Complete Communication Book 1-Basic
成美堂 978-4-7919-7241-8

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

「平常評価(100点)」の内訳は、

- a) 学期途中や学期末に行う復習テスト(40%)
- b) 単語テストなど定期的に行う小テスト(30%)
- c) 提出物・クラスでの貢献度や発表(30%)

授業科目名：英語Ⅲb	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：細川 真菜、 エカテリーナ・ポポヴァ、 田淵 香奈子
			担当形態： 単独・クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>アカデミックな内容の話し言葉をとくに大きな支障なくほぼ理解することができ、より複雑で高度な文や単語を使って自分の意思を口頭で表現することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>指定のトピックに関するまとまった英文を〔必要に応じてノートを取りながら〕聞き（Listening）、その内容を口頭で要約したり、自分の意見を加えて議論したりする（Speaking）。2年次配当の英語3ab では、英語1ab を踏まえてより発展的な内容の素材を使い、Listening（Input）と Speaking（Output）が有機的に関連した授業を展開する。このような活動を通じて、とくにアカデミックな状況に十分に対応できる口頭でのコミュニケーション中心の英語運用能力を養成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Orientation / Self-Introduction</p> <p>第2回：Greetings (Unit 1)</p> <p>第3回：Suggestions (Unit 2)</p> <p>第4回：Complaints (Unit 3)</p> <p>第5回：Refusals (Unit 4)</p> <p>第6回：Requests (Unit 5)</p> <p>第7回：Explanations (Unit 6)</p> <p>第8回：Mid-term exam / Presentation / Review</p> <p>第9回：Apologies (Unit 7)</p> <p>第10回：Agreements (Unit 8)</p> <p>第11回：Compliments (Unit 9)</p> <p>第12回：Invitations (Unit 10)</p> <p>第13回：Persuasion (Unit 11)</p> <p>第14回：Gratitude (Unit 12)</p> <p>第15回：The Final exam / Presentation / Review</p>			
テキスト			

中西 のりこ / 平井 愛 / Mary Ellis Daily English for College Students Book 1
成美堂 9784791973026

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

「平常評価(100点)」の内訳は、

- a) 学期途中や学期末に行う復習テスト(40%)
- b) 単語テストなど定期的に行う小テスト(30%)
- c) 提出物・クラスでの貢献度や発表(30%)

授業科目名：ドイツ語 I a	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：柏木 貴久子
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象言語の構造を理解し、基本的な語彙と表現を学ぶ。 ・「聞く・話す・読む・書く」の四技能をバランスよく身に付ける。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる。 ・協働で物事を解決することができる。 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>ドイツ語I、IIは同じ教科書を使って、連携しながら授業が進められます。具体的なコミュニケーションの場面を想定しながら、総合的な学習により、四技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく身に付けることを目標とします。週二回の授業による継続的な学習を通じ、ドイツ語を使いながら文法を理解し、さまざまな練習問題で文法知識の定着、表現力の育成を図ります。積極的に授業に参加しましょう。全授業回数の3分の2以上の出席が求められます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ドイツ語で挨拶する</p> <p>第2回：ドイツ語で挨拶する</p> <p>第3回：人と知り合う(ich/Sie)、発音の規則とアルファベット</p> <p>第4回：人と知り合う(du)、不規則変化動詞sprechen、数字(1)</p> <p>第5回：人を紹介する(三人称単数)、決定疑問文と答え方</p> <p>第6回：好きなこと、人称代名詞の複数</p> <p>第7回：予定を尋ねる、曜日、天気、現在人称変化のまとめ</p> <p>第8回：物の名前、名詞の性、定冠詞と不定冠詞の1格</p> <p>第9回：値段を尋ねる、名詞の複数と単数、動詞wissen</p> <p>第10回：カフェで注文する、不定冠詞の4格、möchte-の用法</p> <p>第11回：カフェでの支払い、否定冠詞の4格</p> <p>第12回：買い物に出かける、定冠詞の4格、意見を言う</p>			

第13回：デパートでの買い物、ja / doch / nein、es gibt

第14回：食べ物の好み、無冠詞、冠詞の1格と4格のまとめ

第15回：春学期の学習項目のまとめ

クラスの進度により内容が前後することがあります。

テキスト

柏木貴久子、Bettina Goesch 『アゲンダ・ベーシック アクティブ・ラーニングのドイツ語』 (三修社) 978-4-384-12302-9 C1084

参考書・参考資料等

辞書、参考書については最初の授業時に説明があります。

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

小テストを含む平常試験(70%)、対話練習、課題等授業への積極的参加と取り組み(30%)

授業科目名：ドイツ語 Ib	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単 位	担当教員名：柏木 貴久子
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象言語の構造を理解し、基本的な語彙と表現を学ぶ。 ・「聞く・話す・読む・書く」の四技能をバランスよく身に付ける。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる。 ・協働で物事を解決することができる。 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>ドイツ語Ia, IIaに引き続き、ドイツ語Ib, IIbも同じ教科書を使って、連携しながら授業が進められます。ドイツ語に慣れてきた感覚をより確かなものにしなが、具体的なコミュニケーションに即して、四技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく身に付けます。週二回の授業による継続的な学習を通じ、ドイツ語を使いながら文法を理解し、さまざまな練習問題で知識の定着、表現力の育成を図ります。積極的に授業に参加しましょう。全授業回数の3分の2以上の出席が求められます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：日々の生活、時間の表現、分離動詞</p> <p>第2回：観光に出掛ける、助動詞müssenとwollen</p> <p>第3回：家族、職業、所有冠詞</p> <p>第4回：人物について、人称代名詞4格、助動詞können</p> <p>第5回：パーティーの準備、3格をとる動詞、日付と誕生日</p> <p>第6回：贈り物をする、人称代名詞・所有冠詞の3格</p> <p>第7回：天気と季節</p> <p>第8回：部屋にあるもの、場所に関する前置詞（3・4格）</p> <p>第9回：パーティーの計画、主文と副文、従属の接続詞（1）</p> <p>第10回：催し案内、接続詞dass、動詞stattfinden</p> <p>第11回：家でしたこと、現在完了形（1）、habenの過去形</p>			

第12回：大学でしたこと、現在完了形(1)、könnenとmüssenの過去形

第13回：週末にしたこと、現在完了形(2)、seinの過去形

第14回：休みの計画、現在完了形(2) 動詞werden、比較級と最上級

第15回：秋学期の学習項目のまとめ

クラスの進度により内容が前後することがあります。

テキスト

柏木貴久子、Bettina Goesch 『アゲンダ・ベーシック アクティブ・ラーニングのドイツ語』 (三修社) 978-4-384-12302-9 C1084

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

小テストを含む平常試験(70%)、対話練習、課題等授業への積極的参加と取り組み(30%)

授業科目名：ドイツ語 IIa	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：柏木 貴久子
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象言語の構造を理解し、基本的な語彙と表現を学ぶ。 ・「聞く・話す・読む・書く」の四技能をバランスよく身に付ける。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる。 ・協働で物事を解決することができる。 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>ドイツ語I、IIは同じ教科書を使って、連携しながら授業が進められます。具体的なコミュニケーションの場面を想定しながら、総合的な学習により、四技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく身に付けることを目標とします。週二回の授業による継続的な学習を通じ、ドイツ語を使いながら文法を理解し、さまざまな練習問題で文法知識の定着、表現力の育成を図ります。積極的に授業に参加しましょう。全授業回数の3分の2以上の出席が求められます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ドイツ語で挨拶する</p> <p>第2回：人と知り合う(ich/Sie)、seinと規則変化動詞</p> <p>第3回：人と知り合う(ich/Sie)、発音の規則とアルファベット</p> <p>第4回：人と知り合う(du)、不規則変化動詞sprechen、数字(1)</p> <p>第5回：人を紹介する(三人称単数)、決定疑問文と答え方</p> <p>第6回：好きなこと、人称代名詞の複数</p> <p>第7回：予定を尋ねる、曜日、天気、現在人称変化のまとめ</p> <p>第8回：物の名前、名詞の性、定冠詞と不定冠詞の1格</p> <p>第9回：値段を尋ねる、名詞の複数と単数、動詞wissen</p> <p>第10回：カフェで注文する、不定冠詞の4格、möchte-の用法</p> <p>第11回：カフェでの支払い、否定冠詞の4格</p> <p>第12回：買い物に出かける、定冠詞の4格、意見を言う</p>			

第13回：デパートでの買い物、ja / doch / nein、es gibt

第14回：食べ物の好み、無冠詞、冠詞の1格と4格のまとめ

第15回：春学期の学習項目のまとめ

クラスの進度により内容が前後することがあります。

テキスト

柏木貴久子、Bettina Goesch 『アゲンダ・ベーシック アクティブ・ラーニングのドイツ語』 (三修社) 978-4-384-12302-9 C1084

参考書・参考資料等

辞書、参考書については最初の授業時に説明があります。

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

小テストを含む平常試験(70%)、対話練習、課題等授業への積極的参加と取り組み(30%)

授業科目名：ドイツ語 IIb	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単 位	担当教員名：柏木 貴久子
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象言語の構造を理解し、基本的な語彙と表現を学ぶ。 ・「聞く・話す・読む・書く」の四技能をバランスよく身に付ける。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる。 ・協働で物事を解決することができる。 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>ドイツ語Ia, IIaに引き続き、ドイツ語Ib, IIbも同じ教科書を使って、連携しながら授業が進められます。先生のうち一人はドイツ語ネイティブスピーカーです。ドイツ語に慣れてきた感覚をより確かなものにししながら、具体的なコミュニケーションに即して、四技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく身に付けます。週二回の授業による継続的な学習を通じ、ドイツ語を使いながら文法を理解し、さまざまな練習問題で知識の定着、表現力の育成を図ります。積極的に授業に参加しましょう。全授業回数数の3分の2以上の出席が求められます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：日々の生活、時間の表現、分離動詞</p> <p>第2回：観光に出掛ける、助動詞müssenとwollen</p> <p>第3回：家族、職業、所有冠詞</p> <p>第4回：人物について、人称代名詞4格、助動詞können</p> <p>第5回：パーティーの準備、3格をとる動詞、日付と誕生日</p> <p>第6回：贈り物をする、人称代名詞・所有冠詞の3格</p> <p>第7回：天気と季節</p> <p>第8回：部屋にあるもの、場所に関する前置詞（3・4格）</p> <p>第9回：パーティーの計画、主文と副文、従属の接続詞（1）</p> <p>第10回：催し案内、接続詞dass、動詞stattfinden</p> <p>第11回：家でしたこと、現在完了形（1）、habenの過去形</p>			

第12回：大学でしたこと、現在完了形(1)、könnenとmüssenの過去形

第13回：週末にしたこと、現在完了形(2)、seinの過去形

第14回：休みの計画、現在完了形(2) 動詞werden、比較級と最上級

第15回：秋学期の学習項目のまとめ

クラスの進度により内容が前後することがあります。

テキスト

柏木貴久子、Bettina Goesch 『アゲンダ・ベーシック アクティブ・ラーニングのドイツ語』 (三修社) 978-4-384-12302-9 C1084

参考書・参考資料等

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

小テストを含む平常試験(70%)、対話練習、課題等授業への積極的参加と取り組み(30%)

授業科目名：ドイツ語 IIIa	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：柏木 貴久子
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1 知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象言語の構造を理解し、基本的な語彙と表現を学ぶ。 ・「聞く・話す・読む・書く」の四技能をバランスよく身に付ける。 <p>2 思考力、判断力、表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる。 ・協働で物事を解決することができる。 <p>3 主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>ドイツ語Ia/b、IIa/bで習得した知識を基礎に、総合的な学習によりドイツ語の四技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく習得することを目指します。ドイツ語を使いながら、さらなる文法事項を理解し、さまざまな練習問題で知識の定着、表現力の育成、読解力の養成を図ります。継続的な学習を心がけ、積極的に授業に参加しましょう。全授業回数数の3分の2以上の出席が求められます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の説明 発音</p> <p>第2回：動詞の現在人称変化①・語順</p> <p>第3回：ヨーロッパの中のドイツ</p> <p>第4回：動詞の現在人称変化②・命令文</p> <p>第5回：ドイツの自然・気候</p> <p>第6回：名詞と冠詞の格変化・人称代名詞</p> <p>第7回：ドイツの日常生活①食事</p> <p>第8回：春学期前半のまとめ</p> <p>第9回：名詞の複数形・冠詞類・前置詞</p> <p>第10回：ドイツの日常生活②住居</p> <p>第11回：動詞の三基本形・過去人称変化・完了形</p> <p>第12回：ドイツの日常生活③休暇</p>			

第13回：複合動詞・再帰動詞

第14回：ドイツのビールとワイン

第15回：春学期後半のまとめ

テキスト

斉藤佑史 荒木詳二 『おもしろドイツ！― 異文化への招待』 (郁文堂) 978-4-261-01239-2

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

小テストを含む平常試験(70%)、対話練習、課題等授業への積極的参加と取り組み(30%)。

授業科目名：ドイツ語 IIIb	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：柏木 貴久子
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1 知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象言語の構造を理解し、基本的な語彙と表現を学ぶ。 ・「聞く・話す・読む・書く」の四技能をバランスよく身に付ける。 <p>2 思考力、判断力、表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる。 ・協働で物事を解決することができる。 <p>3 主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>ドイツ語IIIa、IVaに続くIIIb、IVbでは、総合的な学習によりドイツ語の四技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく伸ばすことを目指します。ドイツ語を使いながら、さらなる文法事項を理解し、さまざまな練習問題で知識の定着、表現力の育成、読解力の養成を図ります。積極的に授業に参加しましょう。全授業回数の3分の2以上の出席が求められます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：話法の助動詞・数詞</p> <p>第2回：ドイツのスポーツ</p> <p>第3回：受動態</p> <p>第4回：ドイツの音楽</p> <p>第5回：zu不定詞句・分詞・esの用法</p> <p>第6回：ドイツの映画</p> <p>第7回：秋学期前半のまとめ</p> <p>第8回：形容詞の格変化・比較</p> <p>第9回：ドイツの文学</p> <p>第10回：接続詞</p> <p>第11回：関係代名詞</p> <p>第12回：ドイツのクリスマス</p> <p>第13回：接続法</p>			

第14回：ドイツの環境問題

第15回：秋学期後半のまとめ

テキスト

斉藤佑史 荒木詳二 『おもしろドイツ！— 異文化への招待』 (郁文堂) 978-4-261-01239-2

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

小テストを含む平常試験(70%)、対話練習、課題等授業への積極的参加と取り組み(30%)。

授業科目名：ドイツ語 IVa	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：高橋 秀彰
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象言語の構造を理解し、基本的な語彙と表現を学ぶ。 ・「聞く・話す・読む・書く」の四技能をバランスよく身に付ける。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる。 ・協働で物事を解決することができる。 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>ドイツ語Ia/b、IIa/bで習得した知識を基礎に、総合的な学習によりドイツ語の四技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく習得することを目指します。ドイツ語を使いながら、さらなる文法事項を理解し、さまざまな練習問題で知識の定着、表現力の育成、読解力の養成を図ります。継続的な学習を心がけ、積極的に授業に参加しましょう。全授業回数数の3分の2以上の出席が求められます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入、いままでに学んだこと。</p> <p>第2回：旅の目的地、場所・地域名と前置詞の関係</p> <p>第3回：道案内、wollenの過去形、命令形（Sie）</p> <p>第4回：企業実習の計画、助動詞sollen、分離動詞の命令形</p> <p>第5回：企業実習の開始、du、ihrの命令形、ドイツ語の語順</p> <p>第6回：旅行の計画、使役動詞lassenの命令形、再帰代名詞と再帰動詞（1）</p> <p>第7回：旅行の報告、再帰代名詞と再帰動詞（2）</p> <p>第8回：食事に出掛ける、接続法II式（1） hätte-, wäre-,</p> <p>第9回：散歩に出掛ける、不定代名詞、助動詞dürfen</p> <p>第10回：サッカー中継を見る、2格Genitiv、形容詞の語尾変化（1）</p> <p>第11回：スポーツ観戦に出掛ける、定冠詞類dieser</p> <p>第12回：物の描写、形容詞の語尾変化（2）</p>			

第13回：週末の準備、接続法II式würde-

第14回：希望を言う、助言をする、接続法II式sollte-, könnte-

第15回：春学期の学習項目のまとめ

クラスの進度により内容が前後することがあります。

テキスト

柏木貴久子、Bettina Goesch 『アゲンダ2 アクティブ・ラーニングのドイツ語』（三修社）

978-4-384-13098-0 C1084

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

小テストを含む平常試験(70%)、対話練習、課題等授業への積極的参加と取り組み(30%)

授業科目名：ドイツ語 IVb	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：高橋 秀彰
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象言語の構造を理解し、基本的な語彙と表現を学ぶ。 ・「聞く・話す・読む・書く」の四技能をバランスよく身に付ける。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる。 ・協働で物事を解決することができる。 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>ドイツ語IIIa、IVaに続くIIIb、IVbでは、総合的な学習によりドイツ語の四技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく伸ばすことを目指します。ドイツ語を使いながら、さらなる文法事項を理解し、さまざまな練習問題で知識の定着、表現力の育成、読解力の養成を図ります。積極的に授業に参加しましょう。全授業回数の3分の2以上の出席が求められます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：観光地を紹介する、zu不定詞の用法（1）</p> <p>第2回：相互再帰代名詞、男性弱変化名詞</p> <p>第3回：医者にかかる、形容詞の語尾変化（3）</p> <p>第4回：健康について、過去形</p> <p>第5回：旅のトラブル、受動文の現在形</p> <p>第6回：旅行中の出来事、受動文の過去形</p> <p>第7回：病院にて、状態受動、国籍の表現</p> <p>第8回：将来について、未来の助動詞</p> <p>第9回：職業について、zu不定詞の用法（2）</p> <p>第10回：仕事場でのこと、zu不定詞を伴う動詞</p> <p>第11回：安全に関すること、関係文（1）</p> <p>第12回：見たことを報告する、過去完了形</p> <p>第13回：留学の終わり、zu不定詞の用法（3）</p>			

第14回：別れの挨拶、関係文(2)

第15回：秋学期の学習項目のまとめ

クラスの進度により内容が前後することがあります。

テキスト

柏木貴久子、Bettina Goesch 『アゲンダ2 アクティブ・ラーニングのドイツ語』(三修社)

978-4-384-13098-0 C1084

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

小テストを含む平常試験(70%)、対話練習、課題等授業への積極的参加と取り組み(30%)

授業科目名：フランス語 I a	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1 単 位	担当教員名：田島 義士
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> －自分や他人を紹介する、住所・家族関係・好きなことなどの個人的情報に関する表現と文法を修得する －言葉や表現の文化的背景を理解する ・「読む・聞く・話す・書く」の四技能をバランスよく身につける －特にフランス語の音になれる <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる： －①であげたテーマに関する言語要素を用いてやりとりを行う ・協同でものごとを解決することができる： －ペア・グループワークへの積極的な参加 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる 			
<p>授業の概要</p> <p>日常的なコミュニケーションのテーマに沿って、フランス語の基礎を学びます。最初にフランス語文法の大きな特徴を把握し、次に動詞の活用を中心に基本的な構文を学習します。さらにテーマ毎にまとめた語彙を組み合わせ、初歩のフランス語で使用頻度の高い文が理解できるようにしていきます。課が終わるごとに具体的なコミュニケーション練習を行い、学んだ内容を定着させます。また、テーマに応じてフランス文化や習慣に関する情報も取り入れます。教材の例文を覚え、段階的に練習を積み重ねていくことで、日常生活で使うフランス語のベースが身につきます。積極的に授業に参加してフランス語を身につけていきましょう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：フランスに関する基礎知識とアルファベ、アルファベの復習、あいさつ表現、数字 1～10</p> <p>第 2 回：自己紹介（1）国籍と名前：名詞の性数と動詞の活用について、動詞s' appeler, être</p> <p>第 3 回：自己紹介（2）年齢と住んでいるところ：動詞avoir, habiter、数字11～25</p> <p>第 4 回：自己紹介（3）話せる言語と好きなもの：動詞aimer, parler、否定、定冠詞、所有形容詞、疑問形容詞</p>			

<p>第5回：Unité 1コミュニケーション練習とまとめ、フランス語の音と綴り（1）</p> <p>第6回：Unité 1まとめ、フランス文化ミニ情報、数字26～59</p> <p>第7回：日常の活動（1）：第一群規則動詞（-er型）、第二群規則動詞（-ir型）、様々な動詞句</p> <p>第8回：日常の活動（2）：不規則動詞aller, partir, venir、時刻の言い方</p> <p>第9回：日常の活動（3）：不規則動詞prendre, faire、曜日・月・日付を尋ねる・言う</p> <p>第10回：Unité 2コミュニケーション練習とまとめ</p> <p>第11回：フランス文化ミニ情報、フランス語の音と綴り（2）、数字60～100</p> <p>第12回：動詞+infになる動詞表現（1）：好き嫌いの表現、動詞préférer、程度の表現、C'est + 形容詞</p> <p>第13回：動詞+infになる動詞表現（2）：許可・可能性・禁止・希望・義務の表現、動詞pouvoir, vouloir, devoir</p> <p>第14回：文の作り方のまとめ：疑問文と否定文、Unité 3のまとめ</p> <p>第15回：平常試験（まとめと講評）</p>
<p>テキスト</p> <p>平嶋里珂 Le Ciel 1 朝日出版社</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常試験（60％） ・授業中の発表・参加（20％） ・小テスト（20％）

授業科目名：フランス語 I b	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1 単 位	担当教員名：田島 義士
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象言語の構造を理解し、基本的な語彙と表現および言語文化を学ぶ —食生活・衣服・人の描写・位置表現・道順の説明・天候気候・近い未来・過去、これまでしたこと を言う等のテーマに関する表現と文法を習得する —言葉や表現の文化的背景を理解する ・「読む・聞く・話す・書く」の四技能をバランスよく身につける —正しく音読することができる <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる： —①であげたテーマに関する言語要素を用いてやりとりを行う ・協同でものごとを解決することができる： —ペア・グループワークへの積極的な参加 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる 			
<p>授業の概要</p> <p>日常的なコミュニケーションのテーマに沿って、フランス語の基礎を学びます。秋学期は名詞と冠詞・形容詞の性数一致など名詞グループや前置詞グループに関する詳細な文法事項、位置空間、天候など様々な表現、及び動詞の時制形の作り方を学びます。春学期同様、課が終わるごとに具体的なコミュニケーション場面で運用練習を行い、学習項目を定着させます。また、テーマに応じてフランス文化や習慣に関する情報も取り入れます。</p> <p>教材の例文を覚え、段階的に練習を積み重ねていくことで、日常生活で使うフランス語のベースが身につきます。積極的に授業に参加してフランス語を身につけていきましょう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：春学期の復習（Unité 1, 2 + Unité 3コミュニケーション問題）</p> <p>第2回：人・ものの描写（1）名詞と冠詞の性数一致：名詞の性数、不定冠詞・定冠詞・部分冠詞、所有形容詞、指示形容詞、食生活・衣服について尋ねる・言う</p> <p>第3回：人・ものの描写（2）品質形容詞の性数一致、位置、補語人称代名詞le, la, les、動詞trouver</p>			

<p>第4回：人・ものの描写（3）形容詞と副詞の比較級・最上級、比較級と最上級の例外</p> <p>第5回：Unité 4コミュニケーション問題とまとめ</p> <p>第6回：フランス文化ミニ情報、音とつづり（3）</p> <p>第7回：場所・時・理由・条件を表す（1）前置詞àとde、国名の前で使う前置詞、àとdeと定冠詞の縮約、àとde以外の位置を示す前置詞と位置表現、提示の表現il y a</p> <p>第8回：場所・時・理由・条件を表す（2）動詞の命令形、教室で使う表現、道順の表し方、交通手段、街でよく見る施設・建物</p> <p>第9回：場所・時・理由・条件を表す（3）非人称構文と天候・気候の表し方、avoirと感覚の表し方、時・理由・条件を表す接続表現（quand, comme, parce que, si）</p> <p>第10回：Unité 5コミュニケーション問題とまとめ</p> <p>第11回：フランス文化ミニ情報</p> <p>第12回：時の流れに位置づけて表す（1）直説法現在形の用法のまとめ、近接未来形、近接過去形、現在と未来の時の表し方</p> <p>第13回：時の流れに位置づけて表す（2）直説法複合過去形（作り方、過去分詞、語順、用法）、過去の時の表現</p> <p>第14回：Unité 6まとめ</p> <p>第15回：平常試験（まとめと講評）</p>
<p>テキスト</p> <p>平嶋里珂 Le Ciel 1 朝日出版社</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常試験（60%） ・授業中の発表・参加（20%） ・小テスト（20%）

授業科目名：フランス語Ⅱa	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：田島 義士
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象言語の構造を理解し、基本的な語彙と表現および言語文化を学ぶ －自分や他人を紹介する、住所・家族関係・好きなことなどの個人的情報に関する表現と文法を修得する 一言葉や表現の文化的背景を理解する ・「読む・聞く・話す・書く」の4技能をバランスよく身につける －特にフランス語の音になれる <p>②思考力、判断力、表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる －①であげたテーマに関する言語要素を用いてやりとりを行う ・協同でものごとを解決することができる －ペア・グループワークへの積極的な参加 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる 			
<p>授業の概要</p> <p>フランス語の初級文法書の初めから学びます。春学期では、文の基本的構成要素を確認しながら練習問題を解いて、フランス語のおおまかな仕組みを理解することが目標です。教科書は練習問題が豊富にありますので、具体的な使い方を確認しながら文法理論を習得することができます。例文、動詞の活用など録音されていますので、是非フランス語の音を覚えながら学習しましょう。予習・復習をして授業に臨み、授業中の活動には積極的に参加してください。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：フランスに関する基礎知識とアルファベ、アルファベの復習、あいさつ表現、数字1～10</p> <p>第2回：自己紹介（1）国籍と名前：名詞の性数と動詞の活用について、動詞s' appeler, être</p> <p>第3回：自己紹介（2）年齢と住んでいるところ：動詞avoir, habiter、数字11～25</p> <p>第4回：自己紹介（3）話せる言語と好きなもの：動詞aimer, parler、否定、定冠詞、所有形容詞、疑問形容詞</p> <p>第5回：Unité 1コミュニケーション練習とまとめ、フランス語の音と綴り（1）</p>			

第6回：Unité 1まとめ、フランス文化ミニ情報、数字26～59

第7回：日常の活動（1）：第一群規則動詞（-er型）、第二群規則動詞（-ir型）、様々な動詞句

第8回：日常の活動（2）：不規則動詞aller, partir, venir、時刻の言い方

第9回：日常の活動（3）：不規則動詞prendre, faire、曜日・月・日付を尋ねる・言う

第10回：Unité 2コミュニケーション練習とまとめ

第11回：フランス文化ミニ情報、フランス語の音と綴り（2）、数字60～1000

第12回：動詞+動詞原形になる表現（1）；好き嫌いの表現、動詞 préférer、程度の表現、C'est + 形容詞

第13回：動詞+動詞原形になる表現（2）；許可・可能性・禁止・希望・義務の表現、動詞 pouvoir, vouloir, devoir

第14回：文の作り方のまとめ：疑問文と否定文、Unité 3のまとめ

第15回：平常試験（まとめと講評）

テキスト

平嶋 里珂 Le Ciel 1 （朝日出版社） 978-4-255-35328-9

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

- ・[平常]テスト：60%

- ・授業への参加、小テスト、提出物：40%

授業科目名：フランス語Ⅱb	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：田島 義士
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象言語の構造を理解し、基本的な語彙と表現および言語文化を学ぶ 一食生活、衣服、人の描写、位置表現、道順の説明、天候気候、近い未来・過去、これまでしたことを言う、等のテーマに関する表現と文法を修得する 一言葉や表現の文化的背景を理解する ・「読む・聞く・話す・書く」の4技能をバランスよく身につける 一正しく音読することができる <p>②思考力、判断力、表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる 一①であげたテーマに関する言語要素を用いてやりとりを行う ・協同でものごとを解決することができる 一ペア・グループワークへの積極的な参加 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる 			
<p>授業の概要</p> <p>フランス語の初級文法書の後半を学びます。秋学期では、春学期で学んだ知識をベースにして、より複雑で長い文を理解し、短い文章の内容も読み取れるようになるのが目標です。授業で学んだ内容はしっかり復習して、着実にフランス語の基礎を身につけましょう。予習・復習をして授業に臨み、授業中の活動には積極的に参加してください。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：春学期の復習（Unité 1, 2 + Unité 3 コミュニケーション問題）</p> <p>第2回：人・ものの描写（1）；名詞と冠詞の性数一致、名詞の性数・不定冠詞・定冠詞・部分冠詞、所有形容詞、指示形容詞、食生活・衣服について尋ねる・言う</p> <p>第3回：人・ものの描写（2）；品質形容詞の性数一致、位置、補語人称代名詞 le, la, les、動詞 trouver</p> <p>第4回：人・ものの描写（3）；形容詞と副詞の比較級・最上級、比較級と最上級の例外</p> <p>第5回：Unité 4 コミュニケーション問題とまとめ</p>			

<p>第6回：フランス文化ミニ情報、音とつづり（3）</p> <p>第7回：場所・時・理由・条件を表す（1）；前置詞 à と de、国名の前で使う前置詞、à と de と定冠詞の縮約、à と de 以外の位置を示す前置詞と位置表現、提示の表現 il y a</p> <p>第8回：場所・時・理由・条件を表す（2）；動詞の命令形、教室で使う表現、道順の表し方、交通手段、街でよく見る施設・建物</p> <p>第9回：場所・時・理由・条件を表す（3）；非人称構文と天候・気候の表し方、avoir と感覚の表し方、時・理由・条件を表す接続表現（quand, comme, parce que, si）</p> <p>第10回：Unité 5 コミュニケーション問題とまとめ</p> <p>第11回：フランス文化ミニ情報</p> <p>第12回：時の流れに位置づけて表す（1）；直説法現在形の用法のまとめ、近接未来形、近接過去形、現在と未来の時の表し方</p> <p>第13回：時の流れに位置づけて表す（2）；直説法複合過去形（作り方、過去分詞、語順、用法）、過去の時の表現</p> <p>第14回：Unité 6 まとめ</p> <p>第15回：平常試験（まとめと講評）</p>
<p>テキスト</p> <p>平嶋 里珂 Le Ciel 1 （朝日出版社） 978-4-255-35328-9</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・[平常]テスト：60% ・授業への参加、小テスト、提出物：40%

授業科目名：フランス語Ⅲa	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：田島 義士
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象言語の構造を理解し、基本的な語彙と表現および言語文化を学ぶ： <ul style="list-style-type: none"> —現在までにしたこと、過去の出来事と状況・習慣、未来の予定、テーマの展開等に関する表現・文法を習得する —言葉や表現の文化的背景を理解する ・「読む・聞く・話す・書く」の四技能をバランスよく身に付ける <p>②思考力、判断力、表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる： <ul style="list-style-type: none"> —①のテーマに関する言語要素を用いてやり取りを行う —同じテーマに関する標準的な話し方の話の主要点を理解する —同じテーマに関する話題について一貫性のある内容を話すことができる ・協働で物事を解決することができる： <ul style="list-style-type: none"> —ペア・グループワークへの積極的な参加 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる 			
<p>授業の概要</p> <p>機能的に内容を伝えることを主眼に文法と語彙を学び、具体的な状況に応用して言葉を運用する練習を重ねて、総合的に「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の養成をめざします。また、言葉や表現の背景にある言語文化についても知識を深めます。春学期は過去形や未来形等の動詞の活用と様々な代名詞の学習ポイントになります。動詞の活用や代名詞の置換えは繰り返し練習して、スムーズに使えるようにしましょう。授業中の活動には積極的に参加してください。</p>			
<p>授業計画</p> <p>※1年次にLe Ciel（1年次用教科書）の17課まで終わっていない場合、その続きから始めます</p> <p>第1回：1年次に学習した内容の復習</p> <p>第2回：現在のこと、現在までにしたことを語る：直説法現在形・直説法複合過去形の復習</p> <p>第3回：現在と過去を比較する：直説法半過去形</p>			

<p>第4回：過去の出来事と状況を語る：直説法半過去形と直説法複合過去形 の使い分け</p> <p>第5回：未来にしようと考えていることを語る：直説法単純未来</p> <p>第6回：直説法単純未来形を使った応用練習と現在・過去・未来の表し方のまとめ</p> <p>第7回：フランス文化情報（1）</p> <p>第8回：話題に出たものについて話を展開させる（1）：補語人称代名詞</p> <p>第9回：話題に出たものについて話を展開させる（2）：補語人称代名詞を使った応用練習と中性代名詞en, y, le</p> <p>第10回：話題に出たものについて話を展開させる（3）：中性代名詞を使った応用練習と会話練習</p> <p>第11回：話題に出たもの（出すもの）に情報を加えて語る（1）：関係代名詞qui, que, où, dont, 指示代名詞、強調構文c' est...qui~, c' est...que~</p> <p>第12回：話題に出たものについて情報を加えて語る（2）：関係代名詞、指示代名詞、強調構文を使った応用練習</p> <p>第13回：さまざまな代名詞のまとめと応用練習</p> <p>第14回：フランス文化情報（2）</p> <p>第15回：平常試験（まとめと講評）</p>
<p>テキスト</p> <p>平嶋里珂 Le Ciel 2 および（1年次教科書）朝日出版社 9784255353296</p> <p>平嶋里珂 Le Ciel 1 朝日出版社 9784255353289</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>仏和辞典は紙、もしくは電子（有料アプリを含む）のいずれかを必ず用意のこと。</p> <p>インターネットの無料辞典サイトでは学習には足りませんので、必ず購入のこと。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への積極的かつ建設的な参加、発表：20% ・小テストおよび提出物：20% ・平常テスト：60%

授業科目名：フランス語Ⅲb	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：田島 義士
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象言語の構造を理解し、基本的な語彙と表現および言語文化を学ぶ： <ul style="list-style-type: none"> —視点の変化、さまざまなニュアンス、確信の度合いが低い事柄、過去のある時点までにしたこと、行為の展開の仕方、人の話を伝える、主観的な想像等のテーマに関する表現・文法を習得する —言葉や表現の文化的背景を理解する ・「読む・聞く・話す・書く」の四技能をバランスよく身に付ける <p>②思考力、判断力、表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる： <ul style="list-style-type: none"> —①のテーマに関する言語要素を用いてやり取りを行う —同じテーマに関する標準的な話し方の話の主要点を理解する —同じテーマに関する話題について一貫性のある内容を話すことができる ・協働で物事を解決することができる： <ul style="list-style-type: none"> —ペア・グループワークへの積極的な参加 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる 			
<p>授業の概要</p> <p>春学期同様、機能的に内容を伝えることを主眼に文法と語彙を学び、具体的な状況に応用して言葉を運用する練習を重ねて、総合的に「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の養成をめざします。言葉や表現の背景にある言語文化についても知識を深めます。秋学期は、口頭練習に加えて読解、作文などの練習も織り込んで授業を進めます。動詞時制形の活用に加えて様々な構文・表現・語彙を使えるようになると、フランス語を運用する能力の幅が広がります。しっかり練習して身につけましょう。授業中の活動には積極的に参加してください。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：視点を変えて語る：代名動詞、受動態、疑問代名詞 qu' est-ce que, que, quoi, qu' est-ce qui, qui est-ce qui, qui est-ce que, qui</p> <p>第2回：代名動詞、受動態、疑問代名詞を使った会話練習と読解練習</p>			

第3回：文にさまざまなニュアンスを加える：現在分詞とジェロンディフ、否定のヴァリエーション
i…ni…, *ne…que*, 所有のヴァリエーション *être à* +人、所有代名詞

第4回：ジェロンディフ、否定表現、所有表現と所有代名詞を使った会話練習と読解練習

第5回：ありそうもないこと・確信の度合いが低いことを語る：条件法現在形、条件法過去形

第6回：条件法現在形と条件法過去形を使った会話練習と読解練習

第7回：これまでのまとめとフランス文化情報（1）

第8回：過去のある時点までにしたことを語る、動作の開始・継続・終了を表す：直説法大過去形、
commencer à + inf., *être sur le point de* + inf., *être en train de* + inf., *finir de* + inf.

第9回：直説法大過去形、さまざまな動詞表現を使った会話練習と読解練習

第10回：人の話を伝える：直接話法と間接話法、時制の一致

第11回：直接話法と間接話法を使った会話練習と読解練習

第12回：主観的な想像を語る：接続法現在形、接続法過去形

第13回：さまざまな動詞時制形を使った総合練習

第14回：フランス文化情報（2）

第15回：平常試験（まとめと講評）

テキスト

平嶋里珂 Le Ciel 2 および（1年次教科書）朝日出版社 9784255353296

平嶋里珂 Le Ciel 1 朝日出版社 9784255353289

参考書・参考資料等

仏和辞典は紙、もしくは電子（有料アプリを含む）のいずれかを必ず用意のこと。

インターネットの無料辞典サイトでは学習には足りませんので、必ず購入のこと。

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

- ・授業への積極的かつ建設的な参加、発表：20%
- ・小テストおよび提出物：20%
- ・平常テスト：60%

授業科目名：フランス語IVa	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：シルヴァン・イ ーヴ・E. モクタリ
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象言語の構造を理解し、基本的な語彙と表現および言語文化を学ぶ： <ul style="list-style-type: none"> —現在までにしたこと、過去の出来事と状況・習慣、未来の予定、テーマの展開等に関する表現・文法を習得する —言葉や表現の文化的背景を理解する ・「読む・聞く・話す・書く」の四技能をバランスよく身に付ける <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる： <ul style="list-style-type: none"> —①のテーマに関する言語要素を用いてやり取りを行う —同じテーマに関する標準的な話し方の話の主要点を理解する —同じテーマに関する話題について一貫性のある内容を話すことができる ・協働で物事を解決することができる： <ul style="list-style-type: none"> —ペア・グループワークへの積極的な参加 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる 			
<p>授業の概要</p> <p>機能的に内容を伝えることを主眼に文法と語彙を学び、具体的な状況に応用して言葉を運用する練習を重ねて、総合的に「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の養成をめざします。また、言葉や表現の背景にある言語文化についても知識を深めます。春学期は過去形や未来形等の動詞の活用と様々な代名詞の学習がポイントになります。動詞の活用や代名詞の置換えは繰り返し練習して、スムーズに使えるようにしましょう。授業中の活動には積極的に参加してください。</p>			
<p>授業計画</p> <p>※1年次に『Le Ciel 1』（1年次用教科書）の17課まで終わっていない場合、その続きから始めます。</p> <p>第1回：1年次に学習した内容の復習</p>			

<p>第2回：現在のこと、現在までにしたことを語る：直説法現在形・直説法複合過去形の復習</p> <p>第3回：現在と過去を比較する：直説法半過去形</p> <p>第4回：過去の出来事と状況を語る：直説法半過去形と直説法複合過去形の使い分け</p> <p>第5回：未来にしようと考えていることを語る：直説法単純未来</p> <p>第6回：直説法単純未来形を使った応用練習と現在・過去・未来の表し方のまとめ</p> <p>第7回：フランス文化情報（1）</p> <p>第8回：話題に出たものについて話を展開させる（1）：補語人称代名詞</p> <p>第9回：話題に出たものについて話を展開させる（2）：補語人称代名詞を使った応用練習と中性代名詞en, y, le</p> <p>第10回：話題に出たものについて話を展開させる（3）：中性代名詞を使った応用練習と会話練習</p> <p>第11回：話題に出たもの（出すもの）に情報を加えて語る（1）：関係代名詞qui, que, où, dont, 指示代名詞、強調構文c' est...qui~, c' est...que~</p> <p>第12回：話題に出たものについて情報を加えて語る（2）：関係代名詞、指示代名詞、強調構文を使った応用練習</p> <p>第13回：さまざまな代名詞のまとめと応用練習</p> <p>第14回：フランス文化情報（2）</p> <p>第15回：平常試験（まとめと講評）</p>
<p>テキスト</p> <p>平嶋里珂 『Le Ciel 2』および『Le Ciel 1』（1年次教科書）（朝日出版社）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。</p> <p>平常試験（60%）、小テスト（30%）、口頭発表（10%）</p>

授業科目名：フランス語IVb	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：シルヴァン・イ ーヴ・E. モクタリ
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象言語の構造を理解し、基本的な語彙と表現および言語文化を学ぶ： <ul style="list-style-type: none"> —視点の変化、さまざまなニュアンス、確信の度合いが低い事柄、過去のある時点までにしたこと、行為の展開の仕方、人の話を伝える、主観的な想像等のテーマに関する表現・文法を習得する —言葉や表現の文化的背景を理解する ・「読む・聞く・話す・書く」の四技能をバランスよく身に付ける <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修得した文法知識・語彙・表現を活用して、具体的な場面で運用できる： <ul style="list-style-type: none"> —①のテーマに関する言語要素を用いてやり取りを行う —同じテーマに関する標準的な話し方の話の主要点を理解する —同じテーマに関する話題について一貫性のある内容を話すことができる ・協働で物事を解決することができる： <ul style="list-style-type: none"> —ペア・グループワークへの積極的な参加 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習を振り返り、適切な改善点を挙げるができる 			
<p>授業の概要</p> <p>春学期同様、機能的に内容を伝えることを主眼に文法と語彙を学び、具体的な状況に応用して言葉を運用する練習を重ねて、総合的に「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の養成をめざします。言葉や表現の背景にある言語文化についても知識を深めます。秋学期は、口頭練習に加えて読解、作文などの練習も織り込んで授業を進めます。動詞時制形の活用に加えて様々な構文・表現・語彙を使えるようになると、フランス語を運用する能力の幅が広がります。しっかり練習して身につけましょう。授業中の活動には積極的に参加してください。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：視点を変えて語る：代名動詞、受動態、疑問代名詞 qu' est-ce que, que, quoi, qu' est-c</p>			

e qui, qui est-ce qui, qui est-ce que, qui

第2回：代名動詞、受動態、疑問代名詞を使った会話練習と読解練習

第3回：文にさまざまなニュアンスを加える：現在分詞とジェロンディフ、否定のヴァリエーション
ni…ni…, ne…que, 所有のヴァリエーションêtre à +人、所有代名詞

第4回：ジェロンディフ、否定表現、所有表現と所有代名詞を使った会話練習と読解練習

第5回：ありそうもないこと・確信の度合いが低いことを語る：条件法現在形、条件法過去形

第6回：条件法現在形と条件法過去形を使った会話練習と読解練習

第7回：これまでのまとめとフランス文化情報（1）

第8回：過去のある時点までにしたことを語る、動作の開始・継続・終了を表す：直説法大過去形、c
ommencer à + inf., être sur le point de + inf., être en train de + inf., finir de + inf.

第9回：直説法大過去形、さまざまな動詞表現を使った会話練習と読解練習

第10回：人の話を伝える：直接話法と間接話法、時制の一致

第11回：直接話法と間接話法を使った会話練習と読解練習

第12回：主観的な想像を語る：接続法現在形、接続法過去形

第13回：さまざまな動詞時制形を使った総合練習

第14回：フランス文化情報（2）

第15回：平常試験（まとめと講評）

テキスト

平嶋里珂 『Le Ciel 2』および『Le Ciel 1』（1年次教科書）（朝日出版社）

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

平常試験（60%）、小テスト（30%）、口頭発表（10%）

授業科目名：スペイン語Ⅲa	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：塩田 紗矢佳
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループ活動において、スペイン語で聞き、話し、読み、書く4技能をバランス良く身につける。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループで問題解決を図るコミュニケーション場面で、相手からの質問を理解し、適切に答えたり自己表現したりすることができる。 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習の課題を見つけ、主体的に取り組もうとする。 			
<p>授業の概要</p> <p>既習の基礎的な語彙や文法知識を生かし、スペイン語での言語活動に取り組む。</p>			
<p>授業計画</p> <p>授業は教科書“Aula Internacional Plus 1”の後半を中心に行います。</p> <p>第1回：復習：挨拶、出身地、職業等、基本的な自分についての話 動詞 Ser, Llamarse, Tener, Vivir</p> <p>第2回：現在形、定冠詞、前置詞 A, con, de, por, para、接続詞Porque...を使いながら理由を表現する</p> <p>第3回：動詞 Querer動詞、自分の希望を言う</p> <p>第4回：動詞 Ser, Estar, hay, “¿Dónde está Santiago?”, ¿Qué hay en mi ciudad? 場所を尋ねる、説明する</p> <p>第5回：質問で会話をつくる、疑問詞 ¿Qué,Cuál, Cuántos/as, Dónde , Cómo?</p> <p>第6回：買い物をする、定冠詞 El, La, Los, Las +形容詞、Qué+名詞</p> <p>第7回：動詞 Preferir、Tener que + 不定詞</p> <p>第8回：動詞Ir a+動詞の原形：予定を表す</p> <p>第9回：家族</p> <p>第10回：動詞 Ser, Estar、性格を表す形容詞</p> <p>第11回：動詞 Gustar、Interesar、自分の好みにと他人の好みを伝える、尋ねる</p>			

第12回：日常生活の動詞、再帰動詞

第13回：頻度を表す表現

第14回：復習

第15回：学習内容の確認

※上記の計画は目安です。学生のニーズとレベルに応じて内容が変わることがあります。

テキスト

Jaime Corpas, Eva Garcia , Agustin Gardenia 『Aula Internacional Plus 1』 English edition (Difusión) 9788418032189

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

「学習内容の確認」40%+「毎回の授業での言語活動の成果・小テストや作文等」40%+「授業への積極的な態度等」20%

授業科目名：スペイン語Ⅲb	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：塩田 紗矢佳
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループ活動において、スペイン語で聞き、話し、読み、書く4技能をバランス良く身につける。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループで問題解決を図るコミュニケーション場面で、相手からの質問を理解し、適切に答えたり自己表現したりすることができる。 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習の課題を見つけ、主体的に取り組もうとする。 			
<p>授業の概要</p> <p>既習の基礎的な語彙や文法知識を生かし、スペイン語での言語活動に取り組む。</p>			
<p>授業計画</p> <p>授業は教科書“Aula Internacional Plus 1”の後半を中心に行います。</p> <p>第1回：前期の復習、現在形、動詞Gustar、時間の副詞等</p> <p>第2回：再帰動詞2、日常生活の会話、作文</p> <p>第3回：自分の趣味について話す、自由時間の活動、動詞、前置詞</p> <p>第4回：レストランで注文をする、Me gustaría +動詞の原形</p> <p>第5回：自分の国とスペインの習慣の比較、無主語の文章、“En España se come”、“Los japoneses comen”</p> <p>第6回：Mi lugar favorito es Lo que más me gusta es ...</p> <p>第7回：現在完了 自分の経験を伝える、聞く</p> <p>第8回：関係代名詞、Tengo un amigo que vive en Madrid.</p> <p>第9回：Cuando+現在形、Si+現在形</p> <p>第10回：復習、会話1</p> <p>第11回：動詞saber、poder、conocer</p> <p>第12回：点過去、伝記、ダリの人生</p> <p>第13回：線過去、過去の習慣</p>			

第14回：線過去と点過去の使い方

第15回：学習内容の確認

※上記の計画は目安です。学生のニーズとレベルに応じて内容が変わることがあります。

テキスト

Jaime Corpas, Eva Garcia , Agustin Gardenia "Aula Internacional Plus 1" (Difusión)
9788418032189

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

「学習内容の確認」40%+「毎回の授業での言語活動の成果・小テストや作文等」40%+「授業への積極的な態度等」20%

授業科目名：スペイン語IVa	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：鼓 宗
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①受講生は自分自身や身の回りのことについて説明ができる。</p> <p>②「外食する」や「道を尋ねる」といった日常的場面で必要なコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>③ 自らの学習の課題を見つけ、主体的に取り組もうとする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現実のコミュニケーションの場面で初歩的なスペイン語を使う能力を養うこと。一年次で習得した基本的な会話能力をさらに高め、豊富な語彙力と表現力をもって、自由に意見交換できる会話力をつける。</p> <p>昨年度インテンシヴクラスに登録していなかった人でも、実践的なスペイン語の力を積極的に伸ばしていきたいという強い意欲のある人は大いに歓迎します。</p> <p>授業は会話形式であります。教師と学生の活発なやりとりを通して実践的な語学力が身につくはずです。</p> <p>スペインとラテンアメリカの文化紹介は重要な役割を果たします。映像教材を頻繁に用いる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、スペイン語基礎会話の紹介</p> <p>第2回：挨拶と自己紹介・世界のスペイン語</p> <p>第3回：動詞llamarse、ser、vivir、Trabajar・場所：Las Ramblas, Barcelona (España)</p> <p>第4回：近所のことや家のことを話す・トピック：スペイン語の曲</p> <p>第5回：動詞 estar, hay ・場所：Ciudad de México (México)</p> <p>第6回：中間評価と復習（第1課～第5課）・小レポートI</p> <p>第7回：動詞 ir, viajar, poder, preferir, querer・トピック：有名なスペイン語話者</p> <p>第8回：好みや願望について話します・トピック：人生を楽しむスペイン人</p> <p>第9回：前置詞・場所：Buenos Aires (Argentina)</p> <p>第10回：中間評価と復習（第6課～第9課）・小レポートII</p>			

第11回：形容詞・家族の紹介

第12回：不規則活用する動詞・トピック：スペイン人は朝何時に起きますか？

第13回：代名動詞の使用・トピック：スペインの”タパス”

第14回：日常について話す・場所：Bilbao (España)

第15回：学習内容の確認

テキスト

JESÚS ESTEBAN Y MARINA GARCÍA 『Frecuencias A1』 (Editorial Edinumen) 978-84-917
90-49-5

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

クラス参加，グループ作業の成果等 30%

小レポート 40%

学習内容の確認 30%

授業科目名：スペイン語IVb	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：鼓 宗
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①自分自身の過去の体験や現在の事柄についてスペイン語で話すことができる。</p> <p>②日常生活で使われるスペイン語を理解し、コミュニケーションができる。</p> <p>③ 自らの学習の課題を見つけ、主体的に取り組もうとする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現実のコミュニケーションの場面で初歩的なスペイン語を使う能力を養うこと。一年次で習得した基本的な会話能力をさらに高め、豊富な語彙力と表現力をもって、自由に意見交換できる会話力をつける。</p> <p>昨年度インテンシヴクラスに登録していなかった人でも、実践的なスペイン語の力を積極的に伸ばしていきたいという強い意欲のある人は大いに歓迎します。</p> <p>授業は会話形式であります。教師と学生の活発なやりとりを通して実践的な語学力が身につくはずです。</p> <p>スペインとラテンアメリカの文化紹介は重要な役割を果たします。映像教材を頻繁に用いる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：スペイン語基礎会話の復習</p> <p>第2回：好みや趣味について話す・トピック：自由時間</p> <p>第3回：動詞gustar、encantar、interesar・トピック：スペインの“Menú del Día”</p> <p>第4回：計画や義務について話したり尋ねたりする・場所：El parque nacional de los Picos de Europa (España)</p> <p>第5回：tener que+不定詞；querer+不定詞；ir a+不定詞・トピック：スペインでの年末年始の過ごし方</p> <p>第6回：中間評価と復習（第1課～第5課）・小レポートI</p> <p>第7回：直接目的人称代名詞と間接目的人称代名詞・トピック：現代美術</p> <p>第8回：体調や気分について尋ねたり話したりする・トピック：スペイン語でアドバイスを提供できる方法</p>			

第9回：許可を求める・トピック:スペインの”dieta mediterránea”

第10回：中間評価と復習（第6課～第9課）・小レポートII

第11回：現在完了・場所: El salar de Uyuni (Bolivia)

第12回：過去の時を表す表現・トピック:昔と今、スペインの変化

第13回：命令形・トピック:スペインを旅する

第14回：動詞 ser, estar, tener, hay ・トピック:スペインのサッカー

第15回：学習内容の確認

テキスト

JESÚS ESTEBAN Y MARINA GARCÍA 『Frecuencias A1』 (Editorial Edinumen) 978-84-917
90-49-5

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

クラス参加, グループ作業の成果等 30%

小レポート 40%

学習内容の確認 30%

授業科目名：中国語 I a	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1 単 位	担当教員名：小嶋 美由紀
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
教科書で学んだ知識を使い、簡単な表現を組み立て、日常なことばのやりとりができるようになることを目指す。			
授業の概要			
教科書の構成に従って授業を進行させ、中国語の発音の基礎を学び、中国語の文の基本的な構造を学び、常用される表現の機能を学ぶ。			
第14回目に実施する期末テスト以外に、中間テストを実施する。中間テストの実施予定時期等については第1回目の授業時に担当者が告知する。			
授業計画			
テキストの内容に沿って、発音練習、会話練習、文法説明、内容をアレンジした会話練習を中心に、練習問題を活用しながら、授業を進めます。			
春学期は第1課から第9課まで学習します。			
第1回：1課「はじめの一步」声調と母音、反復練習、「発音して覚えましょう」			
第2回：2課「つぎの一步」子音と鼻母音、反復練習、「発音して覚えましょう」、前課の復習			
第3回：3課「そのつぎの一步」軽声と声調変化、反復練習、「発音し覚えましょう」、前課の復習			
第4回：4課「さらなる一步」数の言い方と数を使う表現、基本の数、年齢、値段、時刻、日付、曜日			
第5回：第5課“我喝咖啡。” 新出単語の説明、短文読解、ポイント(代名詞、動詞“是”、主語+動詞+目的語、疑問詞疑問文)、練習問題			
第6回：第6課“我也姓林。” 新出単語の説明、短文読解、ポイント(副詞“也”“不”“都”、“呢”“吗”“吧”の疑問文)、練習問題			
第7回：第7課 新出単語の説明、短文読解、ポイント(省略疑問文、副詞“也”“不”“都”と文中の位置、疑問文“吗”、疑問文“吧”)、練習問題			
第8回：第5課～第7課の復習			
第9回：中間テスト(ここまでのまとめ) 実施予定			
第10回：8 課“我有一个姐姐。” 新出単語の説明、本文(発音、反復練習、内容把握)			
第11回：8 課 本文の復習と発音練習、ポイント(反復疑問文、量詞、名詞述語文、比較文)、練習問題			
第12回：9 課“你家离学校远吗?” 新出単語の説明、本文(発音、反復練習、内容把握)			

第13回：9課本文の復習と発音練習、ポイント(介詞“离”“从”“到”、時刻(時点)と文中での位置、時間の長さ(時量)と文中での位置、連動文)、練習問題

第14回：期末テスト(春学期のまとめ)

第15回：春学期のふり返り、フィードバック、補足

*第14回目の期末テスト以外に、中間テストを実施します。

テキスト

張軼欧・塩山正純・奥村佳代子 『初級中国語 会話編(改訂版)』 金星堂

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

授業への参加態度、授業中のパフォーマンス、随時行われる小テストの成績なども成績評価の対象とする。

授業科目名：中国語 I b	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1 単 位	担当教員名：小嶋 美由紀
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教科書で学んだ知識を使い、簡単な表現を組み立て、日常なことばのやりとりができるようになることを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教科書の構成に従って授業を進行させ、中国語の発音の基礎を学び、中国語の文の基本的な構造を学び、常用される表現の機能を学ぶ。</p> <p>第14回目に実施する期末テスト以外に、中間テストを実施する。中間テストの実施予定時期等については第1回目の授業時に担当者が告知する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>テキストの内容に沿って、発音練習、会話練習、文法説明、内容をアレンジした会話練習を中心に、練習問題を活用しながら、授業を進めます。</p> <p>秋学期は春学期の内容を復習を適宜組み込みながら、第10課から第14課までの内容を学習します。</p> <p>第1回：第10 課 “你在哪儿打工?” 単語表(新出単語の説明)、本文(発音、反復練習、内容把握)</p> <p>第2回：第10 課 本文の復習と発音練習、ポイント(介詞“在”、二重目的語をとる文、数量補語、存在と所在を表す表現“有”“在”、助動詞“想”)、練習問題</p> <p>第3回：第11 課 “我昨天买了一本《关西漫步》。” 単語表(新出単語の説明)、本文(発音、反復練習、内容把握)</p> <p>第4回：第11 課 本文の復習と発音練習、ポイント(完了・実現を表す“了”、結果補語、動詞の重ね型、進行を表す表現、経験を表す“过”)、練習問題</p> <p>第5回：第12 課 “你会游泳吗?” 単語表(新出単語の説明)、本文(発音、反復練習、内容把握)</p> <p>第6回：第12 課 本文の復習と発音練習、ポイント(方位詞、持続を表す助詞“着”、助動詞“会”、“能”“可以”、変化を表す“了”、修飾語と被修飾語をつなぐ“的”)、練習問題</p> <p>第7回：第10課～第12課の復習</p> <p>第8回：中間テスト(ここまでのまとめ) 実施予定</p> <p>第9回：第13 課 “你胃口很大。” 単語表(新出単語の説明)、本文(発音、反復練習、内容把握)</p> <p>第10回：第13 課 本文の復習と発音練習、ポイント(介詞“把”、方向補語、主述述語文、使役動詞“让”、可能補語)、練習問題</p> <p>第11回：第14 課 “你去的太晚了吧。” 単語表(新出単語の説明)、本文(発音、反復練習、内容把握)</p>			

)

第12回：第14課 本文の復習と発音練習、ポイント(受け身、様態補語、“是…的”構文、近未来表現、副詞“又”と“再”)、練習問題

第13回：第13課と第14課の復習

第14回：期末テスト(秋学期のまとめ)

第15回：秋学期のふり返り、フィードバック、補足

*第14回目の期末テスト以外に、中間テストを実施します。

テキスト

張軼欧・塩山正純・奥村佳代子 『初級中国語 会話編(改訂版)』 金星堂

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

授業への参加態度、授業中のパフォーマンス、随時行われる小テストの成績なども成績評価の対象とする。

授業科目名：中国語Ⅱa	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：小嶋 美由紀
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>短文読解を通じた文法理解に基づいて、初歩的な文法を身につける。さらに、そこから中国語でコミュニケーションするための「読み、書き、聴き、話す」基礎力を身につけることを目標とします。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中国語でコミュニケーションするための「読み、書き、聴き、話す」基礎を学習します。第14回目に実施する期末テスト以外に、中間テストを実施する。中間テストの実施予定時期等については第1回目の授業時に担当者が告知する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>テキストの内容に沿って、発音練習、短文読解、文法説明、内容をアレンジした会話練習を中心に、練習問題を活用しながら、授業を進めます。</p> <p>春学期は第1課から第9課まで学習します。</p> <p>第1回：第1課「はじめの一步」声調と母音、反復練習、「発音して覚えましょう」他</p> <p>第2回：第2課「つぎの一步」子音と鼻母音、反復練習、「発音して覚えましょう」他、前課の復習</p> <p>第3回：第3課「そのつぎの一步」轻声と声調変化、反復練習、「発音し覚えましょう」他、前課の復習</p> <p>第4回：第4課「さらなる一步」数の言い方と数を使う表現、基本の数、年齢、値段、時刻、日付、曜日</p> <p>第5回：第5課“你们早上吃什么？” 新出単語の説明、短文読解、ポイント(代名詞、動詞“是”、主語+動詞+目的語、疑問詞疑問文)、練習問題</p> <p>第6回：第6課“我叫林玲。” 新出単語の説明、短文読解、ポイント(副詞“也”“不”“都”、“呢”“吗”“吧”の疑問文)、練習問題</p> <p>第7回：7課“我家在西安。” 新出単語の説明、短文読解、ポイント(“的”の省略、所在と存在・所有を表す表現、形容詞述語文、場所を表す代名詞、選択疑問文)、練習問題</p> <p>第8回：第5課～第7課の復習</p> <p>第9回：中間テスト(ここまでのまとめ) 実施予定</p> <p>第10回：8課“我今年18岁。” 新出単語の説明、短文読解</p> <p>第11回：8課“我今年18岁。” ポイント(名詞述語文、量詞、比較文、反復疑問文)、練習問題</p>			

第12回：9課 “我家离学校很近。” 新出単語の説明、短文読解

第13回：9課 “我家离学校很近。” ポイント(介詞“?” “从” “到”、連動文、時点・時量と文中での位置)、練習問題

第14回：期末テスト(春学期のまとめ)

第15回：春学期の振り返り、フィードバック、補足

*第14回目の期末テスト以外に、中間テストを実施します。

テキスト

張軼欧・塩山正純・奥村佳代子 『初級中国語 講読編(改訂版)』 金星堂

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

授業への参加態度、授業中のパフォーマンス、随時行われる小テストの成績なども成績評価の対象とする。

授業科目名：中国語Ⅱb	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：小嶋 美由紀
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>短文読解を通じた文法理解に基づいて、初歩的な文法を身につける。さらに、そこから中国語でコミュニケーションするための「読み、書き、聴き、話す」基礎力を身につけることを目標とします。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中国語でコミュニケーションするための「読み、書き、聴き、話す」基礎を学習します。第14回目に実施する期末テスト以外に、中間テストを実施する。中間テストの実施予定時期等については第1回目の授業時に担当者が告知する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>テキストの内容に沿って、発音練習、会話練習、文法説明、内容をアレンジした会話練習を中心に、練習問題を活用しながら、授業を進めます。</p> <p>秋学期は春学期の内容を復習を適宜組み込みながら、第10課から第14課までの内容を学習します。</p> <p>第1回：第10課 “我在私塾打工。” 新出単語の説明、短文読解 (文法・関連する言語文化の説明、発音・会話練習... 以下毎回このスタイルで)</p> <p>第2回：第10課 “我在私塾打工。” ポイント(介詞“在”、二重目的語、数量補語、助動詞“想”)、練習問題</p> <p>第3回：第11課 “我昨天买了一本《?西漫步》。” 新出単語の説明、短文読解</p> <p>第4回：第11課 “我昨天买了一本《?西漫步》。” ポイント(進行を表す表現、完了・実現を表す“了”、結果補語、経験を表す“?”、動詞の重ね型)、練習問題</p> <p>第5回：第12課 “我的爱好是游泳。” 新出単語の説明、短文読解</p> <p>第6回：第12課 “我的爱好是游泳。” ポイント(習得・能力・許可を表す助動詞、変化を表す“了”、方位詞、持続を表す“着”、修飾語と被修飾語をつなぐ“的”)、練習問題</p> <p>第7回：第10課～第12課の復習</p> <p>第8回：中間テスト(ここまでのまとめ) 実施予定</p> <p>第9回：第13課 “我胃口特别好。” 新出単語の説明、短文読解</p> <p>第10回：第13課 “我胃口特别好。” ポイント(方向補語、可能補語、使役動詞“?”、主述語文、介詞“把”)、練習問題とその応用</p> <p>第11回：第14課 “我又被老师批了?” 新出単語の説明、短文読解</p>			

第12回：第14課 “我又被老师批了。” ポイント(様態補語、副詞“又”と“再”、“是…的”構文、受け身表現、近未来表現)、練習問題とその応用

第13回：第13課と14課の復習

第14回：期末テスト(秋学期のまとめ)

第15回：秋学期の振り返り、フィードバック、補足

*第14回目の期末テスト以外に、中間テストを実施します。

テキスト

張軼欧・塩山正純・奥村佳代子 『初級中国語 講読編(改訂版)』 金星堂

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

授業への参加態度、授業中のパフォーマンス、随時行われる小テストの成績なども成績評価の対象とする。

授業科目名：中国語Ⅲa	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：小嶋 美由紀
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1)初級で学んだ文法の復習をすることで基礎をしっかりと固めると同時に、よりレベルアップした中級の文法も身につける。</p> <p>(2)読む・聞く・書く・話すなどのさまざまなモードで基本的なコミュニケーションを行えるようにする。</p>			
授業の概要			
<p>教科書の構成に従って授業を進行させ、中国語の発音の基礎を学び、中国語の文の基本的な構造を学び、常用される表現の機能を学ぶ。</p> <p>第14回目に実施する期末テスト以外に、中間テストを実施する。中間テストの実施予定時期等については第1回目の授業時に担当者が告知する。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：第1課（新出語句、新出文法、テキストの朗読および訳）、（使役動詞、“怎么”、“怎么+動詞”の用法）			
第3回：第1課の復習および応用練習			
第4回：第2課（語気を和らげる方法、動詞+不了、達成を表す“上”の用法）			
第5回：第2課の復習および応用練習題			
第6回：第3課（“这么”+形容詞、～“多了”、“越～越～”の用法）			
第7回：第3課の復習および応用練習			
第8回：第1課～第3課の復習、中間テスト（ここまでのまとめ）実施予定			
第9回：第4課（語気助詞“嘛”、“不就是～吗”、“基本上”の用法）			
第10回：第4課の復習および応用練習			
第11回：第5課（A是A、しかし～、列挙の“都”、“可能”の用法）			
第12回：第5課の復習および応用練習			
第13回：第6課（積極的な姿勢を表す“来”、“～就行（了）”、反語の“什么”の用法）			
第14回：第6課の復習、期末テスト（春学期のまとめ）（60分）			
第15回：春学期の振り返り、フィードバック、補足			
*第14回目の期末テスト以外に、中間テストを実施します。			

テキスト

李軼倫 『日中文化Q&A』 金星堂 978-4-7647-0727-6

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

授業への参加態度、授業中のパフォーマンス、随時行われる小テストの成績なども成績評価の対象とする。

授業科目名：中国語Ⅲb	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：小嶋 美由紀
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1) 3aに引き続き、初級で学んだ文法の復習をすることで基礎をしっかりと固めると同時に、よりレベルアップした中級の文法も身につける。</p> <p>(2) 読む・聞く・書く・話すなどのさまざまなモードで基本的なコミュニケーションを行えるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教科書の構成に従って授業を進行させ、中国語の発音の基礎を学び、中国語の文の基本的な構造を学び、常用される表現の機能を学ぶ。</p> <p>第14回目に実施する期末テスト以外に、中間テストを実施する。中間テストの実施予定時期等については第1回目の授業時に担当者が告知する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：春学期内容の復習</p> <p>第2回：第7課（“像～一样”、“動詞+起来”、“～的话”の用法）</p> <p>第3回：第7課の復習および応用練習</p> <p>第4回：第8課（“原来”、“到底”、離合動詞の説明）</p> <p>第5回：第8課の復習および応用練習</p> <p>第6回：第9課（“会～（的）”、“别说～（的）”、有+名詞+修飾語の用法）</p> <p>第7回：第9課の復習および応用練習</p> <p>第8回：第7課～第9課の復習、中間テスト（ここまでのまとめ）実施予定</p> <p>第9回：第10課（“总觉得”、“不会吧”、“也许”の用法）</p> <p>第10回：第10課の復習および応用練習</p> <p>第11回：第11課（“（都）怪～”、“要不然”、“～就～”の用法）</p> <p>第12回：第11課の復習および応用練習</p> <p>第13回：第12課（“一会儿”、“挺～（的）”、“确实”の用法）</p> <p>第14回：第12課の復習、期末テスト（秋学期のまとめ）（60分）</p> <p>第15回：秋学期の振り返り、フィードバック、補足</p> <p>*第14回目の期末テスト以外に、中間テストを実施します。</p>			
テキスト			

李軼倫 『日中文化Q&A』 金星堂 978-4-7647-0727-6

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

授業への参加態度、授業中のパフォーマンス、随時行われる小テストの成績なども成績評価の対象とする。

授業科目名：中国語IVa	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：郭 楊
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1)現代中国語の文型をひとつとおり理解し、それを用いて文を組み立てることができるようにする。</p> <p>(2)とりわけ読み・書きのスキルを中心に中級レベルを獲得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中国語Ⅰ、Ⅱabで学習した基本的文法を再度復習しながら、より高度な中国語の総合力を身につける。</p> <p>第14回目に実施する期末テスト以外に、中間テストを実施する。中間テストの実施予定時期等については第1回目の授業時に担当者が告知する。</p>			
<p>第1回：オリエンテーション（成績評価の方法、授業指針、連絡方法など）、第1課 [中国人为什么“爆买”?] 新出語句、文法ポイント（推量・推測を表す助動詞“会”「～だろう、～のはずだ」、 “并”「別に；その上」、 “不是～，而是…” 「～ではなく、…だ」）</p> <p>第2回：第1課 文法、本文、練習問題</p> <p>第3回：第2課 [中国人为什么不习惯分开付账?] 新出語句、文法ポイント（接続詞“既然”「～である以上」、 “尽管”「～にもかかわらず」、 “相反”「逆に」）</p> <p>第4回：第2課 文法、本文、練習問題</p> <p>第5回：第1，2課の復習、第3課 [中国人为什么说话声音大?] 新出語句、文法ポイント（“对～来说”「～にとって」、 “只要”「～さえすれば…」、 “如果～就…”「もし～ならば…」）</p> <p>第6回：第3課 文法、本文、練習問題</p> <p>第7回：中間テスト（ここまでのまとめ）実施予定</p> <p>第8回：第4課 [为什么不懂礼仪的中国人很多?] 文法ポイント（“连～也…”「～さえも…」、 “除了～之外”「～を除いて、～のほか」、 “与～相比”「～に</p> <p>第9回：第4課 文法、本文、練習問題</p> <p>第10回：第3，4課の復習、第5課 [日本人太敏感，还是中国人太钝感?] 新出語句、文法ポイント（“不用说”「言うまでもない、～どころか」、 “总之”「とにかく、要するに」、 “则”「～と比較して…は」）</p>			

第11回：第5課 文法、本文、練習問題

第12回：第6課 [为什么中国的仿冒产品这么多?] 新出語句、文法ポイントの学習（“像～一样” 「まるで～のようだ」、「随着」 「～につれて、～とともに」、「通过」 「～を通じて、～によって」）

第13回：第6課 文法、本文、練習問題、第5、6課の復習

第14回：期末テスト（春学期のまとめ）

第15回：春学期のふり返り、フィードバック、総復習

*第14回目の期末テスト以外に、中間テストを実施します。

テキスト

李鉄倫 『そうだったんだ！中国 慧眼看中国』 金星堂 978-4-7647-0721-4

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

授業への参加態度、授業中のパフォーマンス、随時行われる小テストの成績なども成績評価の対象とする。

授業科目名：中国語IVb	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：郭 楊
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1)現代中国語の文型をひとつとおり理解し、それを用いて文を組み立てることができるようにする。</p> <p>(2)とりわけ読み・書きのスキルを中心に中級レベルを獲得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中国語Ⅰ、Ⅱabで学習した基本的文法を再度復習しながら、より高度な中国語の総合力を身につける。</p> <p>第14回目に実施する期末テスト以外に、中間テストを実施する。中間テストの実施予定時期等については第1回目の授業時に担当者が告知する。</p>			
<p>第1回：春学期の復習，第7課 [中国人在家里不说“谢谢”是真的吗?] 新出語句、文法ポイント（“即使～也…” “たとえ～としても”、“无论～也…” “～にかかわらず…、～であろうと…”、反語表現）</p> <p>第2回：第7課 文法、本文、練習問題</p> <p>第3回：第8課 [中国人为什么总是找借口?] 新出語句、文法ポイント（“而且” “しかも、それに”、“反而” “かえって、逆に”、“不但～还…” “～ばかりでなく …、～のみならず…”）</p> <p>第4回：第8課 文法、本文、練習問題</p> <p>第5回：第7、8課の復習、第9課 [在吃饭的习惯上中国人与日本人有什么不同?] 新出語句、文法ポイント（“之所以～，是因为…” “～なのは…だからだ”、“根据” “～によって、～に基づいて”、“至少” “少なくとも、せめて”）</p> <p>第6回：第9課 文法、本文、練習問題</p> <p>第7回：中間テスト（ここまでのまとめ）実施予定</p> <p>第8回：第10課 [为什么中国人什么都问?] 文法ポイント（“令人～” “人に～させる”、“不得不” “～せざるを得ない、～するほかない”、“无所谓” “どうでもよい、意に介さない”）</p> <p>第9回：第10課 文法、本文、練習問題</p> <p>第10回：第9、10課の復習、第11課 [中国人特别重视亲情是真的吗?] 新出語句、文法ポイント（“几乎” “ほとんど、ほぼ”、“简直” “まるで、全く”、“甚至” “甚だしくは、ひいては、～さえ”）</p> <p>第11回：第11課 文法、本文、練習問題</p>			

第12回：第12課 [中国人対日本到底怎么看?] 新出語句、文法ポイントの学習 (“受(到)～(的) 青睐” 「～に好かれている」、「作为」 「～として」、「不免」 「～を免れない、どうしても～になる」)

第13回：第12課 文法、本文、練習問題、第11, 12課の復習

第14回：期末テスト (秋学期のまとめ)

第15回：秋学期のふり返り、フィードバック、総復習

*第14回目の期末テスト以外に、中間テストを実施します。

テキスト

李鉄倫 『そうだったんだ! 中国 慧眼看中国』 金星堂 978-4-7647-0721-4

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

授業への参加態度、授業中のパフォーマンス、随時行われる小テストの成績なども成績評価の対象とする。

授業科目名：朝鮮語Ⅲa	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：高橋 学
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点 朝鮮語による基礎的コミュニケーション能力を修得する。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 読み書き能力の向上、および平易な日常会話が可能な口頭運用能力を修得する。</p> <p>③主体的な態度の観点 能動的な受講態度で授業に臨む。</p>			
<p>授業計画</p> <p>テキストの学習進度は、おおよそ以下の通りです。</p> <p>第1回：第1課 (어휘, 문형연습1)</p> <p>第2回：第1課 (문형연습2)</p> <p>第3回：第1課 (문형연습3)</p> <p>第4回：第1課 (말하기)</p> <p>第5回：第1課 (읽기, 듣기)</p> <p>第6回：第1課 (쓰기)</p> <p>第7回：第1課 (JUMP PAGE)</p> <p>第8回：第3課 (어휘, 문형연습1)</p> <p>第9回：第3課 (어휘, 문형연습2)</p> <p>第10回：第3課 (말하기)</p> <p>第11回：第3課 (읽기)</p> <p>第12回：第3課 (듣기)</p> <p>第13回：第3課 (쓰기)</p> <p>第14回：第3課 (JUMP PAGE, 한국문화)</p> <p>第15回：学習内容の確認</p>			
<p>授業の概要</p> <p>1年次に修得した朝鮮語の基礎的能力をベースに、テキストの奇数課を用いて実用会話を中心とした学習を行います。</p>			
テキスト			

『New Easy Korean for Foreigners 2B』 (한글파크)
参考書・参考資料等 『パスポート朝鮮語小辞典 朝和+和朝』 (白水社)
学生に対する評価 定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。 小テスト80%、授業参加への積極性20%(予習・復習・受講態度など)を目安とする。

授業科目名：朝鮮語Ⅲb	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：高橋 学
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点 朝鮮語による基礎的コミュニケーション能力を修得する。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 読み書き能力の向上、および平易な日常会話が可能な口頭運用能力を修得する。</p> <p>③主体的な態度の観点 能動的な受講態度で授業に臨む。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>朝鮮語3aに引き続き、テキストの奇数課を用いて実用会話を中心とした学習を行います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>テキストの学習進度は、おおよそ以下の通りです。</p> <p>第1回：第5課（어휘, 문형연습1） 第2回：第5課（문형연습2） 第3回：第5課（문형연습3） 第4回：第5課（말하기） 第5回：第5課（읽기, 듣기） 第6回：第5課（쓰기） 第7回：第5課（JUMP PAGE, 한국문화） 第8回：第7課（어휘, 문형연습1） 第9回：第7課（문형연습2） 第10回：第7課（문형연습3） 第11回：第7課（말하기） 第12回：第7課（읽기, 듣기） 第13回：第7課（쓰기） 第14回：第7課（JUMP PAGE） 第15回：学習内容の確認</p>			
<p>テキスト</p> <p>『New Easy Korean for Foreigners 2B』 (한글파크)</p>			

参考書・参考資料等

『パスポート朝鮮語小辞典 朝和+和朝』（白水社）

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

小テスト80%、授業参加への積極性20%（予習・復習・受講態度など）を目安とする。

授業科目名：朝鮮語IVa	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：松岡 雄太
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知能・技能の観点 「読み・書き・話し・聴き」の4技能の向上。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 日常会話、比較的簡単な読み物の理解を可能にする。</p> <p>③主体的な態度の観点 能動的な受講態度で授業に臨む。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>1年次に修得した朝鮮語の基礎的能力をベースに、テキストの偶数課を用いて実用会話を中心とした学習を行います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>テキストの学習進度は、おおよそ以下の通りです。</p> <p>第1回：第2課 (어휘, 문형연습1)</p> <p>第2回：第2課 (문형연습2)</p> <p>第3回：第2課 (문형연습3)</p> <p>第4回：第2課 (말하기)</p> <p>第5回：第2課 (읽기, 듣기)</p> <p>第6回：第2課 (쓰기)</p> <p>第7回：第2課 (JUMP PAGE)</p> <p>第8回：第4課 (어휘, 문형연습1)</p> <p>第9回：第4課 (문형연습2)</p> <p>第10回：第4課 (문형연습3)</p> <p>第11回：第4課 (말하기)</p> <p>第12回：第4課 (읽기)</p> <p>第13回：第4課 (듣기, 쓰기)</p> <p>第14回：第4課 (종합연습)</p> <p>第15回：学習内容の確認</p>			
テキスト			

『New Easy Korean for Foreigners 2B』 (한글파크)
参考書・参考資料等 『パスポート朝鮮語小辞典 朝和+和朝』 (白水社)
学生に対する評価 定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。 小テスト80%、授業参加への積極性20% (予習・復習・受講態度など) を目安とする。

授業科目名：朝鮮語IVb	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：1単 位	担当教員名：松岡 雄太
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知能・技能の観点 「読み・書き・話し・聴き」の4技能の向上。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 日常会話、比較的簡単な読み物の理解を可能にする。</p> <p>③主体的な態度の観点 能動的な受講態度で授業に臨む。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>朝鮮語4aに引き続き、テキストの偶数課を用いて実用会話を中心とした学習を行います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>テキストの学習進度は以下の通りです。</p> <p>第1回：第6課 (어휘, 문형연습1)</p> <p>第2回：第6課 (문형연습2)</p> <p>第3回：第6課 (문형연습3)</p> <p>第4回：第6課 (말하기)</p> <p>第5回：第6課 (읽기, 듣기)</p> <p>第6回：第6課 (쓰기)</p> <p>第7回：第6課 (JUMP PAGE)</p> <p>第8回：第8課 (어휘, 문형연습1)</p> <p>第9回：第8課 (문형연습2)</p> <p>第10回：第8課 (말하기)</p> <p>第11回：第8課 (읽기)</p> <p>第12回：第8課 (듣기)</p> <p>第13回：第8課 (쓰기)</p> <p>第14回：第8課 (종합연습)</p> <p>第15回：学習内容の確認</p>			
<p>テキスト</p> <p>『New Easy Korean for Foreigners 2B』 (한글파크)</p>			

参考書・参考資料等

『パスポート朝鮮語小辞典 朝和+和朝』（白水社）

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

小テスト80%、授業参加への積極性20%（予習・復習・受講態度など）を目安とする。

授業科目名：活用法を見聞するAI・データサイエンス	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単位	担当教員名：矢田 勝俊、松本 渉、森田 亜矢子、原弘明、二階堂 善弘、片山直也、村上 啓介、佐野 加奈絵、岡本 哲和、水本 篤、河野 和宏、安室 喜弘、藤本 和士、村田 忠彦、石橋 健
			担当形態： 単独・クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIやデータサイエンスの意味と価値が理解できる。 ・AIやデータサイエンスにおけるデータ分析の方法が理解できる。 ・AIやデータサイエンスが様々な分野で広く活用されていることが理解できる。 <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIやデータサイエンスにおけるデータ分析の方法を説明できる。 ・AIやデータサイエンス技術が様々な分野と結びついて活用されることの重要性を説明できる。 ・AIやデータサイエンス技術が利活用される中で生じる社会問題について説明できる。 <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容を振り返り、自身の専門分野におけるAIやデータサイエンスの意味を考えることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>人工知能（AI）・データサイエンスを活用して新しい知見を見出すには、適切なアルゴリズムを用いて科学的手法に基づいたデータ分析が必要である。また、AIやデータサイエンス技術は、従来の特定の技術領域から様々な分野へと活用の場を広げている。この講義では、様々な専門分野におけるAI・データサイエンス技術の活用事例をリレー形式で紹介する。さらに、これらの技術の進歩によって生じる社会的問題を取り上げ、利活用上の留意事項についても説明する。</p>			

授業計画

- ・オンデマンド配信で実施する
- ・毎回、授業毎に授業資料の配布、小テスト、質問受付を関大LMSを通じて行う
- ・原則、毎週「時間割の月曜日・15時」に資料の配布、小テスト、質問の受付を開始し、ちょうど1週間後の15時に終了する
- ・小テストを未受験、または提出未完了の場合は欠席扱いとする
- ・授業を4回以上欠席した場合、小テストの総点に関係なく、単位認定を行わない

第1回：AI・データサイエンスとは（ビジネスデータサイエンス学部 矢田勝俊）

第2回：「社会調査データから現代社会を読み解く」（総合情報学部 松本渉）

第3回：「見えないものを測る～心の数値化～」（人間健康学部 森田亜矢子）

第4回：「AI・データサイエンスと法律の対応：自動運転と法、資本市場の高頻度取引、健康増進型保険を中心に」（法学部 原弘明）

第5回：「漢文データの利用と自動解析」（文学部 二階堂善弘）

第6回：「データサイエンスにおける時系列データの役割について」（経済学部 片山直也）

第7回：「無数に存在する解の中から最適な解を見つけ出す」（商学部 村上啓介）

第8回：「スポーツ・健康科学を支えるデータサイエンス」（人間健康学部 佐野加奈絵）

第9回：「政策のためのデータ・データのための政策」（政策創造学部 岡本哲和）

第10回：「外国語学習・教育とAI・データサイエンス」（外国語学部 水本篤）

第11回：「シミュレーションで、成り行きの世界から選択する未来へ」（非常勤講師 村田忠彦）

第12回：「データ・AIを安全に活用するために：データ保護およびデータ・AI利活用における留意事項」（社会安全学部 河野和宏）

第13回：「都市環境とAI・データサイエンス」（環境都市工学部 安室喜弘）

第14回：「化学におけるAI・データサイエンス」（化学生命工学部 藤本和士）

第15回：「センサー技術を使った人の行動データの収集と活用、まとめ」（ビジネスデータサイエンス学部 石橋健）

テキスト

なし

参考書・参考資料等

松原望・松本渉 『Excelではじめる社会調査データ分析』 丸善出版 978-4-621-08165-5

濱田悦生・狩野 裕 『データサイエンスの基礎』 講談社 978-4-06-517000-7

林知己夫 『データの科学』 朝倉書店 978-4-254-12724-9

溝口理一郎・石田亨 『人工知能』 オーム社 978-4-274-13200-1

松尾豊 『人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの』 角川Epub選書 978-4-04-080020-2

松本渉 『社会調査の方法論』 丸善出版 978-4-621-30631-4

数理人材育成協会 『データサイエンスリテラシー モデルカリキュラム準拠』 培風館

978-4-563-01613-5

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

小テスト100%

小テストを未受験、または提出未完了の場合は欠席扱いとする。

なお、4回以上欠席した場合、小テストの総点に関係なく、単位認定を行わないので注意すること。

授業科目名：活用法を体験するAI・データサイエンス	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単位	担当教員名：林 勲、宋 財 滋、土田 昭司、高井 啓二、 尾崎 平、藤本 和土、本 仲 君子、小尻 智子、徳丸 正孝、荻野 正樹、前田 裕、前 泰志、山西 良典、 森田 雅也、石橋 健
			担当形態： 単独・クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 ①知識・技能の観点 ・AIやデータサイエンスにおけるデータの取得法や解析法が理解できる。 ・AIやデータサイエンスに関する基礎から応用までの研究事例が理解できる。 ②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 AIとデータサイエンスにおけるデータ処理の手順、意味、価値を説明できる。 ③主体的な態度の観点 ・講義内容を振り返り、自身の専門分野におけるAIやデータサイエンスの活用を考えることができる。			
授業の概要 人工知能（AI）やデータサイエンス（DS）の技術は、文系・理系を問わず様々な分野で利活用が進んでおり、大学生の誰もが身につけるもっとも基礎的なスキルと考えられている。この講義では、膨大なデータを適切なアルゴリズムを用いて統計学的に扱う方法と、機械学習、ソフトコンピューティング、ニューラルネットワーク・ディープラーニングといったAI特有のデータ処理技法を、様々な実例を通して実践的に学ぶ。 なお、講義では可能な範囲で演習を取り入れながら、AI・データサイエンスを体験する。			
授業計画 ・オンデマンド配信で実施する ・毎回、授業毎に授業資料の配布、小テスト、質問受付を関大LMSを通じて行う ・原則、毎週「時間割の月曜日・15時」に資料の配布、小テスト、質問の受付を開始し、ちょうど1週間後の15時に終了する			

- ・小テストを未受験、または提出未完了の場合は欠席扱いとする
- ・授業を4回以上欠席した場合、小テストの総点に関係なく、単位認定を行わない

第1回：AI・データサイエンスとは（総合情報学部 林勲）

第2回：DSの基礎を学ぶ「政治現象を解明する」（総合情報学部 宋財汰）

第3回：DSの基礎を学ぶ「心の動きを学ぶには」（社会安全学部 土田昭司）

第4回：DSの研究を知る「人の行動を理解しビジネスへ」（ビジネスデータサイエンス学部 高井啓二）

第5回：DSの研究を知る「都市の現状を知り気候変動の適応策を考えるためのデータサイエンス」（環境都市工学部 尾崎平）

第6回：DSの研究を知る「化学分野への応用」（化学生命工学部 藤本和士）

第7回：DSの研究を知る「計測物性工学 meets データサイエンス」（システム理工学部 本仲君子）

第8回：AIの基礎を学ぶ「データから知識を考える」（システム理工学部 小尻智子）

第9回：AIの基礎を学ぶ「あいまいな知識を考える」（システム理工学部 徳丸正孝）

第10回：AIの基礎を学ぶ「行動の学習機能を学ぶ」（総合情報学部 荻野正樹）

第11回：AIの基礎を学ぶ「脳の学習機能を学ぶ」（システム理工学部 前田裕）

第12回：AIの研究を知る「ロボットへの応用」（システム理工学部 前 泰志）

第13回：AIの研究を知る「AI・データサイエンスで読み解くエンタテインメントの魅力」（総合情報学部 山西良典）

第14回：AIの研究を知る「AIが働き方を決める：あなたはそれでいい？」（社会学部 森田雅也）

第15回：まとめ（ビジネスデータサイエンス学部 石橋 健）

テキスト

なし

参考書・参考資料等

松原望・松本渉 『Excelではじめる社会調査データ分析』 丸善出版 978-4-621-08165-5

濱田悦生・狩野 裕 『データサイエンスの基礎』 講談社 978-4-06-517000-7

林知己夫 『データの科学』 朝倉書店 978-4-254-12724-9

溝口理一郎・石田亨 『人工知能』 オーム社 978-4-274-13200-1

松尾豊 『人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの』 角川Epub選書
978-4-04-080020-2

松本渉 『社会調査の方法論』 丸善出版 978-4-621-30631-4

数理人材育成協会 『データサイエンスリテラシー モデルカリキュラム準拠』 培風館
978-4-563-01613-5

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

小テスト100%

- ・小テストを未受験、または提出未完了の場合は欠席扱いとする
- ・授業を4回以上欠席した場合、小テストの総点に関係なく、単位認定を行わない

授業科目名：基礎からの情報処理	教員の免許状取得のための選択科目	単位数：2単位	担当教員名：清光 英成、本村 康哲、河野 和宏、平田 孝志、森 暁洋、伊藤 信也、申 賢哲
			担当形態： 単独・クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作・情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点 ICTの成り立ちとしくみについて知る</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 新しいICTの利用について考える</p> <p>③主体的な態度の観点 日頃利用しているICTについて文献やメディアから情報を得る</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ICTの成り立ちとしくみを知ることで、将来のよりよい利用につなげることを目的としています。計算のために開発されたコンピュータがどのようにして今日の姿になったのか、歴史を振り返りながら、しくみと目的の変遷について説明します。また、今日のICT利用に注意すべきことについても言及します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（授業の進め方と評価方法）</p> <p>第2回：計算道具と計算機の歴史</p> <p>第3回：計算からメディアへ</p> <p>第4回：ハードウェアとソフトウェア</p> <p>第5回：インターネットの成り立ち</p> <p>第6回：コンピュータネットワーク</p> <p>第7回：コンピューティングの今日</p> <p>第8回：数値の表現</p> <p>第9回：文字の表現</p> <p>第10回：音声と画像の表現</p> <p>第11回：データ圧縮</p> <p>第12回：コンピュータ・セキュリティ</p> <p>第13回：情報検索とデータベース</p>			

第14回：情報倫理と知的財産権

第15回：到達度の確認

テキスト

PDF資料を適宜配布します

参考書・参考資料等

授業中に紹介します

学生に対する評価

定期試験を行わず、到達度の確認(筆記による学力確認)で評価する。

■到達度の確認 (100%)

※履修者数が多数になった場合には、成績評価方法を「定期試験(16週目)」に変更することがあります。成績評価方法が変更になった場合は、インフォメーションシステム等で連絡します。

授業科目名：基礎プログラミング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数：2単 位	担当教員名：稲葉 優文
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 変数・ループ・条件分岐・関数など基本的なプログラミングに必要な概念の理解</p> <p>(2) 基本的なソースコードを作成する能力の習得</p> <p>(3) 与えられたソースコードを読み、その意味を理解する能力の習得</p>			
<p>授業の概要</p> <p>はじめに</p> <p>コンピュータは今や現代社会の基礎を成している。小は腕時計から大はジェット旅客機までコンピュータを内蔵しない機器はほとんど無い。そのため、どのような技術者にとっても、コンピュータのプログラムを理解・作成する能力が不可欠になりつつある。</p> <p>内容</p> <p>本講義では、コンピュータをプログラムするための基礎的な概念を学習し、実際のプログラム作成を通してプログラミング技術の習得を行う。そのため本講義では、携帯用機器からスーパーコンピュータまでカバーし、現在実用的に用いられている様々なプログラミング言語の元祖でもあるC言語を学習する。</p> <p>目的</p> <p>本講義の目的は、演習を通してC言語によるプログラミング技法を学び、「コンピュータをプログラムして問題を解決する能力」を習得することである。従って、C言語を用いて簡単なオリジナルのプログラムを作成できるようになることを目標とし、そのために必要な基本概念と手法を講義と演習を通して習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>本講義では、C言語の中でもっとも基本的な内容を中心に学習する。これらの内容はC言語に限らず全てのプログラミング言語に共通する概念である。なお、この科目では春学期に履修する「情報リテラシー実習」の内容を習得していることを前提として授業を進める。</p> <p>第1回：コンピュータプログラミングの概念とプログラミング言語・コンパイラ</p> <p>第2回：C言語プログラミングの基礎、変数の概念、コンソール出力</p> <p>第3回：変数、定数、演算子、コンソール入力</p>			

第4回：条件分岐，複文と単文

第5回：反復処理(forループ)

第6回：反復処理(whileループ)

第7回：高度な反復処理(多重ループ，無限ループなど)

第8回：配列

第9回：文字列

第10回：2次元配列

第11回：関数の概念と定義，引数とローカル変数

第12回：関数の戻り値，voidキーワード，値渡しと参照渡し，配列引数

第13回：プロトタイプ宣言，ヘッダファイル，プリプロセッサ命令，キャスト

第14回：構造体

第15回：総括と到達度の確認

テキスト

授業ではオンラインでプリントを配布するため，教科書は指定しない。

参考書・参考資料等

柴田望洋 新・明解C言語 入門編 ソフトバンククリエイティブ 教科書ではないが，教科書に準ずる参考書として扱う。

C言語については非常に多くの参考書が市販されており，それぞれに特色がある。各自で自分にあつた参考書を選ぶことを推奨する。

学生に対する評価

定期試験（筆記試験）の成績と平常成績で総合評価する。

授業期間中に行う小テスト(40%)，定期試験(30%)，レポート・出席(30%)を組み合わせ，プログラムを理解する力，およびプログラムを作成する力を評価する。

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中 潤一
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点 教育の本質、そして西洋と日本の教育の理論と歴史について学ぶことができる。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 家庭や社会、学校の意義を理解することができ、教員としての思考力・判断力・表現力を育成することができる。</p> <p>③主体的な態度の観点 教育の現代的課題を思想的・歴史的視点から自ら学ぶことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>将来教員を目指す人々に必要となる理論的・歴史的な教育の本質を修得することをめざす。さらに現在我々が直面している教育の諸問題について考えたい。①教育の目的・意義では、人間にとっての教育の本質を考察する。②西洋教育思想では西洋における著名な哲学者の教育理念を紹介することによって、人間形成がどのように考えられてきたかを考察する。③日本教育史では主に近代（明治以降）の教育の歴史が、さまざまな理念のもとでどのように展開したかを講義する。④現代の教育問題では、道德教育、学級経営を例に考察し、国際化の進む現代における教育の課題を思想的・歴史的視点から考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育の目的：人間になぜ教育が必要なのかを理論的・本質的に考察する。</p> <p>第2回：教育と文化：こどもが文化から知識や規範を学習する意味を考察する。</p> <p>第3回：西洋の教育思想Ⅰ（ソクラテス・プラトン）：児童生徒の良さを引き出す教育方法を考察する。</p> <p>第4回：西洋の教育思想Ⅱ（ロック・コメニウス）：家庭教育の役割や一斉教授について考察する。</p> <p>第5回：西洋の教育思想Ⅲ（ルソー）：こども中心主義の教育観について考察する。</p> <p>第6回：西洋の教育思想Ⅳ（ペスタロッチー）：直観教授の学習理論や家庭教育の意義について考察する。</p> <p>第7回：西洋の教育思想Ⅴ（ヘルバルト）：4段階教授法の学習理論について考察する。</p> <p>第8回：西洋の教育思想Ⅵ（デューイ）：問題解決学習の現代的意義について考察する。</p> <p>第9回：幼児期の教育（フレーベル・モンテッソーリー）：幼児教育の思想、および家庭と学校との役割について考察する。</p>			

第10回：日本の教育Ⅰ（明治）：学制以降の教育史を考察し、近代公教育成立を理解する。
第11回：日本の教育Ⅱ（大正・昭和）：現代における家庭・社会・学校の諸問題を理解する。
第12回：現代の教育問題Ⅰ 道徳教育：道徳教育・いじめ問題を思想的・歴史的視点から考察する。
第13回：現代の教育問題Ⅱ 学級経営と学校文化：学級経営の方法と原理を考察する。
第14回：現代の教育問題Ⅲ カリキュラム：カリキュラム編成を思想的・歴史的視点から考察する。
第15回：教育愛と教師倫理：教師を取り巻く問題と教師のどうあるべき姿について考察する。

テキスト

田中潤一・田中達也 『新版 未来を拓く教育』 ナカニシヤ出版 978-4-7795-1675-7

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

講義内小レポート40%・講義内小テスト60%

なお3分の2以上の出席を要する。

授業科目名： 教職概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池上 徹
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>教職をめざす学生として、(1)教師をめぐる様々な問題を理解し、(2)教師という職業を複眼的に見つめることができ、(3)教職を歴史的な経緯や時代の変化の中で捉えて考え、(4)主体的に教職志望としての認識や自覚および態度が身につくようになることをめざす。</p>			
授業の概要			
<p>教育職員免許法における「教職の意義等に関する科目」に相当する講義として、教師になるために最低限必要な考え方や知識について学ぶ。教師(あるいは教員、教諭)という職業の理想像は人によって異なるだろう。しかし、今重要なことの一つは、教師の現実を見つめ、教師に何ができるのか、そして何ができないのか、を探ることにある。理想だけを見つめ現実から遊離してしまっては専門職としての責務は務まらない。受講生それぞれの教職の理想像は校種や教科による違いも加味しながら在学4年間を通じて形成していくものでもあるが、本講義はその入口として、教師とはなにか?を考えるきっかけとしたい。</p>			
授業計画			
第1回：講義を始めるに当たって（学習者から教授者への意識転換・1章）			
第2回：教師の多忙（教師の現実・7章）			
第3回：協働を求められる教師（チーム学校の一員である教師・6章）			
第4回：学校化社会の問題と教師（近代学校成立と学校教育の今日的課題・2章）			
第5回：教育をめぐる環境変化（時代の変革期における教師・4章）			
第6回：教育言説と教師（専門職として必要となる冷静な分析・13章）			
第7回：教師と学級経営（教師としての授業や学級づくりへの心構え・10章）			
第8回：管理職と教師の連携（教育改革に成功した学校の実践例・5章）			
第9回：日本とマルタの教育の比較（教職に求められる役割の違い・9章）			
第10回：子どもを委ねられるということ（教職における専門性・11章）			
第11回：地域と連携する教師（国内外における地域連携の実践例・12章）			
第12回：中学校の養護教諭の実践（中学校における人権教育・14章）			
第13回：教師としての身分（教師に関する法律、サービス・8章）			
第14回：教師のライフコース（教職への進路選択・15章、3章）			
第15回：到達度の確認			

テキスト

津田徹・広岡義之編著『教職論（ミネルヴァ教職専門シリーズ3）』ミネルヴァ書房 978-4-623-08956-7

伊藤良高編『ポケット教育小六法 2025年版』晃洋書房

大学は主体的に学ぶところであり、テキストは講義を受けるにあたっての最低限のものと位置づける。講義ではテキストを前提にプラスアルファの内容とする予定である。

参考書・参考資料等

広田照幸・伊藤茂樹『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター

西林克彦編『教師をめざす』新曜社

青木久子他編『新しい教育原理 教育学への視座』萌文書林

河野銀子・藤田由美子編『新版 教育社会とジェンダー』学文社

学生に対する評価

定期試験を行わず、到達度の確認(筆記による学力確認)と平常成績で総合評価する。

第2回から第13回まで教育法規を中心に関大LMSによる小テストを実施する予定である。各回1問1点計5点の小テストを行ってこれを60点とし、論述する到達度の確認を40点として総合評価とする。欠席しても自らの学びのためにLMSの小テストを受験することは奨励するが、加点はしない。

履修者数が多数になった場合には、成績評価方法を「定期試験（16週目）」に変更する場合があります、その際はインフォメーションシステム等で連絡する。

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 広瀬 義徳
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
① 教育制度に関する基礎的な知識を体系的に習得する。 ② 教育制度に関する歴史、改革の動向や課題について具体的に理解する。			
授業の概要			
この授業は、教育制度に関する体系的な基礎知識を得ることを目的に基本的に教科書に沿って講義し、補足や解説を加えていきます。			
教職を目指す学生をはじめ教育制度に興味のある受講生は、教育制度の原理や歴史、教育の現状と課題、そして教育改革の動向について具体的に学びましょう。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 子どもの状況と教育制度・政策を知る			
第2回：保育・幼児教育			
第3回：小学校			
第4回：中学校			
第5回：高等学校			
第6回：各種学校・専修学校			
第7回：大学			
第8回：義務教育			
第9回：教職員と安全配慮義務			
第10回：学校経営と学校安全			
第11回：学校と家庭・地域との連携			
第12回：教育行財政			
第13回：多様な学びの場			
第14回：特別支援教育			
第15回：到達度確認とまとめ			
テキスト			
藤井穂高 編著 『教育の法と制度』 ミネルヴァ書房			

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験を行わず、到達度の確認(筆記による学力確認)と平常成績で総合評価する。

授業への貢献度(30%)、到達度の確認(70%)の割合で総合評価します。

授業科目名： 人権教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 多賀 太
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権思想の歴史と現状、人権問題の現状と歴史的・社会的背景、人権問題解決への取り組みの歴史と現状を理解する <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な社会問題を人権の観点から読み解く能力を伸ばす <p>③主体的な態度の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ内容を日々接する社会問題に引きつけて考える態度を培う 			
<p>授業の概要</p> <p>「人権」は現代の国際社会における喫緊の課題であり、政治や教育のみならず近年ではビジネスの領域でも最重要課題となりつつある。しかし、「人権が大切である」ことが頭ではわかっているとしても、「人権の大切さが実感できているか」「人権の大切さを人にうまく伝えられるか」と問われると、困惑してしまう人は多いのではないだろうか。現在の生活にそれほど問題を抱えていなければ、人権問題は「自分とは関係のないこと」のように思えるかもしれない。しかし、そうしてさしたる問題も抱えずに日々の生活を送れているということ自体が、その人の人権が守られていることを表している。人権について学ぶことは、単に差別の防止や解消の方法を考えるだけでなく、私たちの生活や社会のあり方を、人権という「めがね」を通してとらえ直し、改めて理解しようとする作業でもある。本講義では、様々な人権問題をトピックとして取り上げながら、人権という思想や私たちの社会のあり方について理解を深めつつ、人権問題解決の方向性や人権教育のあり方について考えてみたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：導入－講義の目標と計画、評価方法</p> <p>第2回：人権思想の歴史と国際化</p> <p>第3回：性の多様性と人権</p> <p>第4回：ジェンダーと人権</p> <p>第5回：暴力と人権</p> <p>第6回：メディアと人権</p> <p>第7回：子どもの人権</p>			

第8回：障がいと人権

第9回：人種と人権

第10回：エスニシティと人権

第11回：外国人をめぐる人権問題

第12回：部落問題と人権(1)－現状と部落解放教育

第13回：部落問題と人権(2)－歴史と解放への取り組み

第14回：労働・ビジネスと人権

第15回：人権教育の視点と方法

テキスト

指定しない。毎回、レジュメと資料を配付する。

参考書・参考資料等

森 実『知っていますか？人権教育一問一答』（解放出版社）ISBN:9784759282818

その他に各回テーマに直結する参考文献を授業の中で適宜指示する。

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

成績評価割合：LMSを使用した各回の小課題(授業への出席が前提)(40%)、LMSを使用した中間確認テスト(25%)、LMSを使用した最終確認テスト(35%)

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村上 祐介
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。そのため、以下の各目標を掲げる。</p> <p>(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。</p> <p>(2) 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的な知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>将来教育に携わる学生が教育について学ぶ科目の一つである。幼児・児童・生徒がその潜在的能力を実現していくためには周囲の大人の支援が重要である。教育現場でその任を担う者として彼らの特質をよく理解するため、その発達、学習の過程や支援方法、動機付け、人格と適応、教育評価、学級集団などについて発達心理学・学習心理学・人格心理学などの基礎的な心理学的知見をもとに学んでいく。また、特別支援教育についても取り上げる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：人間発達の理解（1）：教育における発達理解の意義</p> <p>第2回：人間発達の理解（2）：発達の原理</p> <p>第3回：乳幼児期の発達</p> <p>第4回：児童期の発達</p> <p>第5回：青年期の発達</p> <p>第6回：学習理論（1）：行動論的アプローチ</p> <p>第7回：学習理論（2）：認知論的アプローチ</p> <p>第8回：学習・授業の形態</p> <p>第9回：学習と記憶（1）：記憶理論の基礎</p> <p>第10回：学習と記憶（2）：記憶理論の応用</p> <p>第11回：動機づけ</p> <p>第12回：学級集団づくり</p> <p>第13回：発達障害の諸相</p> <p>第14回：発達障害児への支援</p>			

第15回：教育評価の在り方

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

藤田 哲也（編著）（2021）. 絶対役立つ教育心理学[第2版] ミネルヴァ書房
--

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・小テスト80%（40%×2回）・ミニツツペーパー20% |
|---|

※履修者数，進捗状況に応じて，成績評価方法を変更することがあります。

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小田 浩伸
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。</p> <p>②幼稚園、小中学校、高等学校、特別支援学校に在籍している幼児児童生徒の障害及び特別な教育的ニーズについての理解を深める。</p> <p>③特別支援学校、特別支援学級、通級による指導の教育内容と特色を理解する。</p> <p>④様々な障害のある幼児児童生徒のアセスメント法や具体的な指導・支援の方法に関する基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>⑤インクルーシブ教育システムの構築に向けた合理的配慮、基礎的環境整備のあり方、交流及び共同学習の進め方について理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別支援教育とは、幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものであり、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校・学級において実施されるものである。本講義では、幼稚園、小中学校、高等学校、特別支援学校における校内支援体制の構築、特別支援教育コーディネーターの役割、保護者や関係機関との連携、個別の指導計画の作成と活用等の特別支援教育の仕組みとあり方について解説する。また、発達障害や様々な障害等に応じたアセスメントの方法や、具体的な指導・支援について実践例を紹介する。さらに、インクルーシブ教育システムの構築に向けた合理的配慮と基礎的環境整備のあり方について理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別支援教育について（あゆみ・定義・法令・制度改正等）</p> <p>第2回：多様なニーズのある幼児児童生徒の理解と支援について（発達障害・愛着形成の課題、認知面の課題等）</p> <p>第3回：特別支援学校・特別支援学級・通級による指導の教育内容と特色について</p> <p>第4回：通常の学級における特別支援教育について（ユニバーサルデザインの視点を活かした授業づくり・集団づくり）</p> <p>第5回：自立活動の基本的な考え方と展開について（根拠に基づくアセスメントからの確かな指導・支援）</p> <p>第6回：「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」の作成と活用について（切れ目のない継続した支援及び関係機関との連携のツールとして）</p>			

第7回：インクルーシブ教育システムの構築に向けた展開について（合理的配慮・基礎的環境整備・交流及び共同学習のあり方）

第8回：特別支援教育コーディネーターの役割と特別支援学校のセンター的機能の活用について（校内支援体制、保護者及び関係機関との連携）

テキスト

文部科学省 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）

開隆堂出版株式会社 978-4-304-04229-4

文部科学省 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（高等部） 開隆堂出版株式会

社 978-4-86371-525-7

文部科学省 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 開隆堂出版株式会社

978-4-304-04231-7

参考書・参考資料等

廣瀬由美子・石塚謙二（編著） 特別支援教育（アクティベート教育学7）ミネルヴァ書房 9

78-4-623-08537-8

小田浩伸（編著）高等学校における特別支援教育の展開 金子書房 978-4-7608-9553-3

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（4回提出の小テスト）で総合評価する。

1. 小レポート（1日2回×2日の4回）100%、25点×4回（100点）

授業科目名： カリキュラム開発論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中 潤一
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程が子どもの発達・成長に対してもつ意義を理解する。 ・教育課程を編成する際の基礎・基本となる考え方を知る。 ・カリキュラム・マネジメントを教育行政・学校経営の側面から考える。 			
授業の概要			
<p>本講義では教育課程編成の重要性を、理論・歴史的背景・法的基礎から修得することを目的とする。カリキュラムを編成する際、どのような思想を基礎として編成されるのか、またどのような法的基盤を根拠として成り立っているのか等を多角的な視点から学ぶ。本講義では、こうした背景的な知識を学ぶとともに、教科・道徳・外国語活動・総合的な学修の時間・特別活動の授業作りについても全体的な視野から考察する。また近年大きな課題となっているカリキュラム・マネジメントについても考える。「主体的・対話的で深い学び」等児童が主体となる授業運営や、学校経営の立場からのカリキュラム編成について考察する。</p>			
授業計画			
第1回：教育課程の役割と学習指導要領			
第2回：教育課程編成と社会との関わり（「社会に開かれた教育課程」）			
第3回：教育課程編成の原則（1）－ 児童中心主義と学問中心主義			
第4回：教育課程編成の原則（2）－ カリキュラム編成の類型			
第5回：教育課程編成の原則（3）－ 具体的なカリキュラム編成、授業時数の運用			
第6回：カリキュラム編成の方法（1）－ 教科教育と学力形成の問題			
第7回：カリキュラム編成の方法（2）－ 特別活動と道徳の時間			
第8回：カリキュラム・マネジメント（1）－ 主体的・対話的で深い学び、PDCAサイクル等			
第9回：カリキュラム・マネジメント（2）－ 教育行政・学校経営と教育内容			
第10回：教育課程の歴史（1）－ 戦後から高度経済成長期まで			
第11回：教育課程の歴史（2）－ 昭和52年から平成10年まで			
第12回：教育課程の歴史（3）－ 平成20年、30年の学習指導要領とその意義			
第13回：教材開発と教育課程編成－豊かな授業をするための準備			
第14回：教育課程の評価			
第15回：教員の資質向上と教育課程編成			

定期試験

テキスト

- ・ 田中潤一『教育課程の理論と方法』北斗書房、平成28年
- ・ 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・ 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

授業内小テスト30%、定期試験40%、小レポート30%

授業科目名： 総合的な学習の時間 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 黒上 晴夫 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点 総合的な学習（探究）の時間の成り立ちとその背景を知り、それにふさわしい内容・指導方法についてのイメージをもつ</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 学習者（授業対象）に、どのような資質・能力を身につけさせたいか、そのためにどのような指導方法を採用すればよいのかについて、判断できるようになる</p> <p>③主体的な態度の観点 指導法についての学習の計画をたて、体験的活動について遂行しながらモニタリングを行って改善し、結果をさまざまな事柄と関連付けることができる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>総合的な学習（高等学校においては「探究」）の時間において、以下についての具体的イメージと方略的知識を得ることをめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような目的で設置されている学習領域か（「総合的な学習の時間」が生み出された経緯から、それ以前の教育課程の何を改革しようとしている「時間」か、なぜそれが「時間」という名称か、どのような探究課題が期待されているか、それはOECD等が示すグローバルスタンダードに沿っていると言えるのか、などについて考えをもつ） ・そこではどのような資質・能力を身につけさせるのか（総合的な学習・探究の時間固有の探究プロセスを通して身につけさせ発揮させる資質・能力と、教科の見方・考え方とのリンクによって生み出す学習事項や学習活動において身につけさせ発揮させる資質・能力の関係や育成法、それらを総合して年計に生かすことの意義やその方法についての考えを持つ） ・その背景となる学習観はどのようなものか（デューイから構成主義、社会的構成主義につながる学習観の変遷、生活科創成時の「新しい学習観」、現行学習指導要領における「学びに向かう力・人間性」について学び、総合的な学習・探究の時間に収斂する学習観と探究プロセスの関連についての考えを持つ） ・資質・能力の育成のために、どのようなはたらきかけを行うか（総合的な学習・探究の時間で育成する資質・能力を育成するためには、「学習者を主語にする」主体的な学習、協働的な学習を实践させる必要があること、一方でそのための自己調整的な学習スキルを育成する必要 			

があることについて、考えをもつ)

- ・どのような学習経験を積みませ、どのように総括させるべきか（上記を踏まえて、年間を通してどのような「活動目標」のもとで、計画的ではあるがダイナミックな学習経験を積みませる必要があること、それと同時並行で自身が辿った探究のプロセスをメタ認知し、修正していく自己調整的な学習を促す必要があること、について考えを持つ)

- ・それらに教師はどのようにかかわるべきか（上記のような学習観に沿った指導をするために、教師はどのような役割をもつべきか、探究課題の設定、学習活動のデザイン、各探究プロセスにおける支援、人材や場所等の学習環境の設定、児童生徒のパフォーマンスの評価などに細分化して、考えをもつ)

授業計画

第1回：総合的な学習（探究）の時間における学習観 [1-1 総合的な学習の意義について学習観の視点から理解する。／1-2 それを実現するための学習目標・学習内容の設定の仕方等について理解する。／2-1 学習観を反映させる年間学習計画の在り方について理解する。／2-2 児童生徒自身が探究を進めることを促す年間学習計画と単元計画の関連について理解する]

- ・デューイの児童中心主義
- ・構成主義，社会的構成主義
- ・「学びに向かう力」と総合的な学習（探究）の時間

第2回：探究のプロセスと学習展開 [2-1 研究開発学校（山梨県立笛吹高校）および、授業者が審査委員長を務める全国高校生探究コンテストの優秀校（兵庫県立長田高校）における総合的な探究の時間の年間計画について知り、探究がどのようなプロセスで行われるかについて理解する。また、現行学習指導要領に改訂された際、総合的な学習・探究の時間における探究課題を資質・能力の第一の柱と関連付け、どのような知識・技能を身につけさせたいか年間計画の中に書き込むことが期待されるようになったこと、それはこの時間の学習を充実させるために不可欠であることについて学ぶ。／2-2 高等学校においては一般に、1年間の総合的な探究の時間そのものが1つの大単元となっている場合も多いことについて知り、上記高等学校の年間計画の中から探究プロセスのサイクルを見つけ、その意味を多層的に理解する。一方、年間を通した大きなサイクルだけでなく、探究プロセスの各段階でサイクルをとらえる必要もあるため、これらの高校の単元プランを分析することを通して、このサイクルについてのイメージをもち、サイクルをまわすための具体的な支援方法について学ぶ。]

- ・[課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現]のサイクル
- ・事例の中で、サイクルをみつける

第3回：課題の設定（課題を作ってみる） [2-2 第一の目標を各学校で定める目標に落とすプロセスについて理解し、それら目標に沿う探究課題および各学習者の課題設定について、以下2つの方法（自己SWOT，質問・疑問マトリクス）によって立案し、「探究するのにふさわしい」課題にブラッシュアップする方法について理解する。／3-1 学習者が設定した探究課題について、探究のプロセスを見通しながら、「探究マップ」（黒上晴夫 2018）におけるどのルートを辿ることが可能かを検討し、課題を修正すると同時に詳細化する方法について理解する。]

- ・自己SWOT／新聞斜め読み
- ・質問・疑問マトリクス

第4回：情報の収集 [2・2 学習者自身が設定した課題をもとに、学習者たち自身で（＝主体的・協働的に）課題解決のための情報を収集し整理するプロセスおよびその方法について、（困りごと解決型、問題解決型の2パターンにおける探究プロセスのちがいを意識しながら全国高校生探究コンテスト入賞者の発表ビデオを視聴し、具体的に理解する／3・1 情報収集における「よくある問題点（＝インターネット検索、AIによる情報収集結果をそのまま使う）について議論し、どのようにアプローチすれば、反省的・批判的に収集した情報を扱うことができるか理解する。また、学習者自身による情報収集においてよく用いられるインタビューやアンケートについて、その多様な方法を体験的に理解し、結果を数値化するなど、質的データと量的データの変換方法について学ぶ。]

- ・情報収集の方法
- ・インタビュー、アンケート体験

第5回：情報の分析 [2・2 探究プロセスの肝となる情報の分析プロセスについて、全国高校生探究コンテストの入賞校の事例を類型化することを通して理解し、そのプロセスと単元計画の中に確実にビルトインすることの重要性について学ぶ。また、情報の分析の際に利用可能な「シンキングツール®」（※黒上晴夫の商標）の活用法について知り、情報分析場面において生徒に使わせる際の留意事項について理解する。／3・1 情報の分析における指導事項（探究マップに記載された、「傾向」を多層的に読み取ることの重要性とその方法）について理解する。]

- ・シンキングツール1
- ・属性による傾向のちがいをを見つける

第6回：まとめ [2・2 情報の分析にもとづいて主張をつくり出す方法について知り、さらに自身の主張をシンキングツール®を用いて批判的に見直すとともに、反論を想定して反駁するためのロジックをたて、説得力を生み出す流れを理解する。また、それを単元計画の中に確実にビルトインすることの重要性について学ぶ。／3・1 主張を形成する際に、当初設定した課題とのブレを見直し、シンキングツール®を用いて、探究のプロセス全体を通して一貫した発表スクリプトに仕上げていく流れを理解する。]

- ・シンキングツール2
- ・主張の形成
- ・説得力をどう生み出すか

第7回：表現 [2・2 探究プロセスの最終発表場面のビデオを分析し、（特にポスターセッションに関して）どのようにプレゼンテーションを行わせることが「課題の更新」につながるか、学習指導要領解説に示された探究プロセスのスパイラルの図を意識しながら議論する。その中で、「課題の更新」につながる具体的なしかけやはたらきかけについても、理解する。また、課題の更新においてはオーディエンスがどのように発表に関わるかが極めて重要であること、その関わりによって深い学びが実現することについて理解し、それらを確実に単元計画の中にビルトインすることの重要性を学ぶ。／3・1 発表者がスクリプトを読むのではなく、オーディエンスとインタラクティブに発表できるようにす

るための具体的なノウハウについて理解し、オーディエンスがただ傾聴するのではなく、積極的に発表に関与させるための具体的な方法について、具体的に学ぶ]

- ・ポスターセッションの目的, 方法
- ・発表者の心づもり
- ・オーディエンスの役割

第8回：探究における教師の役割 [2-2 総合的な学習の時間から総合的な探究の時間へのレベルアップの意味を知り、特に総合的な探究の時間においては、学習者の主体的な探究をサポートすることの重要性を、第1回目に学んだ学習観との関連で理解する。その中で、「しかけ」の意味を具体的に理解する。／3-1 学習者の主体的な探究をサポートするための具体的な方法（探究の流れを抽象的に示すこと、学習の進行に合わせて教科の専門性を生かした最適な教員が相談にのって教科の見方・考え方を生かしたアドバイスをすること、専門家との打ち合わせや提供する資料などを通して「しかけ」をすることなど、具体的な手立てについて理解する。／3-2 探究の成果が報告書やプレゼンテーションなど、簡単には評価できない複雑なものであることを知り（総合的な探究の時間の目標にもある「複雑性」の意味を掘り下げつつ）、そのような成果を評価するためのルーブリックの重要性を理解する。また、実際にルーブリックを作成する演習を通して、作成手順や活用方法、ルーブリックの質が学習に大きく影響することについて理解する。]

- ・流れをつくる
- ・相談に乗る
- ・しかけをつくる
- ・複雑なアウトプットの評価
- ・ルーブリック評価とは
- ・ルーブリックの作成から活用まで

テキスト

- ・文部科学省（2023）、「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）」
- ・文部科学省（2023）、「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開」（高校編）

参考書・参考資料等

「中学校学習指導要領」・「高等学校学習指導要領」の最新版及び学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

授業では、毎時間LMSを用いた課題提出やコメント提出を求めている。その質を評価する（比率＝100%）

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中尾 豊喜 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点 学校教育の使命や特別活動の教育的意義を理解することができる。 実社会における諸課題の分析や教材研究を行い、学習指導単元案を作成することができる。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 生徒の学びについて具体的事例を通して考察できる。 場面に応じて模擬授業・指導を行い、指導法について探究し、実践的指導力を身に付ける。</p> <p>③主体的な態度の観点 自主的、実践的に授業に参加し、自らの学修を振り返りとリフレクションから次の学修に活かそうと努める態度を醸成する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生徒を取り巻く社会状況は急激に変化している。グローバル化、情報化、少子高齢化、核家族化や地域社会における人間関係の希薄化などが進行し、生徒たちが社会性や自主性を身に付ける機会は激変している。そのため、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、必要とされる資質・能力を育成することを目指す特別活動は、教育実践としても教師教育（教員養成）の視座からとても重要である。</p> <p>この科目では、中学校・高等学校学習指導要領（平成29・30年告示）に基づき授業を行い、特別活動の学校教育の意義をふまえた実践的な指導力を修得する。具体的材料は現代的な課題である個人と集団の課題、生徒規則の見直し、キャリア観醸成、学校部活動の改革などに焦点を当てる。一方的な講義とせず、相互主体的な話し合いや実践活動を融合させながら指導法を修得するとともに、学校教育の社会的な意義の視座から特別活動の重要性を追究していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、学校教育の目的の確認と特別活動、生徒の自己決定の機会と自己指導能力</p> <p>第2回：特別活動の歴史の変遷、生徒を取り巻く社会的環境の現状と諸課題</p> <p>第3回：特別活動にかかわる指導理論・教育的意義、資質・能力</p> <p>第4回：初等教育との関連性を踏まえた中等教育における特別活動 第1の目標と内容項目</p>			

第5回：生徒心得・生徒規則と生徒手帳の見直し、生徒の自己存在感の感受と意見表明
 第6回：学級活動・ホームルーム活動① 目標・内容、共感的な人間関係、安全・安心な環境の醸成
 第7回：学級活動・ホームルーム活動② 話し合い活動、指導案の作成
 第8回：学級活動・ホームルーム活動③ 指導計画・方法、模擬授業
 第9回：生徒会活動 目標・内容、指導計画、指導上の留意点
 第10回：学校行事 目標・内容、指導計画、指導上の留意点
 第11回：各教科、道徳科、総合的な学習・探究の時間との関連、非認知能力との関係性
 第12回：学校進路指導・キャリア学習、言語指導の充実、特別活動と学校部活動改革との関係性
 第13回：学級活動・ホームルーム活動④ 生徒集会活動・指導計画、模擬指導
 第14回：特別活動と学級経営、生徒指導、評価、人権、世間と社会、エンパシー、私事と公共性
 第15回：特別活動の指導方法の振り返りと整理

テキスト

中尾豊喜 規則と生徒指導 (K.G. りぶれつとNo.52) 関西学院大学出版会 978-4-86283-301-3

参考書・参考資料等

文部科学省 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編 東山書房 978-4-8278-1562-7

文部科学省 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 特別活動編 東京書籍 978-4-487-28635-5

文部科学省 編 生徒指導提要(令和4年12月) 東洋館出版社 978-4-491-05175-8

文部科学省・国立教育政策研究所教育課程開発センター 編 学級・学校文化を創る特別活動(中学校編) 東京書籍 978-4-87730-274-0

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 編 キャリア教育のススメ-小学校・中学校・高等学校における系統的なキャリア教育の推進のために- 東京書籍 978-4-487-80489-4

中尾豊喜 編 総合的な学習の時間・総合的な探求の時間と特別活動の方法 東洋館出版社 978-4-491-04292-3

中尾豊喜 編 こどものキャリア形成 ~保護者・教育者と考える「資質・能力」~ 幻冬舎ルネッサンス新社 978-4-344-92836-7

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

最終確認テスト(70%)

グループワーク等の取り組み態度(30%)

授業科目名： 教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用を含む)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩崎 千晶 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><知識・技能></p> <ul style="list-style-type: none"> 「教育の方法及び技術」に関して授業で取り上げた理論や教育実践事例をもとに、①授業を設計する際に、具体的な学習目標を提示できる。②学習目標に応じた教育方法を選択し、それを用いた理由について説明できる。③学習目標に応じた評価方法を選択し、それを用いた理由について説明できる。 ICTを活用した授業実践の方法や教育事例について説明できる。 <p><思考力・判断力・表現力></p> <p>授業で扱った理論や実践的な知識や技術を基に、自分で授業目標を設定し、それに適した教育方法や評価方法を選択し、授業指導案を作成できる。</p> <p><主体的に取り組む態度></p> <p>質の高い授業を設計するという目的意識をもって、学習課題に主体的に取り組む、学んだことの意義を実感できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この講義では、「学ぶこと」「教えること」の質を高める授業設計について考える。具体的には、「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適で協働的な学び」を実現するために、学習目標をどう設定し、その目標を達成するためにどのような教育方法、評価方法を選択することが望ましいのかについて理論的、実践的に検討する。授業設計に関しては、情報通信技術（ICT）の活用（教育番組の活用、タブレットPC等の授業での活用、オンライン授業の実践等）についても扱う。また授業研究についても言及し、授業の質を向上させるための方法についても検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育方法・技術を考える（教科書：1, 2章）</p> <p>第2回：学力と教授：学習目標，教えることについて考える（教科書3, 6章）</p> <p>第3回：教育内容：学習目標の達成に向け、何を教えるのかを考える（教科書7, 8章1-3節）</p> <p>第4回：教育方法：授業構成（導入・展開・まとめ）を考え、授業案を作成する（教科書7, 8章1-3節）</p>			

第5回：魅力的な授業（1）：動機付けを考える（教科書4，8章4節）

第6回：魅力的な授業（2）：協同学習を考える、ICTツールを使った協同学習を考える（教科書9章）

第7回：ICTを活用した授業を考える（1）：教育番組、映像コンテンツの活用を考える（教科書10章）

第8回：ICTを活用した授業を考える（2）：電子黒板、デジタル教科書の活用を考える（教科書12章）

第9回：ICTを活用した授業を考える（3）：タブレットPCの活用、遠隔・オンライン授業を考える（教科書11,13章）

第10回：ICTを活用した授業を考える（4）：特別な支援を必要とする学習者へのICT活用を考える（教科書15章）

第11回：評価方法：いつ、何のために、どう評価を行うのかを考える、評価におけるICT活用（学習履歴等の教育データの活用）を考える（教科書16章）

第12回：ゲストスピーカーによる講和（教育現場の生の声から学ぶ）

第13回：情報モラル教育：情報モラルの育成、情報セキュリティを考える（教科書5章）

第14回：プログラミング的思考：プログラミング的思考の育成を考える（教科書14章）

第15回：学習環境・授業研究：ICTを活用した校務の推進、ICT支援員など外部人材の活用、学校におけるICT環境の整備、教師の成長を考える（教科書17,18章）

テキスト

岩崎千晶・田中俊也（編） 教育の方法・技術とICT活用：教育工学と教育心理学のコラボレーション 北大路書房 978-4762832420

参考書・参考資料等

1. 文部科学省「中学校学習指導要領」（平成29年3月改訂版）、「高等学校学習指導要領」（平成30年3月改訂版）及びその解説書
2. 佐藤学（2010）『教育の方法』放送大学叢書
3. 稲垣忠、鈴木克明（2015）『授業設計マニュアルVer.2：教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

レポート（60%）

ミニツッペーパーまたはLMSへの書き込み（40%）

授業科目名： メディア教育論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岩崎 千晶
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
①知識・技能の観点 ・ICTを活用したいくつかの授業実践例とその効果と課題について説明できる。			
②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 ・学習目標を達成するために適したICTを選択し、それを活用した授業指導案やワークショップをデザインできる。			
③主体的な態度の観点 ・ICTを活用した教育実践を実施しようとする意欲を高めることができる。			
授業の概要			
<p>この授業では、まずインターネット、コンピュータ、モバイルメディア等のICT (Information and Communication Technology)が学校教育（もしくはその他の教育場面）に導入された背景について学びます。その後、各メディアが教育現場でどのように活用されているのかについて学び、メディアを利用した学習の意義、課題について考えます。また、実際に学習者自身がメディアを利用した教材や授業指導案をデザインする機会を取り入れることで、メディア利用に対する実践的な知を培うことを目指します。</p> <p>授業は単に講義を聞くだけではなく、ワークシートを用いた個人演習、グループ演習など学生の能動的な活動を導入した授業を行います。実際に学習者自身が能動的に学ぶ機会を授業に取り入れることで、理論と実践の往還を促し、理解を深めることを目指します。授業中はグループで考えた意見や個人で考えた意見を発表する機会をふんだんに取り入れます。グループで授業やワークショップ案を作成し、実施することもあります。発言することに対して消極的になる人はいると思いますが、「皆で協力し合い、意見を傾聴する場をつくりあげ、発言を受け入れる場を共に作りあげる」という意識を持って参加してください。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 教育メディア論とは？			
第2回：ICTを活用した教育が導入された背景と授業設計について考える			
第3回：各教科におけるメディアを利用した授業実践について考える			
第4回：情報モラル教育について考える（1）実践、SNSアプリをうまく活用するためのワークシ			

ヨッブ

第5回：情報モラル教育について考える（2）理論

第6回：情報モラル教育のワークショップ準備（企画書作成）

第7回：情報モラル教育のワークショップ準備（教材作成）

第8回：情報モラル教育のワークショップ準備（リハーサル）

第9回：情報モラル教育のワークショップの実施

第10回：プログラミング教育・STEM教育について考える：Scratchを使った簡単なゲーム作成

第11回：ロボット教育のワークショップ準備（企画書作成）

第12回：ロボット教育のワークショップ準備（教材作成）

第13回：ロボット教育のワークショップ準備（リハーサル）

第14回：ロボット教育のワークショップ実施

第15回：ICTを活用した授業設計に置いて配慮すべき点を考える：全授業回のふりかえり

テキスト

稲垣 忠（著, 編集）, 佐藤 和紀（編） ICT活用の理論と実践：DX時代の教師をめざして
北大路書房 978-4762831805

参考書・参考資料等

「中学校学習指導要領」・「高等学校学習指導要領」の最新版及び解説

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

- ① 第一回目のワークショップ実施：20点
- ② 第二回目のワークショップ実施：20点
- ③ ワークシートの提出：30点
- ④ 最終レポート：30点

業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 丸岡 俊之 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①知識・技能の観点 生徒指導の意義や原理を踏まえ、教科活動や道徳教育、特別活動など学校教育全体の中で生徒指導を行うことや、教育相談の考え方について理解している。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等の能力の観点 いじめ、不登校、SNS、児童虐待、職業観・勤労観の醸成等今日的な教育課題に対し最適解を見出し、実践的指導力の基礎を身につけようとする態度。</p> <p>③主体的な態度の観点 生徒指導・進路指導に関する諸課題について自己の考えをまとめ、他者の考えと重ねながら、より良い指導法を見出そうとする。また、先駆的な指導に学ぶ姿勢を持っている。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目は「生徒指導の理論及び方法」「進路指導の理論及び方法」を学ぶことを趣旨としています。教育現場では、児童・生徒の不登校、いじめ、非行などの教育課題やインターネット・携帯電話（SNS）などによる問題行動等があります。こうした課題に対し生徒指導では、児童・生徒理解を基本としながら、発達段階に応じた集団指導や個別指導の在り方、自己指導能力の育成等について学びます。</p> <p>また、進路指導では、子どもたちが生涯を通じた自己の「あり方、生き方」を踏まえ、自ら進路を考えるキャリア教育の視点に立った指導が必要となっています。</p> <p>授業など教科活動だけでなく、学級活動や特別活動をも通じて、指導力を身につけることを目標とします。また、グループワークなどを通じテーマを実践的に学んでいきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生徒指導・進路指導の現状と課題 授業概要・方法、学習・教育目標および到達目標、教科書、参考文献、成績評価および基準等の確認。生徒指導や進路指導にかかる子どもをめぐる現状と課題のデータを紹介し、学習目標を確認。</p> <p>第2回：生徒指導の意義・ねらい・指導の基盤 生徒指導の定義と目的（生徒指導提要）、生徒指導の法制、自己実現と自己指導能力の獲得に向けた実践上の視点。生徒指導マネジメント。</p>			

第3回：生徒指導の体制と組織

チーム学校による生徒指導体制、生徒指導の構造（発達支持的・課題予防的・困難課題対応的生徒指導）、生徒指導の組織と生徒指導主事

第4回：学級経営

学級における児童生徒の発達、集団指導と個別指導、学級集団づくりの3つの柱、学級活動と学級経営

第5回：学校安全・危機管理

学校安全の確保、危機管理、危機対応（防災教育含む）、感染症（コロナウイルス等）対策他

第6回：生徒理解と生徒・教師の関係

子どもの発達段階（発達の特徴、青年期と自我同一性）、生徒理解の方法（生徒観察、心理検査法等）、教師と生徒の関係、教師のリーダーシップ（PM理論）等

第7回：教育相談

学校における教育相談（アセスメント、コンサルテーション、SC,SSWの役割等）、教育相談の技法（傾聴の3条件、カウンセリング技法、療法の種類）等

第8回：不登校

不登校の定義、現状と課題、類別、要因と対策。不登校児童生徒へのアプローチ、不登校予防策の考察。

第9回：いじめ

いじめ防止法制定の経緯といじめの定義、いじめの構造、背景、対応について

第10回：非行・心の健康

非行と態度、少年法の改定、児童相談所等各関係機関の役割と課題、SNS被害と対応、薬物乱用防止等

第11回：人権教育

世界人権宣言、同和問題、子どもの権利条約、人権教育としての取り組み、女性・外国人・障がい者、マイノリティ他

第12回：特別支援教育・発達障害

特別支援教育、障がい者差別解消法と合理的配慮、発達障害の種別と対応・指導法について

第13回：キャリア教育と進路指導

学校から社会への移行の現状と課題、キャリア教育理論（特性因子理論、職業的発達理論）、キャリア教育で育成すべき能力について

第14回：キャリア教育と進路保障

進路保障と人権（公正な採用選考と統一応募用紙）、学校教育と進路指導、多様性の時代とキャリア教育（バウンダリーレス・キャリア）

第15回：カウンセリング機能と進路指導

キャリアカウンセリングの基本機能、キャリアガイダンスの実際、関係機関との連携

テキスト

文部科学省 生徒指導提要（令和4年12月 文部科学省（東洋館出版社）） 9784491051758

・毎授業ごとに適宜プリント資料を配付します。

参考書・参考資料等

河村 茂雄 『生徒指導・進路指導の理論と実際』 図書文化社：2011 9784810015782

高橋 哲夫（編集），藤原 正光（編集），西 君子（編集），仙崎 武（編集），今泉
紀嘉（編集） 『生徒指導の研究—生徒指導・教育相談・進路指導、学級・ホームルーム経営』
教育出版：2009 9784316802466

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。

最終回の課題テスト（40%）、各授業における学生発表、リフレクション課題等（60%）

授業科目名： 教育相談論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村上 祐介 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的な知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的な知識を含む）を身に付ける。そのため、以下の各目標を掲げる。</p> <p>(1) 学校における教育相談の意義と理論を理解する。</p> <p>(2) 教育相談を進める際に必要な基礎的な知識（カウンセリングに関する基礎的な事柄を含む）を理解する。</p> <p>(3) 教育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取組や連携の必要性を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育相談の目的や対象、今日的な課題について概説する。また、開発的・予防的教育相談の実践体系や、カウンセリングの理論・技法を体験的に学ぶ機会を提供する。その他、いじめや虐待等の事案を中心に、保護者や地域の専門機関と「チーム学校」として連携しながら、教育相談を進めて行く際のポイントを具体的に考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育相談の意義と課題（1）：教育相談の目的と対象</p> <p>第2回：教育相談の意義と課題（2）：教育相談の定着に向けて</p> <p>第3回：教育相談に関わる心理学の基礎理論</p> <p>第4回：幼児、児童及び生徒の不応や問題行動及びシグナルの把握</p> <p>第5回：学校教育におけるカウンセリングマインドの意義</p> <p>第6回：カウンセリングの基礎（1）：行動療法</p> <p>第7回：カウンセリングの基礎（2）：認知行動療法とマインドフルネス</p> <p>第8回：カウンセリングの基礎（3）：パーソンセンタード・アプローチ</p> <p>第9回：カウンセリングの技法：受容・傾聴・共感的理解</p> <p>第10回：教育相談の進め方（1）：保護者理解・校務分掌等</p> <p>第11回：教育相談の進め方（2）：いじめ、不登校</p>			

第12回：教育相談の進め方(3)：虐待、非行

第13回：組織的取組みとしての教育相談の実際：計画作成や校内体制の整備

第14回：専門機関(医療・福祉・心理等)との連携(1)：スクールカウンセラー

第15回：専門機関(医療・福祉・心理等)との連携(2)：スクールソーシャルワーカー

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

藤田 哲也(監修)(2017). 絶対役立つ教育相談 ミネルヴァ書房

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

- ・小テスト80%(40%×2回)
- ・ミニツツペーパー20%

※履修者数、進捗状況に応じて、成績評価方法を変更することがあります。

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（中等）	単位数： 2単位	担当教員名：若槻 健、丸岡 俊之 (各教員が単独で15回を担当)			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 1クラス25名程度					
教員の連携・協力体制 教職実践演習の授業の実施にあたっては、「教育の基礎的理解に関する科目等」と「教科に関する専門的事項」の両担当者が参加する「教職課題研究会」において意見交換を行っている。また、改善点などがあれば教職実践演習担当者が参加する「教育実習担当者会議」において、内容や認識の統一を図る。さらに、授業開始後においても、個々の学生が設定した研究テーマやその取り組み状況について担任者は絶えず情報交換を行い、授業の充実を図る。また、授業の中盤には、教育現場での実践経験を有するゲストスピーカーを招き、現場の状況に関する情報や授業等の知識技能を共有することにより学校現場との連携を図る。					
授業のテーマ及び到達目標 ①自身の課題が何であるかを確認し、教育現場で働くための最終準備を行う。 ②学校運営に関わる様々な知識・技能を確認するとともに、学校現場をとりまく今日的課題について考える。 ③効果的な授業計画や授業展開についてICTの活用を含め理解を深めるとともに、実践的指導力を身につける。					
授業の概要 ①4年間の教職課程の履修を全般的に振り返り、受講生の教員としての資質や能力の達成度を確認して、各自の課題を洗い出す。②受講生共有の課題に即したテーマを取り上げ、グループ討論やロールプレイング、事例研究発表などによりケーススタディ方式で検証する。 ③模擬授業の相互評価を通じて実践的指導力を体験的に修得する。 なお、教育委員会及び学校現場で中堅教員として働く現職教員をゲストスピーカーとして招き「子どもの学びと教師の成長」をテーマに教育現場での知識・技能を共有することで学校現場との連携を図る。					
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：受講生による教職課程履修の総括、各自の課題の提示（学習指導、ICTの活用） 第3回：受講生による教職課程履修の総括、各自の課題の提示（生徒指導） 第4回：受講生による教職課程履修の総括、各自の課題の提示（学級経営） 第5回：受講生による教職課程履修の総括、各自の課題の提示（学校経営、保護者対応） 各受講生が、教職課程の履修や教育実習、その他の学内外での活動を通じて学んだことを振り返り、各自					

の課題を提示する。

本学の教職履修カルテ自己評価シートの4つの柱である「教師に必要な4つの能力」のうち「②生徒指導力」（第6回、第7回）、「③マネジメント力」（第8回）、「④コミュニケーション力」（第9回）の3つに基づきテーマを設定し、グループ討論・ロールプレイング・事例研究発表を行う。

第6回：グループ討論・ロールプレイング・事例研究発表（テーマ例）「特別活動（修学旅行・校外学習・体育大会・文化祭・音楽祭・奉仕活動など）」、「特別支援教育」

第7回：グループ討論・ロールプレイング・事例研究発表（テーマ例）「こんなクラスを作りたい」、「ICT教育」、「こんな先生になりたい、なりたくない」、「キャリア教育・進路指導」

第8回：グループ討論・ロールプレイング・事例研究発表（テーマ例）「教育法規（勤務場所を離れての研修、信用失墜行為、守秘義務など）」、「校則、制服（標準服）」、「教員の勤務の実態」、「国際理解」、「清掃活動」

第9回：グループ討論・ロールプレイング・事例研究発表（テーマ例）「学校と地域社会との連携」、「幼小、小中、中高の連携」、「社会人基礎力」、「保護者対応の実際」

第10回：「子どもの学びと教師の成長」をテーマとしたゲストスピーカーによる講演と、学校現場をとりまく課題の検討

本学の教職履修カルテ自己評価シートの4つの柱「教師に必要な4つの能力」のひとつである「①学習指導力」に焦点をあて、教育実習をはじめ、これまで教職課程を履修する中で作成した指導案を持ち寄り、授業研究を行い、改善点を議論する。

第11回：授業研究（1）

教育実習をはじめ、教職課程を履修する中で作成した指導案を持ち寄り、授業の報告を行う。その後、改善点を議論し、ポイントを絞って再度授業を行ってみる。90分の授業で3～5人程度

第12回：授業研究（2）

前時に準ずる。授業者は前時に確認した授業改善点を踏まえた上で、あらかじめ指導案を書き直してくるよう求める。

第13回：授業研究（3）

前時に準ずる。特にこの授業では、教師の指示・発問を検証する。

第14回：授業研究（4）

前時に準ずる。教師の側だけでなく、学習者心理に焦点を当てた考察と模擬授業を展開する。

第15回：講座のまとめ

テキスト

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

中学校・高等学校の最新の学習指導要領及び担当教科等の解説書

他の参考書については、授業の中で指示する。

学生に対する評価

定期試験を行わず、平常試験(小テスト・レポート等)で総合評価する。

レポート・発表など50%、授業内での貢献度・授業態度・研究意欲50%

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。